2004年度

ドイツ語学科シラバス

獨協大学

【シラバスの見方】

「シラバス」は、科目の担当教員が、学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。学生諸君は、シラバスを良く読み、計画的な履修登録をしてください。

ドイツ語学科のシラバスは入学年度により、目次が２種類に分けられています。
＜２００３年度以降入学者用＞と**＜2002年度以前入学者用＞**です。
ご自分の入学年度に該当する部分を参照してください。

シラバスの見方は以下のとおりです。

<table>
<tr><td>① 適用年度＊
（カリキュラム）</td><td colspan="2">② 科目名</td><td>③ 担当者</td></tr>
<tr><td colspan="2">④ ◆講義目的 講義概要

【 春学期 】</td><td colspan="2" rowspan="4">⑦ ◆授業計画
第1週
第2週
第3週
第4週
第5週
第6週
第7週
第8週
第9週
第10週
第11週
第12週</td></tr>
<tr><td colspan="2">⑤ ◆評価方法</td></tr>
<tr><td colspan="2">⑥ ◆テキスト 参考文献</td></tr>
</table>

☆上段は、春学期科目です。

①② 入学年度により科目が異なります
③ 担当教員氏名
④ 授業の目的や講義全体の説明、学生への要望が記載してあります。
⑤ ａ科目は春学期終了時に成績評価が出ます。
ｂ科目と通年科目は秋学期終了時に成績評価が出ます。
⑥ 授業で使用するテキストや参考となる文献が記載してあります
⑦ 学期の授業計画についての欄です。各週ごとに講義するテーマが記載してあります。

<table>
<tr><td>適用年度＊
（カリキュラム）</td><td colspan="2">科目名</td><td>担当者</td></tr>
<tr><td colspan="2">◆講義目的 講義概要

【 秋学期 】</td><td colspan="2" rowspan="4">◆授業計画
第1週
第2週
第3週
第4週
第5週
第6週
第7週
第8週
第9週
第10週
第11週
第12週</td></tr>
<tr><td colspan="2">◆評価方法</td></tr>
<tr><td colspan="2">◆テキスト 参考文献</td></tr>
</table>

☆下段は、秋学期科目です。
各項目については、春学期と同一です

＊その科目が開講されているカリキュラム（入学年度による。）

（例）
適用年度：01・02年度　　科目名＊＊＊　の場合
↓
2001、2002年度入学者＝ 履修することがができる。
2003、2004年度入学者＝ 履修することができない。

目次

＜２００３年度以降入学者用＞

学科基礎科目

ドイツ語Ⅰa･b(総合)	各担当教員	1
ドイツ語Ⅰa･b(基礎)	各担当教員	2
ドイツ語Ⅰa･b(LL)	各担当教員	3
ドイツ語Ⅱa･b(総合)	各担当教員	4
ドイツ語Ⅱa･b(応用)	各担当教員	5
ドイツ語圏入門a･b	各担当教員	6
基礎演習a･b	各担当教員	7

学科専門科目

「Ⅰ　言語･文学」部門

ドイツ語学概論a･b	柿沼 義孝	21
ドイツ文学概論a･b	矢羽々 崇	22
ドイツ語学各論a･b	諏訪 功	23
ドイツ文学各論a･b	酒井 府	24

「Ⅱ　思想･芸術」部門

ドイツ文化史概論a･b	渡部 重美	32
ドイツの思想a･b	(春)松丸 壽雄	33
	(秋)船戸 満之	33
ドイツの音楽a･b	木村 佐千子	34
ドイツの美術a･b	山本 淳	35
ドイツの演劇a･b	越部 暹	36
ドイツ思想･芸術各論a･b	K.O.バイスヴェンガー	37

「Ⅲ　歴史･社会」部門

ドイツ史概論a･b	黒田 多美子	46
ドイツの歴史a･b	増谷 英樹	47
ドイツの社会･事情a･b	大串 紀代子	48
ドイツの地誌･民俗a･b	大串 紀代子	49
ドイツの政治･対外関係a･b	大重 光太郎	50
ドイツの経済a･b	大重 光太郎	51

＜２００２年以前入学者用＞

*[　]の中は2000年度以前入学者用科目名

学科基礎科目

ドイツ語Ⅰ(総合)	各担当教員	1
ドイツ語Ⅰ(基礎)	各担当教員	2
ドイツ語Ⅰ(LL)	各担当教員	3
ドイツ語Ⅱ(総合)	各担当教員	4
ドイツ語Ⅱ(応用)	各担当教員	5
ドイツ語圏入門	各担当教員	6
基礎演習	各担当教員	7

学科共通科目

「ドイツ語」部門

総合ドイツ語Ⅲ	各担当教員	8
ドイツ語Ⅲ（会話）［時事ドイツ語］	D.フュルンケース	9
〃	H.J.トロル	10
〃	M.鮎貝	11
〃	T.マイヤー	12
ドイツ語Ⅲ（作文）［時事ドイツ語］	G.シュミット	13
〃	H.J.トロル	14
上級ドイツ語(会話)	K.O.バイスヴェンガー	15
〃	M.鮎貝	16
〃	T.カーラー	17
上級ドイツ語(作文)	T.マイヤー	18
中世ドイツ語	I.アルブレヒト	19
通訳特殊演習Ⅰ・Ⅱ［通訳特殊演習］	矢羽々 崇	20

学科専門科目

「Ⅰ　言語・文学」部門

ドイツ語学概論	柿沼 義孝	21
ドイツ文学概論	矢羽々 崇	22
ドイツ語学各論	諏訪 功	23
ドイツ文学各論	酒井 府	24
ドイツ語講読(語学)Ⅰ・Ⅱ	木内 基実	25
〃	諏訪 功	26
〃	永岡 敦	27
ドイツ語講読(文学)Ⅰ・Ⅱ	酒井 府	28
〃	柴田 千秋	29
〃	洲崎 恵三	30
〃	関 徹雄	31

「Ⅱ　思想・芸術」部門

ドイツ文化史概論	渡部 重美	32
ドイツの思想	(春)松丸 壽雄	33
	(秋)船戸 満之	33
ドイツの音楽	木村 佐千子	34
ドイツの美術	山本 淳	35
ドイツの演劇	越部 暹	36
ドイツ思想・芸術各論	K.O.バイスヴェンガー	37
ドイツ語講読(思想)Ⅰ・Ⅱ	工藤 達也	38
〃	桜井 より子	39
〃	船戸 満之	40
〃	宮村 重徳	41
ドイツ語講読(芸術)Ⅰ・Ⅱ	木村 佐千子	42
〃	辻本 勝好	43
〃	前田 智	44
〃	山本 淳	45

「Ⅲ　歴史・社会」部門

ドイツ史概論	黒田 多美子	46
ドイツの歴史	増谷 英樹	47
ドイツの社会・事情	大串 紀代子	48
ドイツの地誌・民俗	大串 紀代子	49
ドイツの政治・対外関係	大重 光太郎	50
ドイツの経済	大重 光太郎	51
ドイツ語講読(歴史)Ⅰ・Ⅱ	井村 行子	52
〃	開内 英司	53
〃	増谷 英樹	54
ドイツ語講読(社会)Ⅰ・Ⅱ	飯沼 隆一	55
〃	田島 加奈子	56
〃	林部 圭一	57
〃	本橋 右京	58

ドイツ語学科 英語科目
＜3･4年生用＞
目 次

英語(基礎読解Ⅲ)	金谷 優子	59
〃	佐藤 倫之	60
〃	佐野 裕美子	61
〃	高松 節子	62
英語(基礎作文Ⅲ)	E. ハードスターク	63
〃	石月 正伸	64
〃	佐野 裕美子	65
英語(基礎会話Ⅲ)	L.. K. ハーキンス	66
〃	T. J. フォトス	67
英語(上級読解Ⅲ)	J. ウォールドマン	68
英語(上級作文Ⅲ)	保坂 華子	69
英語(上級会話Ⅲ)	P. ドーレ	70
〃	R. M. ペイン	71
〃	R. ダラム	72
英語(CAEL)	安井 美代子	73

03年度以降（春） 01・02年度	ドイツ語Ⅰa（総合） ドイツ語Ⅰ（総合）	担当者	各担当教員

◆講義目的、講義概要

Erreichen der Reife für die Zertifikatsprüfung;
dabei sollen alle 4 Fertigkeiten weiter gefördert werden, insbesondere die Erweiterung der Fähigkeit zum Alltagsgespräch.

Durcharbeit von Band I der Stufen International

◆ 評価方法

Neben den regelmäßigen schriftlichen Tests nach jeder Lektion eine einheitliche mündliche Prüfung zum Abschluss des Studienjahres

◆テキスト、参考文献

Stufen International Band I (Klett)

◆授業計画

1. Band I: Lektion 1
2. Band I: Lektion 1
3. Band I: Lektion 1
4. Band I: Lektion 2
5. Band I: Lektion 2
6. Band I: Lektion 2
7. Band I: Lektion 3
8. Band I: Lektion 3
9. Band I: Lektion 3
10. Band I: Lektion 4
11. Band I: Lektion 4
12. Band I: Lektion 4

03年度以降（秋） 01・02年度	ドイツ語Ⅰb（総合） ドイツ語Ⅰ（総合）	担当者	各担当教員

◆講義目的、講義概要

Erreichen der Reife für die Zertifikatsprüfung;
dabei sollen alle 4 Fertigkeiten weiter gefördert werden, insbesondere die Erweiterung der Fähigkeit zum Alltagsgespräch.

Durcharbeit von Band I der Stufen International.

◆ 評価方法

Neben den regelmäßigen schriftlichen Tests nach jeder Lektion eine einheitliche mündliche Prüfung zum Abschluss des Studienjahres

◆テキスト、参考文献

Stufen International Band I (Klett)

◆授業計画

1. Band I: Lektion 5
2. Band I: Lektion 5
3. Band I: Lektion 5
4. Band I: Lektion 5
5. Band I: Lektion 6
6. Band I: Lektion 6
7. Band I: Lektion 6
8. Band I: Lektion 6
9. Band I: Lektion 7
10. Band I: Lektion 7
11. Band I: Lektion 7
12. Band I: Lektion 7

03年度以降（春） 01・02年度	ドイツ語Ⅰa（基礎） ドイツ語Ⅰ（基礎）	担当者	各担当教員

◆講義目的、講義概要

主にドイツ語文法の基礎を一通り身につけ、読む・書く・話す・聞くという言語の４つの能力の土台作りを目指します。

初めて学習する言語ですので、発音から始めて２学期で一通りドイツ語の文法事項ならびに基本的な語彙を習得します。

授業時に学ぶだけではなく，予習・復習をしっかりとしてください。語学は積み重ねですのでちょっと気を抜いてしまうとついていくのが大変です。各学期７回以上欠席した学生は期末統一試験の受験資格を失います。

辞書については授業中に推薦できる辞書を指定します。

既習クラスはネーティヴ教員により別メニューの授業を行います。（統一試験は行いません。）

◆ 評価方法

２課ごとの小テストと期末統一試験，出席から判断します。

◆テキスト、参考文献

中島・平尾・朝倉『練習中心　初級ドイツ文法』白水社

◆授業計画

1 発音
2 発音
3 春学期 Lektion1〜Lektion8
　２課終了ごとに小テスト

03年度以降（秋） 01・02年度	ドイツ語Ⅰb（基礎） ドイツ語Ⅰ（基礎）	担当者	各担当教員

◆講義目的、講義概要

主にドイツ語文法の基礎を一通り身につけ、読む・書く・話す・聞くという言語の４つの能力の土台作りを目指します。

初めて学習する言語ですので、発音から始めて２学期で一通りドイツ語の文法事項ならびに基本的な語彙を習得します。

授業時に学ぶだけではなく，予習・復習をしっかりとしてください。語学は積み重ねですのでちょっと気を抜いてしまうとついていくのが大変です。各学期７回以上欠席した学生は期末統一試験の受験資格を失います。

辞書については授業中に推薦できる辞書を指定します。

既習クラスはネーティヴ教員により別メニューの授業を行います。（統一試験は行いません。）

◆ 評価方法

２課ごとの小テストと期末統一試験，出席から判断します。

◆テキスト、参考文献

中島・平尾・朝倉『練習中心　初級ドイツ文法』白水社

◆授業計画

1 秋学期 Lektion9〜Lektion16
　２課終了ごとに小テスト

03年度以降（春） 01・02年度	ドイツ語Ⅰa（ＬＬ） ドイツ語Ⅰ（ＬＬ）	担当者	各担当教員

◆講義目的、講義概要

映像や音声教材を利用して、正確な発音や話す・聞く力を養います。
ビデオ教材を中心にして、各課ごとに様々なシチュエーションでの日常会話表現のパターン練習と聞き取り練習を行います。
練習教材はMDに録音して各自自宅で聞き取り練習を行います。
また正確な発音のために開発された教材で日本人が特に苦手とする発音や聞き取りを練習します。
練習が中心の授業ですので毎回の出席を重視します。

◆ 評価方法

期末統一試験と出席、平常点。

◆テキスト、参考文献

プリントを配布します。

◆授業計画

1. 春学期 Lektion1〜Lektion5

03年度以降（秋） 01・02年度	ドイツ語Ⅰb（ＬＬ） ドイツ語Ⅰ（ＬＬ）	担当者	各担当教員

◆講義目的、講義概要

映像や音声教材を利用して、正確な発音や話す・聞く力を養います。
ビデオ教材を中心にして、各課ごとに様々なシチュエーションでの日常会話表現のパターン練習と聞き取り練習を行います。
練習教材はMDに録音して各自自宅で聞き取り練習を行います。
また正確な発音のために開発された教材で日本人が特に苦手とする発音や聞き取りを練習します。
練習が中心の授業ですので毎回の出席を重視します。

◆ 評価方法

期末統一試験と出席、平常点。

◆テキスト、参考文献

プリントを配布します。

◆授業計画

1. 秋学期 Lektion6〜Lektion10

03年度以降（春） 01・02年度	ドイツ語Ⅱa（総合） ドイツ語Ⅱ（総合）	担当者	各担当教員

◆講義目的、講義概要

Erreichen der Reife für die Zertifikatsprüfung;
dabei sollen alle 4 Fertigkeiten weiter gefördert werden, insbesondere die Erweiterung der Fähigkeit zum Alltagsgespräch.

Durcharbeit von Band I und II der Stufen International.

◆ 評価方法

Neben den regelmäßigen schriftlichen Tests nach jeder Lektion eine einheitliche mündliche Prüfung zum Abschluss des Studienjahres.

◆テキスト、参考文献

Stufen International Band I und II (Klett)

◆授業計画

1. Band I: Lektion 8
2. Band I: Lektion 8
3. Band I: Lektion 8
4. Band I: Lektion 9
5. Band I: Lektion 9
6. Band I: Lektion 9
7. Band I: Lektion 10
8. Band I: Lektion 10
9. Band I: Lektion 10
10. Band II: Lektion 11
11. Band II: Lektion 11
12. Band II: Lektion 11

03年度以降（秋） 01・02年度	ドイツ語Ⅱb（総合） ドイツ語Ⅱ（総合）	担当者	各担当教員

◆講義目的、講義概要

Erreichen der Reife für die Zertifikatsprüfung;
dabei sollen alle 4 Fertigkeiten weiter gefördert werden, insbesondere die Erweiterung der Fähigkeit zum Alltagsgespräch.

Durcharbeit von Band I und II der Stufen International.

◆ 評価方法

Neben den regelmäßigen schriftlichen Tests nach jeder Lektion eine einheitliche mündliche Prüfung zum Abschluss des Studienjahres.

◆テキスト、参考文献

Stufen International Band I und II (Klett)

◆授業計画

1. Band II: Lektion 12
2. Band II: Lektion 12
3. Band II: Lektion 12
4. Band II: Lektion 12
5. Band II: Lektion 13
6. Band II: Lektion 13
7. Band II: Lektion 13
8. Band II: Lektion 13
9. Band II: Lektion 14
10. Band II: Lektion 14
11. Band II: Lektion 14
12. Band II: Lektion 14

03年度以降（春） 01・02年度	ドイツ語Ⅱa（応用） ドイツ語Ⅱ（応用）	担当者	各担当教員

◆講義目的、講義概要

1年次での基礎をふまえ，2年次では残りの文法項目を最初に終え，その後に，中級ドイツ語へのステップアップを目指します。

中心となるのは読解力と作文力の養成であり，そのためには体系的な語彙力の強化も必要です。

授業時に学ぶだけではなく，予習・復習をしっかりとしてください。また，授業時には教科書，辞書，1年次の文法教科書を必ず持参してください。

なお，春学期末試験の試験結果次第では，一部クラス替えを行います。

既習クラスはネーティヴ教員による作文を中心とした授業を行います。（統一試験は行いません。）

◆ 評価方法

2課ごとの小テストと期末統一試験，出席から判断します。

◆テキスト、参考文献

大谷弘道，ｳﾙｽﾞﾗ・大谷『ドイツ語読みかた教室中級表現練習読本』三修社
1年次の文法教科書

◆授業計画

4月　第1週: 統一復習テスト
Übung macht den Meister の 17・18 課

5月ー　『ドイツ語読みかた教室』
Lektion 1ーLektion 6

2課ごとに小テスト

春学期学年末　統一試験

夏休み　宿題！

03年度以降（秋） 01・02年度	ドイツ語Ⅱb（応用） ドイツ語Ⅱ（応用）	担当者	各担当教員

◆講義目的、講義概要

1年次での基礎をふまえ，2年次では残りの文法項目を最初に終え，その後に，中級ドイツ語へのステップアップを目指します。

中心となるのは読解力と作文力の養成であり，そのためには体系的な語彙力の強化も必要です。

授業時に学ぶだけではなく，予習・復習をしっかりとしてください。また，授業時には教科書，辞書，1年次の文法教科書を必ず持参してください。

なお，春学期末試験の試験結果次第では，一部クラス替えを行います。

既習クラスはネーティヴ教員による作文を中心とした授業を行います。（統一試験は行いません。）

◆ 評価方法

2課ごとの小テストと期末統一試験，出席から判断します。

◆テキスト、参考文献

大谷弘道，ｳﾙｽﾞﾗ・大谷『ドイツ語読みかた教室中級表現練習読本』三修社
1年次の文法教科書

◆授業計画

秋学期　『ドイツ語読みかた教室』
Lektion 7ーLektion 12

教科書終了後に各クラスごとに練習

03年度以降（春） 01・02年度	ドイツ語圏入門a ドイツ語圏入門	担当者	各担当教員

◆講義目的、講義概要

ドイツ語学科に入学してきた皆さんが、これから大学で学んでいくテーマを発見し、また、それを深めるために必要な知的技術を養成することを目標とします。特に以下のことに重点をおきます。
1）ドイツ語学科の学生として知っておくべき、ドイツ語圏に関する基礎的な知識を修得する。
2）同じく1学年から履修できる「ドイツ語学概論」「ドイツ文学概論」「ドイツ文化史概論」「ドイツ史概論」と並行して学ぶことによって、これからドイツ語学科で学ぶことの全体像（いわば見取り図）を把握し、将来の専攻・テーマを選ぶ手がかりをつかむ。
3）レポートの書き方：参考文献と自分の意見の区別、また参考文献の挙げ方・引用の仕方等を学ぶ。

各担当者が、地理、言語、政治、経済、環境問題etc.といったテーマで、基本的な講義をします。その他、一年間の講義の合間には、ドイツ映画鑑賞会なども実施します。
なお、第1回の授業で、授業内容、担当者の紹介、出席、レポート課題図書、レポートの書き方、試験方法等、履修上の注意事項を説明しますので、必ず出席してください。
＊ドイツ語圏入門a,bともに単位を取得することが、2年次の基礎演習の履修条件です。

◆ 評価方法

出席、レポート、および春・秋学期末の試験の結果に基づいて評価します。詳細は第1回の授業（ガイダンス）の際に説明します。

◆テキスト、参考文献

原則として、毎回担当者が授業レジュメ（プリント）を配布します。また、第1回のガイダンス時に基本図書および課題図書文献目録を配布します。

◆授業計画

第1回の授業時に、本年度の講義計画表を配布します。

03年度以降（秋） 01・02年度	ドイツ語圏入門b ドイツ語圏入門	担当者	各担当教員

◆講義目的、講義概要

ドイツ語学科に入学してきた皆さんが、これから大学で学んでいくテーマを発見し、また、それを深めるために必要な知的技術を養成することを目標とします。特に以下のことに重点をおきます。
1）ドイツ語学科の学生として知っておくべき、ドイツ語圏に関する基礎的な知識を修得する。
2）同じく1学年から履修できる「ドイツ語学概論」「ドイツ文学概論」「ドイツ文化史概論」「ドイツ史概論」と並行して学ぶことによって、これからドイツ語学科で学ぶことの全体像（いわば見取り図）を把握し、将来の専攻・テーマを選ぶ手がかりをつかむ。
3）レポートの書き方：参考文献と自分の意見の区別、また参考文献の挙げ方・引用の仕方等を学ぶ。

各担当者が、地理、言語、政治、経済、環境問題etc.といったテーマで、基本的な講義をします。その他、一年間の講義の合間には、ドイツ映画鑑賞会なども実施します。
＊ドイツ語圏入門a,bともに単位を取得することが、2年次の基礎演習の履修条件です。

◆ 評価方法

出席、レポート、および学期末の試験の結果に基づいて評価します。

◆テキスト、参考文献

原則として、毎回担当者が授業レジュメ（プリント）を配布します。

◆授業計画

03年度以降（春） 01・02年度	基礎演習a 基礎演習	担当者	各担当教員

◆講義目的、講義概要

1年次の「ドイツ語圏入門」では，おもにドイツ語圏に関する基礎知識の修得とレポート執筆の技術を身につけることを目標にしていました。2年次の「基礎演習」では，自ら情報を収集し，それを口頭で発表したり文書（レポート）としてまとめるプレゼンテーションの技術を高めることを目的にしています。

春学期では，おもにグループでの共同研究や全体やグループでの討論，ディベートなどを通して，情報検索，口頭発表の作法，討議のしかたなどの基礎を身につけます。

3回のグループ研究では「ドイツの都市研究」は必修共通テーマで，残りの2回は「環境問題」，「大学をめぐって」，「グリム童話」，「第2次世界大戦」などから，教員と学生の相談のうえでテーマを決定します。

◆ 評価方法

出席（出欠・遅刻），授業参加（討論などへの参加），口頭発表，レポートから総合的に判断します。詳しくは第1回授業時に。

◆テキスト、参考文献

授業時に指示します。

◆授業計画

1. ガイダンス
2. 自己紹介（プレゼンテーションの第1歩）
   ドイツの都市研究の準備
3. グループ研究①　ドイツの都市研究1
4. グループ研究①　ドイツの都市研究2
5. グループ研究①　ドイツの都市研究3
6. グループ研究②　テーマ1
7. グループ研究②
8. グループ研究②
9. グループ研究③　テーマ2
10. グループ研究③
11. グループ研究③
12. まとめ　秋学期個人自由研究分担最終決定

03年度以降（秋） 01・02年度	基礎演習b 基礎演習	担当者	各担当教員

◆講義目的、講義概要

春学期のうちに決定していた分担にもとづいて，秋学期は個人による自由研究発表を行います。

発表はおおよそ20分，質疑応答に10分を予定しています。発表者は，発表の遅くとも2週間前までに担当教員と相談しながら，発表内容を絞り込み，自分なりの問題提起→それに対する解答となるように発表をまとめ，ハンドアウトを作成してください。

聞き手も漫然と聞くのではなく，発表者の問題意識を共有しつつ，積極的に質疑応答に参加してください。

◆ 評価方法

出席（出欠・遅刻），授業参加（討論などへの参加），口頭発表，レポートから総合的に判断します。

◆テキスト、参考文献

授業時に指示します。

◆授業計画

1. 前期レポート返却，講評，後期分担の再確認
2. 以下，個人自由研究発表，質疑

01・02 年度	総合ドイツ語Ⅲ	担当者	各担当教員

◆講義目的、講義概要

Erreichen der Reife für die Zertifikatsprüfung;
dabei sollen alle 4 Fertigkeiten weiter gefördert werden, insbesondere die Erweiterung der Fähigkeit zum Alltagsgespräch.

Durcharbeit von Band II der Stufen International.

◆ 評価方法

Neben den regelmäßigen schriftlichen Tests nach jeder Lektion eine einheitliche mündliche Prüfung zum Abschluss des Studienjahres.

◆テキスト、参考文献

Stufen International Band II (Klett)

◆授業計画

1. Band II: Lektion 15
2. Band II: Lektion 15
3. Band II: Lektion 15
4. Band II: Lektion 15
5. Band II: Lektion 16
6. Band II: Lektion 16
7. Band II: Lektion 16
8. Band II: Lektion 16
9. Band II: Lektion 17
10. Band II: Lektion 17
11. Band II: Lektion 17
12. Band II: Lektion 17

01・02 年度	総合ドイツ語Ⅲ	担当者	各担当教員

◆講義目的、講義概要

Erreichen der Reife für die Zertifikatsprüfung;
dabei sollen alle 4 Fertigkeiten weiter gefördert werden, insbesondere die Erweiterung der Fähigkeit zum Alltagsgespräch.

Durcharbeit von Band II der Stufen International.

◆ 評価方法

Neben den regelmäßigen schriftlichen Tests nach jeder Lektion eine einheitliche mündliche Prüfung zum Abschluss des Studienjahres.

◆テキスト、参考文献

Stufen International Band II (Klett)

◆授業計画

1. Band II: Lektion 18
2. Band II: Lektion 18
3. Band II: Lektion 18
4. Band II: Lektion 18
5. Band II: Lektion 19
6. Band II: Lektion 19
7. Band II: Lektion 19
8. Band II: Lektion 19
9. Band II: Lektion 20
10. Band II: Lektion 20
11. Band II: Lektion 20
12. Band II: Lektion 20

01・02年度 00年度以前	ドイツ語Ⅲ（会話） 時事ドイツ語	担当者	D．フュルンケース

◆講義目的、講義概要

Ausgehend von Texten und Filmen Soll in dieser Übung über aktuelle Themen in Deutschland, Österreich und der Schweiz diskutiert werden.

◆ 評価方法

Mündlicher Test

◆テキスト、参考文献

Fotokopien

◆授業計画

1-4 Deutschland

5-8 Österreich

9-12 Schweiz

01・02年度 00年度以前	ドイツ語Ⅲ（会話） 時事ドイツ語	担当者	D．フュルンケース

◆講義目的、講義概要

Ausgehend von ausgewählten Themen des Sommersemesters sollen nun im Wintersemester die Teilnehmer in mündlichen Kurzreferaten ihre Interessengebiete vertiefen.

◆ 評価方法

Schriftliche Hausarbeit

◆テキスト、参考文献

Fotokopien

◆授業計画

01・02 年度 00 年度以前	ドイツ語Ⅲ（会話） 時事ドイツ語	担当者	H．J．トロル

◆講義目的、講義概要

Nach anfänglicher Wiederholung und fundamentalen Sprechübungen wollen wir verschiedene aktuelle Themen besprechen, in nicht zu schwierigem Deutsch.
Die Themenauswahl richtet sich nach dem Niveau und Interesse der Teilnehmer, ein Lehrbuch werden wir aber dennoch benutzen.
Wir beginnen einfach...
Regelmäßige Teilnahme ist aber nötig.

現代的なテーマをドイツ語で学ぶ。

◆ 評価方法

Mitarbeit, Tests

◆テキスト、参考文献

Lernziel Deutsch (W. Hieber) Sanshusha-Verlag

◆授業計画

1. Einführung
2. Wiederhlg. verschiedener Art
3. Wirderholung und Aufbau
4. Schule, Universität und Studium in Japan und Deutschland
5. Familie und Beruf in Europa und Asien
6. Wegbeschreibungen
7. Tagesablauf, Termine, Einladungen
8. Wohungen und Wohnen
9. Arbeitswelt
10. alte und junge Menschen, soziale Fragen
11. Umweltfragen
12. End-Semestertest

01・02 年度 00 年度以前	ドイツ語Ⅲ（会話） 時事ドイツ語	担当者	H．J．トロル

◆講義目的、講義概要

Fortsetzung des ersten Semesters in gleicher Form im Herbstsemester...

◆ 評価方法

Mitarbeit, Tests

◆テキスト、参考文献

Lernziel Deutsch (W. Hieber) Sanshusha-Verlag

◆授業計画

1. Das zweite Semester orientiert sich mehr nach dem Buch. Dazu kommt mehr Video-Arbeit und zusätzliche Materialien in Form von Kopien....

01・02 年度 00 年度以前	ドイツ語Ⅲ（会話） 時事ドイツ語	担当者	M．鮎貝

◆講義目的、講義概要

In diesem Kurs steht das Üben der kommunikativen Fähigkeit im Vordergrund. Es sollen sowohl das Hörverstehen als auch die vielfältigen Möglichkeiten des mündlichen Ausdrucks erprobt werden.
Ziel dieser Kommunikationsübung ist das genaue Zuhören und Antworten.
Angestrebt wird die Erweiterung des Vokabulars, das Erkennen und Anwenden von Satzstrukturen durch Dialoge, Kassetten, Video, Lesetexte und Hörtexte mit besonderer Beachtung von Intonation und Aussprache.
Inhaltlich geht es dabei um Themen aus dem deutschen Alltag, aber auch um aktuelle Themen zum Zeitgeschehen. Die Themenwahl richtet isch nach dem Interesse der Teilnehmer.

◆ 評価方法

Aktive Beteiligung am Unterricht.
Test am Ende des Semesters

◆テキスト、参考文献

Sato, Papenthin, Ito, Perz:
SZENEN II Sanshusha

◆授業計画

1. Reise und Verkehr
2. Referat. Aktuelles Thema
3. Im Restaurant und im Hotel
4. Referat. Aktuelles Thema
5. In der Stadt
6. Referat. Aktuelles Thema
7. Wetter und Naturkatastrophen
8. Referat. Aktuelles Thema
9. Geschenke und Einladung
10. Referat. Aktuelles Thema
11. Krankheiten und Körperpflege
12. Referat. Aktuelles Thema

01・02 年度 00 年度以前	ドイツ語Ⅲ（会話） 時事ドイツ語	担当者	M．鮎貝

◆講義目的、講義概要

In diesem Kurs steht das Üben der kommunikativen Fähigkeit im Vordergrund. Es sollen sowohl das Hörverstehen als auch die vielfältigen Möglichkeiten des mündlichen Ausdrucks erprobt werden.
Ziel dieser Kommunikationsübung ist das genaue Zuhören und Antworten.
Angestrebt wird die Erweiterung des Vokabulars, das Erkennen und Anwenden von Satzstrukturen durch Dialoge, Kassetten, Video, Lesetexte und Hörtexte mit besonderer Beachtung von Intonation und Aussprache.
Inhaltlich geht es dabei um Themen aus dem deutschen Alltag, aber auch um aktuelle Themen zum Zeitgeschehen. Die Themenwahl richtet isch nach dem Interesse der Teilnehmer.

◆ 評価方法

Aktive Beteiligung am Unterricht.
Test am Ende des Semesters

◆テキスト、参考文献

Sato, Papenthin, Ito, Perz:
SZENEN II Sanshusha

◆授業計画

1. Einführung
2. Personenbeschreibung
3. Referat. Aktuelles Thema
4. Verbote und Gebote
5. Referat. Aktuelles Thema
6. Lebenslauf und Schulsystem
7. Referat. Aktuelles Thema
8. Feste und Feiertage
9. Referat. Aktuelles Thema
10. Interkulturelle Kommunikation
11. Referat. Aktuelles Thema
12. Hörtest

01・02 年度 00 年度以前	ドイツ語Ⅲ（会話） 時事ドイツ語	担当者	T. マイヤー

◆講義目的、講義概要

Der Kurs richtet sich an Studenten des 3. und 4. Studienjahrs.
Anhand verschiedener Gespraechssituationen (Interview, Diskussion, Rollenspiel etc.) sollen diverse Redemittel eingeuebt werden. Dabei sind Themenvorschlaege von Seiten der Studenten jederzeit willkommen und werden nach Moeglichkeit beruecksichtigt.
Ausserdem sind Uebungen vorgesehen, die den muendlichen Aufgaben der ZD-Pruefung entsprechen und somit der Vorbereitung dieser Pruefung dienen koennen.

◆ 評価方法

Die Notengebung wird von der Groesse des Kurses abhaengen und zu Beginn des Semesters mit den Teilnehmern besprochen.

◆ テキスト、参考文献

Wenn erforderlich, werden Kopien ausgeteilt

◆授業計画

01・02 年度 00 年度以前	ドイツ語Ⅲ（会話） 時事ドイツ語	担当者	T. マイヤー

◆講義目的、講義概要

Der Kurs richtet sich an Studenten des 3. und 4. Studienjahrs.
Anhand verschiedener Gespraechssituationen (Interview, Diskussion, Rollenspiel etc.) sollen diverse Redemittel eingeuebt werden. Dabei sind Themenvorschlaege von Seiten der Studenten jederzeit willkommen und werden nach Moeglichkeit beruecksichtigt.
Ausserdem sind Uebungen vorgesehen, die den muendlichen Aufgaben der ZD-Pruefung entsprechen und somit der Vorbereitung dieser Pruefung dienen koennen.

◆ 評価方法

Die Notengebung wird von der Groesse des Kurses abhaengen und zu Beginn des Semesters mit den Teilnehmern besprochen.

◆テキスト、参考文献

Wenn erforderlich, werden Kopien ausgeteilt

◆授業計画

01・02 年度 00 年度以前	ドイツ語Ⅲ（作文） 時事ドイツ語	担当者	G．シュミット

◆講義目的、講義概要

「作文」bedeutet ‚Aufsatz schreiben', ‚einen Text anfertigen'. Das muessen auch deutsche Schueler lernen!!!

Zuerst werden wir Texte analysieren und Textsorten bestimmen durch die Form, das Thema, den Aufbau des Inhalts und die Sprache.

Zum Beispiel: Nachricht - Bericht (Zeitung, Fernsehen), Brief (privat, geschaeftlich), Referat (Uni), Gedichte, Romane (Literatur) usw.

Dann werden wir versuchen, in Uebungen solche Texte selbst zu schreiben.

Ziel ist es, selbststaendig einen Text anzufertigen.

◆ 評価方法

1.) Jede Woche ein „Lern-Tagebuch" schreiben
2.) Referat/ Hausarbeit zu einer Textsorte

◆テキスト、参考文献

Texte werden als Kopien vom Lehrer vorbereitet. – Dazu: Stufen 1 und Stufen 2.

◆授業計画

1.) Orientierung

2.a) - Welche Texte, Textsorten gibt es?
- Wie sind die Texte aufgebaut?
- Unterschiede von Sprechen und Schreiben

3.a) Notizen, Memo, Stichworte, Protokoll

4.a) Bericht, Nachricht

5.a) Brief (privat, geschaeftlich)

6.a) Gedichte, Lieder (Lyrik)

7.a) Roman, Novelle, Kurzgeschichte (Literatur)

8.a) Referat, Hausarbeit, Abschlussarbeit (Uni)

9.) Verschiedene Textsorten: E-Mail, SMS usw.

10.) Eigene Texte anfertigen

01・02 年度 00 年度以前	ドイツ語Ⅲ（作文） 時事ドイツ語	担当者	G．シュミット

◆講義目的、講義概要

「作文」bedeutet ‚Aufsatz schreiben', ‚einen Text anfertigen'. Das muessen auch deutsche Schueler lernen!!!

Zuerst werden wir Texte analysieren und Textsorten bestimmen durch die Form, das Thema, den Aufbau des Inhalts und die Sprache.

Zum Beispiel: Nachricht - Bericht (Zeitung, Fernsehen), Brief (privat, geschaeftlich), Referat (Uni), Gedichte, Romane (Literatur) usw.

Dann werden wir versuchen, in Uebungen solche Texte selbst zu schreiben.

Ziel ist es, selbststaendig einen Text anzufertigen.

◆ 評価方法

1.) Jede Woche ein „Lern-Tagebuch" schreiben
2.) Referat/ Hausarbeit zu einer Textsorte

◆テキスト、参考文献

Texte werden als Kopien vom Lehrer vorbereitet. – Dazu: Stufen 1 und Stufen 2.

◆授業計画

1.) Orientierung

2.b) Uebungen an Textbeispielen

3.b) Uebungen an Textbeispielen

4.b) Uebungen an Textbeispielen

5.b) Uebungen an Textbeispielen

6.b) Uebungen an Textbeispielen

7.b) Uebungen an Textbeispielen

8.b) Uebungen an Textbeispielen

9.) Verschiedene Textsorten: E-Mail, SMS usw.

10.) Eigene Texte anfertigen

01・02 年度 00 年度以前	ドイツ語Ⅲ（作文） 時事ドイツ語	担当者	H．J．トロル

◆講義目的、講義概要

Wir werden uns verschiedenen Arten von Schreibübungen widmen, von einfachen presönlichen Mitteilung bis hin zu offiziellen Briefen, vor allem aber werden wir dabei auch den grammatischen Gebrauch der Sprache vertiefen. Regelmäßige Hausaufgaben sind zu machen, um den Fortschritt zu sichern.
Wir orientieren uns an einem Lehrbuch, aber auch auf Wünsche und Fragen der Studenten kann ich eingehen.
Schreiben soll Spaß machen…

◆ 評価方法

Hausaufgaben und End-Semestertests

◆テキスト、参考文献

Y. Fukuda/H. Troll『表現と作文』(Verlag 白水社)

◆授業計画

Der Ablauf des Jahresplanes wird zu Semesterbeginn bespochen, dabei orientiere ich mich auch am Gesamtlevel der Teilnehmer.
Freude und Interesse am Schreiben müssen die Teilnehmer mitbringen, regelmäßige Teilnahme ist erforderlich.

01・02 年度 00 年度以前	ドイツ語Ⅲ（作文） 時事ドイツ語	担当者	H．J．トロル

◆講義目的、講義概要

Fortsetzung des Sommersemesters ab September (Herbstsemester)

◆ 評価方法

Hausaufgaben und End-Semestertests

◆テキスト、参考文献

Y. Fukuda/H. Troll『表現と作文』(Verlag 白水社)

◆授業計画

Fortsetzungen aus dem ersten Semester

01・02 年度	上級ドイツ語（会話）	担当者	K.O バイスヴェンガー

◆ 講義目的、講義概要

Erlernt man eine Fremdsprache, so hat man den Wunsch sein Wissen ueber ein Thema oder seine Meinung darueber verbal zum Ausdruck zu bringen. Es ist aber auf Dauer unbefriedigend, wenn man nur einzelne Saetze von sich geben kann. Im Kurs soll deshalb die Ausdrucksfaehigkeit in zusammenhaengender Form geschult werden. Dafuer stehen gesellschaftlich relevante Themen zur Wahl, zu Beginn des Kurses eher leicht zugaengliche wie Familie, Reise oder Tiere. Gegen Ende des Kurses befassen wir uns mit eher komplexe Themen wie Abschied, Freundschaft, Alter, Freud und Leid. Dabei sollen verschiedene Formen der muendlichen Auesserung geuebt werden: Sprechen mit einem Partner (Dialog), Diskussion in der kleinen Gruppe, persoenliche Meinungsbildung zu einem Thema, Erfinden von Geschichten, freies Sprechen ueber ein aus dem Themenkatalog gewaehltes Thema. Sprechanlaesse sind Texte, Bilder und Musikstuecke.
Im Mittelpunkt des Kurses steht die Gruppenarbeit, deren Ergebnisse im Plenum vorzutragen sind. Zur Vertiefung der Lernergebnisse sollen einzelne muendliche Sequenzen aufgeschrieben werden. Die Themenliste (siehe unten) gibt die Richtung vor, ueber die Auswahl der einzelnen Lernsequenzen wird erst waehrend des Kurses und je nach Teilnehmerzahl entschieden.

◆ 評価方法

Regelmaessige Teilnahme und muendliche Mitarbeit, Bewertung von je einer schriftlichen Leistung pro Semester. Muendliche Pruefung am Ende des Kurses

◆テキスト、参考文献

Kopien. Die im Unterricht verteilt werden.

◆授業計画

1. Stunde: Einfuehrung, Kennen Lernen
2. bis 4. Stunde: Thema Familie (Vorstellen der eigenen Familie, Verhaeltnis Eltern und Kind, Generationskonflikt etc.)
5. bis 7. Stunde: Wohnen (Beschreiben einer Wohnung, Wohnen in der Stadt, Wohnen auf dem Land etc.)
8. bis 11. Stunde: Reise ((Reiseziele, Reise mit dem Zug, Auto, Bus, Gefahren auf Reisen etc.)
12. Stunde: Zusammenfassung

01・02 年度	上級ドイツ語（会話）	担当者	K.O バイスヴェンガー

◆講義目的、講義概要

◆ 評価方法

◆テキスト、参考文献

◆授業計画

13. bis 15. Stunde: Tiere (Haustier, Leben mit Tieren, gefaehrdete Tiere etc.)
16. bis 18. Stunde: Freundschaft (Schulfreundschaften, Bedeutung von Freundschaft, etc.)
19. bis 20. Stunde: Abschied (verschiedene Situationen des Abschied nehmens etc.)
21. bis 22. Stunde: Alter (Umgang mit alten Menschen, Leben im Alter etc.)
23. bis 24. Stunde: Freud und Leid (Ausdruck von Freude, Ausdruck von Leid)

01・02 年度	上級ドイツ語（会話）	担当者	M. 鮎貝

◆講義目的、講義概要

In diesem Kurs haben die Teilnehmer Gelegenheit, ihr Hörverstehen zu verbessern durch zahlreiche kurze Hörübungen. Dabei wird in viele verschiedene Situationen eingeführt, die zum deutschen Alltagsleben gehören.
Das "Gehörte" wird zugleich zur Grundlage für das Klassengespräch. Dabei werden Satzmuster geübt und die vielfältigen Möglichkeiten des mündlichen Ausdrucks erprobt. Jede der insgesamt 12 Lektionen besteht aus Lesetexten, Hör- und Sprechübungen, Dialogen sowie phonetischen Elementen und Übungen zur Wortschatzerweiterung.
Unterrichtssprache ist Deutsch.

◆ 評価方法

Test am Ende des Semesters

◆テキスト、参考文献

Schermann, Shinohara, Okada:Allerlei Deutsch Sanshusha

◆授業計画

1. Einführung
2. Arbeitssituationen
3. Referat. Aktuelles Thema
4. Einkaufen in Deutschland
5. Referat. Aktuelles Thema
6. Volljährigkeit
7. Referat. Aktuelles Thema
8. Reisepläne
9. Referat. Aktuelles Thema
10. Interkulturelle Kommunikation
11. Referat. Aktuelles Thema
12. Hörtest und Zusammenfassung

01・02 年度	上級ドイツ語（会話）	担当者	M. 鮎貝

◆講義目的、講義概要

In diesem Kurs haben die Teilnehmer Gelegenheit, ihr Hörverstehen zu verbessern durch zahlreiche kurze Hörübungen. Dabei wird in viele verschiedene Situationen eingeführt, die zum deutschen Alltagsleben gehören.
Das "Gehörte" wird zugleich zur Grundlage für das Klassengespräch. Dabei werden Satzmuster geübt und die vielfältigen Möglichkeiten des mündlichen Ausdrucks erprobt. Jede der insgesamt 12 Lektionen besteht aus Lesetexten, Hör- und Sprechübungen, Dialogen sowie phonetischen Elementen und Übungen zur Wortschatzerweiterung.
Unterrichtssprache ist Deutsch.

◆ 評価方法

Test am Ende des Semesters

◆テキスト、参考文献

Schermann, Shinohara, Okada:Allerlei Deutsch Sanshusha

◆授業計画

1. Einführung
2. Ausschnitte aus der Geschichte der letzten 50 Jahre
3. Referat. Aktuelles Thema
4. Gespräche über die Familie
5. Referat. Aktuelles Thema
6. Lebensgewohnheiten
7. Referat. Aktuelles Thema
8. Ernährung und Umweltfragen
9. Referat. Aktuelles Thema
10. Interkulturelle Kommunikation
11. Referat. Aktuelles Thema
12. Hörtest und Zusammenfassung

01・02 年度	上級ドイツ語（会話）	担当者	T．カーラー

◆講義目的、講義概要

Anhand aktueller Themen sollen Wortschatz und Ausdrucksfähigkeit erweitert werden.

◆ 評価方法

Referate

◆テキスト、参考文献

Themen werden zu Beginn des Semesters festgelegt.

◆授業計画

Zu Beginn des Semesters werden Themen festgelegt, dei an einem bestimmten Tag vorgetragen werden.
Texte oder andere Materialien sollten eine Woche vor dem Referat eingereicht werden.

01・02 年度	上級ドイツ語（会話）	担当者	T．カーラー

◆講義目的、講義概要

Anhand aktueller Themen sollen Wortschatz und Ausdrucksfähigkeit erweitert werden.

◆ 評価方法

Referate

◆テキスト、参考文献

Themen werden zu Beginn des Semesters festgelegt.

◆授業計画

Zu Beginn des Semesters werden Themen festgelegt, dei an einem bestimmten Tag vorgetragen werden.
Texte oder andere Materialien sollten eine Woche vor dem Referat eingereicht werden.

01・02 年度	上級ドイツ語（作文）	担当者	T．マイヤー

◆講義目的、講義概要

Der Kurs richtet sich an Studenten des 3. und 4. Studienjahrs.
Vorgesehen ist das Erarbeiten und Einueben von strukturellen und stilistischen Merkmalen verschiedener Textsorten.
Falls Interesse von Seiten der Teilnehmer besteht, kann auch Zeit fuer kreatives Schreiben eingeraeumt werden. Ausserdem sind Uebungen zum Aufgabenteil "Schriftlicher Ausdruck" der ZD-Pruefung geplant.

◆ 評価方法

Zur Benotung wird am Ende des Semesters die Loesung einer solchen Briefaufgabe herangezogen.

◆テキスト、参考文献

Wenn erforderlich, werden Kopien ausgeteilt

◆授業計画

01・02 年度	上級ドイツ語（作文）	担当者	T．マイヤー

◆講義目的、講義概要

Der Kurs richtet sich an Studenten des 3. und 4. Studienjahrs.
Vorgesehen ist das Erarbeiten und Einueben von strukturellen und stilistischen Merkmalen verschiedener Textsorten.
Falls Interesse von Seiten der Teilnehmer besteht, kann auch Zeit fuer kreatives Schreiben eingeraeumt werden. Ausserdem sind Uebungen zum Aufgabenteil "Schriftlicher Ausdruck" der ZD-Pruefung geplant.

◆ 評価方法

Zur Benotung wird am Ende des Semesters die Loesung einer solchen Briefaufgabe herangezogen.

◆テキスト、参考文献

Wenn erforderlich, werden Kopien ausgeteilt

◆授業計画

01・02 年度	中世ドイツ語	担当者	I. アルブレヒト

◆講義目的、講義概要

Nibelungenlied, Tristan und Isolde, Parzifal... als mittelhochdeutsch bezeichnet man deutschsprachige Texte ungefähr aus der Zeit des 12. bis 14. Jahrhunderts, das ist die erste Blütezeit der deutschsprachigen Literatur. Es sind viele interessante, komische, humorvolle und berührende Texte erhalten, die uns Einblick geben in das Denken und Leben und die Träume der mittelalterlichen Menschen. Solche Texte im Original zu lesen ist reizvoll und gar nicht so schwierig. Grammatik und Rechtschreibung waren nicht so kompliziert und geregelt wie im heutigen Deutsch.
Ziel des Kurses sind Grundkenntnisse in MHD, die es ermöglichen, mit Hilfe von Wörterbüchern mit Genuss alte Texte zu lesen.

◆ 評価方法

Regelmäßige Teilnahme und aktive Mitarbeit
Wiederholungsfragen schriftlich beantworten

◆テキスト、参考文献

Kopien, werden in der ersten Stunde verteilt

◆授業計画

Das genaue Programm wird in Absprache mit den Teilnehmern nach deren Wünschen und Bedürfnissen festgelegt.

1. Was ist MHD?
2. Wie unterscheidet sich MHD von der Gegenwartssprache?
3. 4 bis 5 Unterrichtseinheiten: die ritterlich höfische Welt (dazu Textbeispiele aus Parzifal, Iwein u.a.)
4. 3 bis 4 Unterrichtseinheiten: die bäuerliche Welt (dazu Texte aus Helmbrecht, Der Ring)
5. Wiederholung

01・02 年度	中世ドイツ語	担当者	I. アルブレヒト

◆講義目的、講義概要

Voraussetzung für die Teilnahme im Wintersemester: erfolgreiche Teilnahme an MHD im Sommersemester bzw. Vorkenntnisse in MHD.

◆ 評価方法

Regelmäßige Teilnahme und aktive Mitarbeit
Wiederholungsfragen schriftlich beantworten

◆テキスト、参考文献

Kopien, werden in der ersten Stunde verteilt

◆授業計画

6. 3 Unterrichtseinheiten Heldenepik (Textbeispiele aus dem Nibelungenlied)
7. 2 bis 3 Unterrichtseinheiten Minnesang (Walther, Neidhartdt u.a.)
8. 4 bis 5 Unterrichtseinheiten Gebrauchstexte (Textbeispiele zu Recht, Medizin, Kochrezepte, Verhalten bei Tisch etc.)
9. 2 Unterrichtseinheiten wissenschaftliche Texte
10. Wiederholung, Zusammenfassung Ergänzung

01・02 年度 00 年度以前	通訳特殊演習Ⅰ（春学期完結） 通訳特殊演習（半期完結）	担当者	矢羽々 崇

◆講義目的、講義概要

＜選抜＞
4 月第 1 回の授業時に，春学期のみ・春秋学期通しての受講者の選抜テストを行います。必ず参加してください。（受講上限 25 名）

＜講義目的＞
ドイツ語の基礎レベル（独検 3 級以上）の学生を対象に，中級以上を目指すための学習方法を，通訳訓練の手法を使って学びます。

＜講義概要＞
シャドーイング，クイックレスポンスなどのさまざまな練習方法を身につけ，ドイツ語運用能力の向上を図ります。
また，実際のアテンダンス通訳の場面などを試みつつ，実践的なトレーニングも行います。

◆ 評価方法

出席，授業への参加度，学期末レポートによって評価します。

◆テキスト、参考文献

授業中に指示します。

◆授業計画

受講者のレベルを見ながら，第 2 回以降の内容を設定します。

01・02 年度 00 年度以前	通訳特殊演習Ⅱ（秋学期完結） 通訳特殊演習（半期完結）	担当者	矢羽々 崇

◆講義目的、講義概要

＜選抜＞
第 1 回目の授業時に，秋学期だけの受講希望者の選抜テストを行います。必ず参加してください。（受講上限 20 名）

＜講義目的＞
春学期での練習をふまえて，ドイツ語運用能力のさらなるスキルアップを目指します。

＜講義概要＞
さまざまな練習方法を身につけるほか，獨協大学に来賓として来られたドイツ人のスピーチの通訳などをもとに，実践面での練習をします。

◆ 評価方法

出席，授業への参加度，学期末レポートによって評価します。

◆テキスト、参考文献

授業中に指示します。

◆授業計画

受講者のレベルを見ながら，第 2 回以降の内容を設定します。

03年度以降（春） 01・02年度	ドイツ語学概論a ドイツ語学概論	担当者	柿沼 義孝

◆講義目的、講義概要

ドイツ語は世界でおよそ１億の人々によって話されている.諸君がドイツ語を勉強するにあたって、英語のほかに、さらに第二の外国語を習得し、新しい言語文化圏への冒険を試みようとすることは、この世界に対してあたらしい視点を開くことでもある.この講義では、ドイツ語の世界と歴史を通して眺めることで、これからの言語、思想、文化の専門研究のための知的ベースを築き上げてほしい。

受講者に対する要望など：
講義を「聴く」のではなく、学生諸君も一緒に講義に参加してもらい、ドイツ語に関する事柄を考えていきましょう.

◆ 評価方法

春学期、秋学期の筆記試験とレポートによる

◆テキスト、参考文献

テキスト：とくに指定しない。
参考文献：入門のために：
カール＝ディーター・ビュンティング千石喬/川島淳夫訳：『言語学入門』（白水社）
黒田竜之介：『はじめての言語学』（講談社現代新書）
その他第１回目の講義で指示

◆授業計画

春学期では、これから新しくドイツ語を学びつつある諸君とともに、そして他方、今までドイツ語を学んできた諸君と、ドイツ語のいろいろな姿を観察し、そのおおよその全体像を把握していこうと思う.名づけて、「ドイツ語の森――散策コース」.和気あいあいと、楽しみながら散歩をしよう.

1. なぜドイツ語か.1年間の予定
2. ドイツ語の文字とその歴史
3. ドイツ語って格変化と人称変化ばっかりで!
4. ドイツ語の疑問に答える
5. 昔のドイツ語はどんなだった？
6. 英語や他の言語との結びつきは？
7. 南の人のドイツ語は北の人にはわかりにくいのです
8. 書き言葉はいつごろつくられたのか
9. ドイツにはどんな地名や人の名があるか
10. いまドイツで使われているドイツ語ってどういうの
11. ドイツ語の森の散歩を振り返って
12. 予備日

03年度以降（秋） 01・02年度	ドイツ語学概論b ドイツ語学概論	担当者	柿沼 義孝

◆講義目的、講義概要

ドイツ語は世界でおよそ１億の人々によって話されている.諸君がドイツ語を勉強するにあたって、英語のほかに、さらに第二の外国語を習得し、新しい言語文化圏への冒険を試みようとすることは、この世界に対してあたらしい視点を開くことでもある.この講義では、ドイツ語の世界と歴史を通して眺めることで、これからの言語、思想、文化の専門研究のための知的ベースを築き上げてほしい。

受講者に対する要望など：
講義を「聴く」のではなく、学生諸君も一緒に講義に参加してもらい、ドイツ語に関する事柄を考えていきましょう.

◆ 評価方法

春学期、秋学期の筆記試験とレポートによる

◆テキスト、参考文献

テキスト：とくに指定しない。
参考文献：入門のために：
カール＝ディーター・ビュンティング千石喬/川島淳夫訳：『言語学入門』（白水社）
黒田竜之介：『はじめての言語学』（講談社現代新書）
その他第１回目の講義で指示

◆授業計画

秋学期は、いささかしんどいかもしれないが、春学期のドイツ語の森の散歩で観察した、さまざまな言語現象をさらに深く掘り下げるための、いわば、研究、調査用のアイテムを探し求めてドイツ語の森を探検する。名づけて、「ドイツ語の森――探検・征服コース」。

1. 言語はどうやって研究するの（言語研究の方法　1）
2. 言語における点と線（言語研究の方法　2）
3. グリムってあのグリム童話の？（言語研究の歴史　1）
4. ドイツの文法学者たち（言語研究の歴史　2）
5. ドイツ語研究　1．語彙と形態
6. 〃　2．文の構造
7. 〃　3．ことばの意味　（1）
8. 〃　4．ことばの意味　（2）
9. 〃　5．道具としての言語　（語用論）
10. 〃　6．音声と音韻（音声学と音韻論）
11. 日本語とドイツ語を対照する　（対照言語学的研究）
12. ことばと文化　（まとめ）

03年度以降（春） 01・02年度	ドイツ文学概論a ドイツ文学概論	担当者	矢羽々 崇

◆講義目的、講義概要

春学期では，「文学」って何？という問題から授業を始めます。
　「読書感想文」を書かされて辟易（ヘキエキ）しませんでしたか？
　「国語」の入試で解釈の問題に正解が１つしかないことに疑問を感じませんでしたか？
　「文学」はなぜ「ブン学」で，「音楽」のように「ブン楽」ではないのでしょう？
　こんな疑問や不信感(?)を出発点にしながら，最初に「文学」（そして文学研究）という問題を考えます。
　続いて，童話・昔話という「単純な語りの形式」を中心に据えて，文学のさまざまな面白さ，問題点を考えていきます。また，詩・劇・散文という主要なジャンルについても，考えていきます。

◆　評価方法

出席・レポート・学年末試験によって評価します。

◆テキスト、参考文献

第１回授業で指示します。

◆授業計画

詳しくは第１回の授業で指示します。

大枠としては次の点を検討します：
1. 文学をめぐって
・「文学」って何？
・「文学研究」は何のために？
・「作者」は死んだ？
・「読者」の可能性
・「本」は滅ぶのか？
・
2. さまざまなジャンル
・「単純な語りの形式」（童話・昔話・伝説，etc.）
・「叙情詩」（詩なしには生きられない？）
・「劇」（ドラマチックな人生？）
・「散文」（近代の申し子）

03年度以降（秋） 01・02年度	ドイツ文学概論b ドイツ文学概論	担当者	矢羽々 崇

◆講義目的、講義概要

秋学期では，主に２つの目標にそって授業を行います。
１）私たちの日常生活と「文学」の関係を考える。
　「文学」は本や教科書，図書館といったかたちで，私たちの「外」にあるだけではありません。日常の暮らしの「中」にあって，私たちの考え方や行動パターンに影響を与えているのです。そんな「よそゆき」ではない文学を考えてみます。
２）ドイツ文学のアウトラインを知る。
　皆さんはドイツ語圏の文学を知っていますか？18世紀後半に書かれたゲーテの『若きウェルテルの悩み』を出発点にして，現代までのドイツ文学の歩みを辿っていきます。

◆　評価方法

出席・レポート・学年末試験によって評価します。

◆テキスト、参考文献

第１回授業で指示します。

◆授業計画

詳しくは第１回の授業で指示します。

大枠としては次の点を検討します：
1. 私たちの中の「文学」
・メディアとしての文学
・文学とさまざまなメディア
・文学をめぐる諸制度（文学部，図書館，etc.）
2. ドイツ語圏の文学
・近代的な恋愛のはじまり（『ウェルテル』）
・ロマン派の夢
・文学が文学だった頃（19世紀）
・見えない世界との出会い（20世紀前半）
・ナチズムと文学
・アウシュヴィッツの後に詩を書くことは野蛮？
など

03年度以降（春） 01・02年度	ドイツ語学各論a ドイツ語学各論	担当者	諏訪 功

◆講義目的、講義概要

ドイツ語の諸相

さまざまな下位体系から成り立つ複合体としてのドイツ語を概観する。
講義と言語資料の検討とを織りまぜ、ドイツ語の諸相に直接触れる機会を提供したい。

◆ 評価方法

出席、レポート、試験による。

◆テキスト、参考文献

シュリーベン・ランゲ著糟谷他訳『(新版) 社会言語学の方法』三元社 1996年

◆授業計画

1. ドイツ語圏とは何か
   1)ドイツ本国のドイツ語
   2)オーストリアのドイツ語
   3)スイスのドイツ語

2. ドイツ語の分化
   1)地域的分化
   2)階層的分化
   3)場面的分化
   4)世代的分化

03年度以降（秋） 01・02年度	ドイツ語学各論b ドイツ語学各論	担当者	諏訪 功

◆講義目的、講義概要

ドイツ語の諸相

さまざまな下位体系から成り立つ複合体としてのドイツ語を概観する。
講義と言語資料の検討とを織りまぜ、ドイツ語の諸相に直接触れる機会を提供したい。

◆ 評価方法

出席、レポート、試験による。

◆テキスト、参考文献

シュリーベン・ランゲ著糟谷他訳『(新版) 社会言語学の方法』三元社 1996年

◆授業計画

1. ドイツ語圏とは何か
   1)ドイツ本国のドイツ語
   2)オーストリアのドイツ語
   3)スイスのドイツ語

2. ドイツ語の分化
   1)地域的分化
   2)階層的分化
   3)場面的分化
   4)世代的分化

03年度以降（春） 01・02年度	ドイツ文学各論a ドイツ文学各論	担当者	酒井 府

◆講義目的、講義概要

ドイツ文学を学ぶ上で根本的な基礎知識として知っておきたい事には、ドイツの文化を理解する上でも欠くことの出来ないギリシャ・ローマ神話の世界、新旧約聖書の内容、北欧神話の世界と並んで、中高ドイツ語による文学であろう。ドイツ語学科の授業である故、授業は後者二つの事に搾らざるを得ないであろう。従って授業のテーマは中高ドイツ語による文学となり、その知識を与えることにより、ドイツ文学理解の礎を与える事を目的とする。しかし全てを取り上げる訳にも行かないので、春学期と秋学期に分けて行う。

◆ 評価方法

学期末試験と出席による。

◆テキスト、参考文献

その都度指摘する。

◆授業計画

1. “Das Nibelungenlied”誕生とその背景
2. その素材の範囲と歴史的事実
3. その素材の範囲と歴史的事実と内容紹介
4. 内容紹介
5. Wolfram von Eschenbach の”Parzival”誕生とその背景
6. その形式とアーサー王伝説
7. その形式とアーサー王伝説、及び内容紹介
8. 内容紹介
9. Hartmann von Aue とその作品
10. “Erec”と”Iwein”とアーサー王伝説
11. “Erec”の内容紹介
12. 内容紹介

03年度以降（秋） 01・02年度	ドイツ文学各論b ドイツ文学各論	担当者	酒井 府

◆講義目的、講義概要

ドイツ文学を学ぶ上で根本的な基礎知識として知っておきたい事には、ドイツの文化を理解する上でも欠くことの出来ないギリシャ・ローマ神話の世界、新旧約聖書の内容、北欧神話の世界と並んで、中高ドイツ語による文学であろう。ドイツ語学科の授業である故、授業は後者二つの事に搾らざるを得ないであろう。従って授業のテーマは中高ドイツ語による文学となり、その知識を与えることにより、ドイツ文学理解の礎を与える事を目的とする。しかし全てを取り上げる訳にも行かないので、春学期と秋学期に分けて行う。

なおシラバスの予定より先に進行する可能性は充分にあり、右記の作品以外を取り上げる事もある。最後に述べるが、昨年一年間の経験で、学生諸君が「作家及び作品を論じなさい」という試験問題にストーリーのみを書いている答案が余りにも多すぎるのに気がつきました。これでは合格点に達しません。

なお授業中に説明する作品と係わる様々な事項にも注意を払ってほしい。

◆ 評価方法

学期末試験と出席による。

◆テキスト、参考文献

その都度指摘する。

◆授業計画

1. “Grêgôrius”と聖徒伝説
2. “Grêgôrius”と聖徒伝説、及び内容紹介
3. 内容紹介
4. “Der arme Heinrich”とその罪
5. “Der arme Heinrich”とその罪、及び内容紹介
6. 内容紹介
7. “Iwein”とその背景
8. “Iwein”とその背景、及び内容紹介
9. 内容紹介
10. Gottfried von Straßburg に就いて
11. Gottfried von Straßburg と”Tristan”
12. 内容紹介

01・02年度	ドイツ語講読（語学）Ⅰ・Ⅱ	担当者	木内 基実

◆講義目的、講義概要

ドイツ語による文法解説を読み、理解する能力を養うと共に、練習を通じて、独文に親しむことを目的とする。

◆ 評価方法

数回の小テストによる。

◆テキスト、参考文献

コピーを用意する。

◆授業計画

簡単なドイツ語による文法説明を読んだ後、平易でしかも十分に実用的な練習問題を解いていく。
練習中心の授業。無意味にむずかしく、何が何だか分からないまま終わってしまい、後に何も残らないような無駄な授業にはしたくない、と考えている。

01・02年度	ドイツ語講読（語学）Ⅰ・Ⅱ	担当者	木内 基実

◆講義目的、講義概要

ドイツ語による文法解説を読み、理解する能力を養うと共に、練習を通じて、独文に親しむことを目的とする。

◆ 評価方法

数回の小テストによる。

◆テキスト、参考文献

コピーを用意する。

◆授業計画

簡単なドイツ語による文法説明を読んだ後、平易でしかも十分に実用的な練習問題を解いていく。
練習中心の授業。無意味にむずかしく、何が何だか分からないまま終わってしまい、後に何も残らないような無駄な授業にはしたくない、と考えている。

01・02 年度	ドイツ語講読（語学）Ⅰ・Ⅱ	担当者	諏訪 功

◆講義目的、講義概要

社会言語学の立場から書かれた論文を読みながら、現代ドイツ語の諸相に触れるとともに、論文文体に慣れるトレーニングを行う。

１０章から成るテキストのそれぞれに、単語、言い回しに関する詳しい注と、内容に関する二、三の設問がついている。従って予習はかなり簡単にできるだろう。授業時間では学生諸君は予習を前提として、さらに補助のテキスト、視聴覚教材等を用い、理解を深めて行きたい。

◆ 評価方法

出席、レポート、試験による。

◆テキスト、参考文献

『ドイツ語を通して見る言葉の話』白水社 2001年

◆授業計画

1. 導入と Lektion 1
2. 以下、Lektion 10 まで

01・02 年度	ドイツ語講読（語学）Ⅰ・Ⅱ	担当者	諏訪 功

◆講義目的、講義概要

社会言語学の立場から書かれた論文を読みながら、現代ドイツ語の諸相に触れるとともに、論文文体に慣れるトレーニングを行う。

１０章から成るテキストのそれぞれに、単語、言い回しに関する詳しい注と、内容に関する二、三の設問がついている。従って予習はかなり簡単にできるだろう。授業時間では学生諸君は予習を前提として、さらに補助のテキスト、視聴覚教材等を用い、理解を深めて行きたい。

◆ 評価方法

出席、レポート、試験による。

◆テキスト、参考文献

『ドイツ語を通して見る言葉の話』白水社 2001年

◆授業計画

1. 導入と Lektion 1
2. 以下、Lektion 10 まで

01・02 年度	ドイツ語講読（語学）Ⅰ・Ⅱ	担当者	永岡 敦

◆講義目的、講義概要

この授業は比較的平易なテキストを媒介にして、1. 文法知識の徹底と強化、2.将来に通じる読解力、訳出力の養成を図ります。併せてドイツ語検定合格を視野に入れて，種々の注意を喚起します。

春セメスターにおいては上述の 1. に重きを置きます。すなわち典型的と目される文例を選択し、これを対象に冠飾句の付け替え、語順の入れ替え、そして時制、態の変換等を反復的に徹底演習します。これらは、たいてい直接の指名によって口頭（ないしは板書）での解答を求めることとなります。

◆ 評価方法

出席重視。最終回にペーパーテスト。

◆テキスト、参考文献

プリントにて配布。

◆授業計画

受講者の人数と，前年度までの文法知識の集積度に左右されるため，シラバスの執筆段階でペースを定めることはできません。

数回，経験則に基づく標準的な進度で講義を行い，受講者の「レベル」を把握した上で改めて講義時に告知します。

01・02 年度	ドイツ語講読（語学）Ⅰ・Ⅱ	担当者	永岡 敦

◆講義目的、講義概要

秋セメスターでは引き続き文法上の演習を繰り返しつつも、重点は 2. に移行させます。というのも、物語の概要を把握すること自体は可能でも、これを「もともと日本語で書かれていた」かのように他人に理解してもらうのは、なかなか容易なことではありません。各々の文と文との論理関係を的確に訳文に反映させることが必要です。授業ではこの点を重視して、単なる「逐語訳の寄せ集め」からの脱却を図ります。

◆ 評価方法

出席。最終回にペーパーテスト。

◆テキスト、参考文献

プリントにて配布。

◆授業計画

春セメスター中の受講者の有りよう，セメスター終了時に実施したペーパーテストの結果を踏まえ，適切に対処します。

配布するテキストの難度を上げる場合もあり。

01・02 年度	ドイツ語講読（文学）Ⅰ・Ⅱ	担当者	酒井 府

◆講義目的、講義概要

第二次世界大戦後のドイツの作家たちがドイツの様々な地方、都市について触れている長くても４，５頁の作品集を読みます。その目的は、多くの現代作家についての知識を育てて欲しいことと、様々な文章・文体に触れて欲しいこと、更にドイツの地域について知って欲しいことです。

◆ 評価方法

授業中にせめて二度は担当部分を正確に訳すことと期末試験と出席による。

◆テキスト、参考文献

"Deutsche Orte" Herausgegeben von Klaus Wagenbach: Verlag Klaus Wagenbach Berlin 1991

◆授業計画

一度の授業で一頁４０行の独文を一頁半程読み進めたい。

01・02 年度	ドイツ語講読（文学）Ⅰ・Ⅱ	担当者	酒井 府

◆講義目的、講義概要

春学期に引き続き先を読みます。

◆ 評価方法

授業中にせめて二度は担当部分を正確に訳すことと期末試験と出席による。

◆テキスト、参考文献

"Deutsche Orte" Herausgegeben von Klaus Wagenbach: Verlag Klaus Wagenbach Berlin 1991

◆授業計画

一度の授業で一頁４０行の独文を一頁半程読み進めたい。

01・02年度	ドイツ語講読（文学）Ⅰ・Ⅱ	担当者	柴田 千秋

◆講義目的、講義概要

今まで習得した語学力（文法的知識と読解力）を総点検できるような教材を用い、じっくり読み進みたい。同時に作品のテーマと現代社会に存在する「個人と社会」との関連を考えていきたい。

文体は平易であるが、文中に込められた寓意を読み取る姿勢を忘れず、毎時間きちんと予習し、率先して発表する積極性を願っている。

皆出席を期待する。

◆ 評価方法

出席状況、学習態度、定期試験等の総合評価

◆テキスト、参考文献

プリント教材

◆授業計画

進度状況により調整しながら行う。

01・02年度	ドイツ語講読（文学）Ⅰ・Ⅱ	担当者	柴田 千秋

◆講義目的、講義概要

美しい、流れるような文体とは、どんな文体かを示す作品を味読し、テーマとなっている孤独で、灰色の生活を送る若者が、明るい希望を見出していく過程を通して、自分自身の毎日を考えてもらいたい。

春学期同様、真剣な学習態度を期待する。

◆ 評価方法

出席状況、学習態度、定期試験等の総合評価

◆テキスト、参考文献

プリント教材

◆授業計画

進度状況により調整しながら行う。

01・02年度	ドイツ語講読（文学）Ⅰ・Ⅱ	担当者	洲崎 恵三

◆講義目的、講義概要

ドイツ語読解力を養成しつつ、「トーマス・マン」文学入門として、最晩年の『日記』を読む。仕事、文通、旅、家族、健康と病気、老い、時代の問題などがテーマ。
『マン家の人々』、『ブデンブローグ家の人々』、『ヴェネツィアに死す』、『魔の山』、『ヴァイマルのロッテ』、『ファウストゥス博士』などの映像も参考に見る。

◆ 評価方法

日常：各自の発表（発音と和訳と文法）を毎時間評価。1学期に少なくとも2回以上みずから手を挙げて発表して下さい。日常の発表がなければ評価できません。
評価：1）各自の訳を提出。2）筆記試験、辞書持込で、速読力、全体の把握力を評価

◆テキスト、参考文献

Thomas Mann:Tagebücher 1953-1955, Fischer Verlag, 1995. テキストはコピーする。
参考文献：トーマス・マン『日記 1946-48』（紀伊国屋書店、2003）

◆授業計画

Ⅰ. Einführung:年表に基づきトーマス・マンの生涯と作品解説、映像観賞。
1955年:
2.,3. Arosa
4.,5. 金婚式、８０歳誕生日記念
6.,7. Stuttgart, Weimar,『シラー試論』講演、Lübeck訪問
8.,9. Den Haag, Noordwijk aan Zee
10., 11. Zürich in dem Kantonsspital
12. 総括

01・02年度	ドイツ語講読（文学）Ⅰ・Ⅱ	担当者	洲崎 恵三

◆講義目的、講義概要

ドイツ語読解力を養成しつつ、「トーマス・マン」文学入門として、最晩年の『日記』を読む。仕事、文通、旅、家族、健康と病気、老い、時代の問題などがテーマ。
『マン家の人々』、『ブデンブローグ家の人々』、『ヴェネツィアに死す』、『魔の山』、『ヴァイマルのロッテ』、『ファウストゥス博士』などの映像も参考に見る。

◆ 評価方法

日常：各自の発表（発音と和訳と文法）を毎時間評価。1学期に少なくとも2回以上みずから手を挙げて発表して下さい。日常の発表がなければ評価できません。
評価：1）各自の訳を提出。2）筆記試験、辞書持込で、速読力、全体の把握力を評価

◆テキスト、参考文献

Thomas Mann:Tagebücher 1953-1955, Fischer Verlag, 1995. テキストはコピーする。
参考文献：トーマス・マン『日記 1946-48』（紀伊国屋書店、2003）

◆授業計画

Ⅱ.トーマス・マンの作品鑑賞。
1954年:
2.,3. Taormina(Sizilien)
4.,5. Rom, Fiesole(Firenze)
6.,7. Kilchberg
8.,9. St. Moritz
10.,11. Sils Maria
12. 総括

01・02 年度	ドイツ語講読（文学）Ⅰ・Ⅱ	担当者	関 徹雄

◆講義目的、講義概要

19 世紀末、"たそがれのウィーン"を思わせる恋愛小説を読む。文章は平易、内容も興味を起こさせる作品なので、文法のトレーニングと文法の総復習を目的とした講義を行う。

◆ 評価方法

試験による。辞書を持参してもよい。

◆テキスト、参考文献

Ferdinand von Saar:Marianne
コピーして配布する。参考文献は随時指示

◆授業計画

1.受講者の読解力調査
2.同上
3.同上
4.テキスト講読、以下毎回 2〜3 ページずつ読み続ける。

01・02 年度	ドイツ語講読（文学）Ⅰ・Ⅱ	担当者	関 徹雄

◆講義目的、講義概要

19 世紀末、"たそがれのウィーン"を思わせる恋愛小説を読む。文章は平易、内容も興味を起こさせる作品なので、文法のトレーニングと文法の総復習を目的とした講義を行う。

◆ 評価方法

試験による。辞書を持参してもよい。

◆テキスト、参考文献

Ferdinand von Saar:Marianne
コピーして配布する。参考文献は随時指示

◆授業計画

1.受講者の読解力調査
2.同上
3.同上
4.テキスト講読、以下毎回 2〜3 ページずつ読み続ける。

03年度以降（春） 01・02年度	ドイツ文化史概論a ドイツ文化史概論	担当者	渡部 重美

◆講義目的、講義概要

講義目的：
これからドイツ語圏の文化について学んでいこうと思っている学生諸君のために、文化史上の基本概念について説明したり、あるいは、顕著な歴史的・文化史的事象について概観して行く。この講義が、学生諸君が自分のテーマを見つけ、あるいはすでに持っているテーマを深めるための一助となれば幸いである。
講義概要：
ドイツ語圏の文化について、一般的な通史の区分にそって説明・概観して行くが、場合によっては同一テーマのもとに異なる時代を関連付けて論じるなどの寄り道もしたいと思っているので、春学期・秋学期通しての履修が望ましい。
また、できる限り音声、映像資料なども使用したいと思っている。

◆ 評価方法

学期末の筆記試験と授業への参加度（授業中に作業をしてもらったり、あるいは授業の最後に感想を書いてもらう）による。

◆テキスト、参考文献

その都度プリントを配布する。

◆授業計画

1 オリエンテーション（講義についてのより詳しい説明、評価方法等についての確認など）
2 中世の文化
3 中世の文化
4 宗教改革の時代
5 宗教改革の時代/三十年戦争とバロック文化
6 三十年戦争とバロック文化
7 啓蒙の時代Ⅰ
8 啓蒙の時代Ⅱ
9 啓蒙の時代Ⅲ
10 フランス革命とドイツⅠ
11 フランス革命とドイツⅡ
12 （予備日）

03年度以降（秋） 01・02年度	ドイツ文化史概論b ドイツ文化史概論	担当者	渡部 重美

◆講義目的、講義概要

講義目的：
春学期に引き続き、これからドイツ語圏の文化について学んでいこうと思っている学生諸君のために、文化史上の基本概念について説明したり、あるいは、顕著な歴史的・文化史的事象について概観して行く。
講義概要：
春学期と同じで、ドイツ語圏の文化について、一般的な通史の区分にそって説明・概観して行くが、場合によっては同一テーマのもとに異なる時代を関連付けて論じるなどの寄り道もしたいと思っているので、春学期・秋学期通しての履修が望ましい。

◆ 評価方法

学期末の筆記試験と授業への参加度（授業中に作業をしてもらったり、あるいは授業の最後に感想を書いてもらう）による。

◆テキスト、参考文献

その都度プリントを配布する。

◆授業計画

1 オリエンテーション（講義についてのより詳しい説明、評価方法等についての確認、また、春学期からの通年で履修している学生諸君がほとんどの場合は、春学期試験の返却と解説）
2 ドイツ・ロマン派についてⅠ
3 ドイツ・ロマン派についてⅡ
4 芸術時代の終焉と革命の時代
5 ブルジョアの時代と反時代的考察
6 世紀末の文化
7 ワイマール文化Ⅰ
8 ワイマール文化Ⅱ
9 ナチズムの時代と文化Ⅰ
10 ナチズムの時代と文化Ⅱ
11 第二次世界大後ドイツの知的・文化的状況
12 （予備日）

03年度以降（春） 01・02年度	ドイツの思想a ドイツの思想	担当者	松丸 壽雄

◆講義目的、講義概要

ドイツ語で書かれたテキストを実際に読みながら、ドイツの思想に触れ、自分勝手ではなく、客観的に論証し得る仕方で、ものの考え方を学ぶ。
Jostein Gaarder の"*Sofies Welt*"をテキストにして、それを読みながら、哲学とは何かを学び、さらに現実の世界に起る諸問題を考える手がかりを得るようにする。従って、単なるテキストの解釈だけでなくて、ドイツの思想家の考え方を学ぶことを通して現実の諸問題を分析し、みずから答えを探ることをするように努める。これを遂行するためには、一緒に考える態度が求められる。今年は Freud と unsere eigene Zeit の章にある思想を中心に学ぶ。人数次第だが、演習形式をとる予定である。

◆ 評価方法

翻訳と出席とレポートの内容評価

◆テキスト、参考文献

Jostein Gaarder: *Sofies Welt* (ISBN: 3-446-17347-1 oder 3-423-62001-3)

◆授業計画

1 概要説明
2 Freud (1)
3 Freud (2)
4 Freud (3)
5 Freud (4)
6 Freud (5)
7 Diskussion
8 Jung (1)
9 Jung (2)
10 Jung (3)
11 Jung (4)
12 Diskussion

03年度以降（秋） 01・02年度	ドイツの思想b ドイツの思想	担当者	船戸 満之

◆講義目的、講義概要

20世紀ドイツの動向に強い影響を及ぼした思想運動として、1）第一次大戦後のドイツ革命を主導した社会主義と、2）それに対する反動としてワイマール共和国時代に成長した国家社会主義（ナチズム）がある。この二つの流れについてはすでに膨大なドキュメントがあるが、講義の目的は第一次大戦前後のドイツ・アバンギャルド芸術としての表現主義の評価をめぐる1930年代の論争に現れた両者の世界観、歴史観を探求することにある。
まず、ナチス政権掌握直後の1933年に、表現主義詩人の一人と目されていたベンがナチス支持の旗幟を鮮明に掲げたラジオ講演をきっかけとする彼と亡命文学者クラウス・マンとの言説の応酬を取り上げる。
次にこのマンを含めて亡命思想家の間で37,8年に行われたいわゆる表現主義論争を考察する。とりわけ哲学者ルカーチとユートピア思想家エルンスト・ブロッホの対立点を明らかにする。
まとめとしてユートピアとしてのカント永久平和論とＥＵとの関わりに触れたい。

◆ 評価方法

出席、レポート、試験による。

◆テキスト、参考文献

1） 毎回、資料を配布する。2）船戸満之著『表現主義論争とユートピア』情況出版、2002年

◆授業計画

1 ベンのラジオ講演「新国家と知識人」1933年4月24日
2 クラウス・マンのベン宛私信1933年5月9日
3 ラジオ放送されたベンのマン宛公開書簡。1933年5月24日
4 クラウス・マンの論文「ゴットフリート・ベン——ある惑いの物語」1937年9月
5 第二次大戦後、ベンがエッセイ集『二重生活』で行った自己弁明
6 エクスクルス：ドイツ革命とＵＳＰＤ
7 表現主義論争の先駆的論文、ルカーチ著「表現主義の偉大と頽落」1933年
8 表現主義論争を提起したチークラーのエッセイ「いまやこの遺産は絶えた——」1937年『言葉』誌9月号
9 1937年7月19にミュンヘンでスタートとした「退廃芸術展」。ナチスは表現主義を含むアバンギャルド美術に退廃芸術というレッテルを貼って展示した。
10 エルンスト・ブロッホの表現主義擁護論「表現主義についての討論」1938年『言葉』誌6月号。表現主義におけるユートピア的モーメントを評価した。
11 論争についてルカーチが総括した論文「リアリズムが問題だ」1938年『言葉』誌6月号
12 まとめ：ＥＣの中に継承されているカントのユートピア思想。

03年度以降（春） 01・02年度	ドイツの音楽a ドイツの音楽	担当者	木村 佐千子

◆講義目的、講義概要

ドイツ語圏の国々の音楽に親しんでいただく授業です。中世から現代までの音楽史上のさまざまな時代に書かれた多様な音楽を、たくさんの録音資料（主にCD）で聴いていただきます。そのなかで、各時代の音楽様式や書法上の特徴等について概観し、理解を深めていただきたいと思います。秋学期には、民謡や国歌もお聴かせする予定です。

注意事項：音楽を聴く授業なので、授業中は静粛を守ってください。私語等で他の受講生に迷惑をかける学生には、退室を指示することがあります。

◆ 評価方法

筆記試験。また、授業中に感想などを書いていただく場合があります。

◆テキスト、参考文献

授業中に適宜紹介します。

◆授業計画

各回ごとにトピックを定めてお話しします。春学期には、中世から18世紀半ば頃までに書かれた音楽を扱います。

03年度以降（秋） 01・02年度	ドイツの音楽b ドイツの音楽	担当者	木村 佐千子

◆講義目的、講義概要

春学期と同様
（通年で履修することが望ましい）

ドイツ語圏の国々の音楽に親しんでいただく授業です。中世から現代までの音楽史上のさまざまな時代に書かれた多様な音楽を、たくさんの録音資料（主にCD）で聴いていただきます。そのなかで、各時代の音楽様式や書法上の特徴等について概観し、理解を深めていただきたいと思います。秋学期には、民謡や国歌もお聴かせする予定です。

注意事項：音楽を聴く授業なので、授業中は静粛を守ってください。私語等で他の受講生に迷惑をかける学生には、退室を指示することがあります。

◆ 評価方法

筆記試験。また、授業中に感想などを書いていただく場合があります。

◆テキスト、参考文献

授業中に適宜紹介します。

◆授業計画

各回ごとにトピックを定めてお話しします。秋学期には、18世紀半ば頃から現代までに作曲された音楽作品、民謡、国歌を扱います。

03年度以降（春） 01・02年度	ドイツの美術a ドイツの美術	担当者	山本 淳

◆講義目的、講義概要

講義目的
1)ドイツ・ルネサンス期から世紀末に至るドイツ美術（造形芸術）の歴史を、社会/文化史的な側面を考慮に入れながら概観する。
2)ヨーロッパ美術史の中にドイツ美術がどう位置づけられるかを明らかにするとともに、その特質・独自性を探る。
3)ドイツ美術を代表する、できるだけ多くの作品に触れる。

講義概要
ドイツ美術（造形芸術）の特質は、形態や色彩という感覚的な媒体に、宗教的な意識や祈りを、時代精神の胎動を、また伝統的な規範や社会に対するラディカルな批判を結びつけていく点に見出すことができる。この講義では、（ヨーロッパ全体を視野に入れ）それぞれの時代の社会/文化の構造や動きと関連させながら、できるだけ多くの作品を眺め、この命題の妥当性を検証していく。
頭の中を整理するため、一応通時的な流れをとるが、つねに今日的、共時的な視点を意識しながら話を進めたい。

◆ 評価方法

講義で扱ったテーマに関するレポートにより評価。詳細は授業中に指示する。

◆テキスト、参考文献

テキストは特に指定しない。テーマごとにレジュメ及び資料プリントを配布する。参考文献は必要に応じその都度指示する。

◆授業計画

1. オリエンテーション：1)講義のねらい　2)講義の進め方　3)評価方法等について
2. ドイツ・ルネサンスの芽生え：グリューネヴァルト、リーメンシュナイダー、シュトース
3. ドイツ・ルネサンスと宗教改革：デューラー、クラーナハ（父）、ホルバイン（子）
4. 同上
5. バロック・ロココ時代：30年戦争；南ドイツ/オーストリアのカトリック宗教建築
6. 新古典主義：ヴィンケルマン『ギリシア芸術模倣論』；（ダヴィッド、アングル）
7. ドイツ・ロマン派：フリードリヒ、ルンゲ
8. 同上
9. レアリスム・印象派/後期印象派：（クールベ、ミレー、マネ、モネ、ルノワール、ドガ/セザンヌ、ファン・ゴッホ、ゴーガン、スーラ、ロートレック）
10. 象徴主義と世紀末美術：（モロー、ルドン、ムンク、）ウィーン分離派＝クリムト、シーレ
11. 同上
12. まとめ

03年度以降（秋） 01・02年度	ドイツの美術b ドイツの美術	担当者	山本 淳

◆講義目的、講義概要

講義目的
1)世紀末から現代に至るドイツ美術（造形芸術）の歴史を、社会/文化史的な側面を考慮に入れながら概観する。
2)ヨーロッパ美術史の中にドイツ美術がどう位置づけられるかを明らかにするとともに、その特質・独自性を探る。
3)ドイツ美術を代表する、できるだけ多くの作品に触れる。

講義概要
ドイツ美術（造形芸術）の特質は、形態や色彩という感覚的な媒体に、宗教的な意識や祈りを、時代精神の胎動を、また伝統的な規範や社会に対するラディカルな批判を結びつけていく点に見出すことができる。この講義では、（ヨーロッパ全体を視野に入れ）それぞれの時代の社会/文化の構造や動きと関連させながら、できるだけ多くの作品を眺め、この命題の妥当性を検証していく。
頭の中を整理するため、一応通時的な流れをとるが、つねに今日的、共時的な視点を意識しながら話を進めたい。

◆ 評価方法

講義で扱ったテーマに関するレポートにより評価。詳細は授業中に指示する。

◆テキスト、参考文献

テキストは特に指定しない。テーマごとにレジュメおよび資料プリントを配布する。参考文献は必要に応じその都度指示する

◆授業計画

1. オリエンテーション：春学期の復習と秋学期への導入
2. ユーゲントシュティール（アール・ヌーヴォー）の芸術
3. ドイツ表現主義：「ディー・ブリュッケ」と「デア・ブラウエ・ライター」を中心に
4. 同上
5. ダダ/シュルレアリスム：ディックス、グロス、ベックマン、ハートフィールド、エルンスト
6. バウハウスとその周辺：（オランダ「デ・ステイル」、）グロピウス、カンディンスキー、クレー、シュレンマー等
7. 同上
8. ナチ時代：「退廃芸術展」と「大ドイツ芸術展」、リーフェンシュタールの映画
9. 同上
10. 現代ドイツ美術：ボイス、キーファー
11. ドイツ語圏美術館めぐり
12. まとめ

03年度以降（春） 01・02年度	ドイツの演劇a ドイツの演劇	担当者	越部 暹

◆講義目的、講義概要

主としてドイツ現代劇を扱うが、主眼はそれらを文学史・演劇史のように<通事的>に語るのではなく、今日の視点から<共時的>に、つまり今日の哲学・社会思想史・心理学等の関心事からドイツ（弥日本の）演劇の今日における存在意義を問うことにある。受講者に、複雑な今日の社会を見通す眼力を育て、わが国の作劇術や上演術の発展にも役立つような講義を行いたい。
講義はビデオ等を多用し、演劇の視聴覚面を重視する。
前期はB．ブレヒト劇とH．ミュラー劇を中心に講じるが、彼らの劇作が登場する前提事項、彼らの劇作の<両面価値>的性格– つまり時・所が替われば別の視点から対象が見えてくる– 性格を強調して論じたい。

◆ 評価方法

最終授業時に教場で（指定用紙に）レポートを正書・提出してもらう。出席点・授業への積極的参加度も重視する。

◆テキスト、参考文献

適時、コピー・プリントを配布する。
参考文献については教場で述べる。

◆授業計画

1.オリエンテーション：成績評価方法、授業の進め方・受け方（個人と社会、自己と他者等）。
2. 参考文献の指示。ドラマとは何か。ドラマトゥルギー（作劇術）の変遷。
3. ブレヒト劇の今日性、両面価値性。『三文オペラ』の紹介。（カセット／ビデオ使用）
4. 同上。K．ヴァイルの音楽。ブレヒトの４大作品の紹介：『肝っ玉おっ母さんとその子供たち』。
5. 同上。『肝っ玉おっ母さんとその子供たち』のビデオ紹介。『セチュアンの善人』
6. 同上。『コーカサスの白墨の輪』とそのビデオ紹介。
7. 同上。『ガリレイの生涯』とM．バフチンの両面価値理論の紹介。
8. ブレヒトの<教育劇>の紹介。『処置』『ホラティ人とクリアティ人』等。
9. H．ミュラーの<教育劇>の今日性。『モーゼ』『ホラティ人』等の紹介。
10. 同上。ミュラー劇の特性（『ヴォロコラムクス幹線路』を中心に。）
11. R．バルト、G．ドゥルーズ、F．ガタリ、J．クリステヴァの理論。ミュラーの『ハムレットマシーン』のビデオ紹介。
12.（教場で）レポートの正書・提出を求める。

03年度以降（秋） 01・02年度	ドイツの演劇b ドイツの演劇	担当者	越部 暹

◆講義目的、講義概要

主としてドイツ現代劇を扱うが、主眼はそれらを文学史・演劇史のように<通事的>に語るのではなく、今日の視点から<共時的>に、つまり今日の哲学・社会思想史・心理学等の関心事からドイツ（や日本の）演劇の今日における存在意義を問うことにある。
受講者に、複雑な今日の社会を見通す眼力を育て、わが国の作劇術や上演術の発展にも役立つような講義を行いたい。
講義はビデオ等を多用し、演劇の視聴覚面を重視する。
後期はP．ハントケ劇、B．シュトラウス劇、E．イェリネク劇を中心に講じるが、彼らの劇作の<展示場>的性格、– つまり<筋>や<メッセージ>を追う論理中心型の表現演劇ではなく<身体表現>を通じて現実との共時性を感知させるような感性型の非表現演劇– を紹介し、その援用に、数々の現代英がシーンも紹介したい。

◆ 評価方法

最終授業時に教場で（指定用紙に）レポートを正書・提出してもらう。出席点・授業への積極的参加度も重視する。

◆テキスト、参考文献

適時、コピー・プリントを配布する。
参考文献については教場で述べる。

◆授業計画

1.オリエンテーション：成績評価方法・授業の進め方・受け方（個人と社会、自己と他者、等）。
2.参考文献の指示。ドラマトゥルギー（作劇術）の現在。M．ヴァルザーの<意識の演劇>。
3.同上。S．スピルバーグ映画『1941』とJ＝P．メルヴィル映画『リスボン特急』の部分紹介。
4. <意識の演劇>の俳優術。P．ハントケ映画『左ききの女』、E．ロメール映画『O侯爵夫人』の紹介。
5. ハントケの<純粋言語劇>。『客観罵倒』『カスパー』を例に。
6.同上。『ボーデン湖上の騎行』と『不安』を例に。（『カスパー』『不安』のビデオ。）
7W．ヴェンダース/ハントケの映画『ベルリン天使の詩』の紹介。
8.B．シュトラウス劇とP．シュタインの<ベルリン・シャウビューネ>での演出について。
9.シュトラウスの『大人も子供も』とそのビデオ紹介。
10.E．イェリネス劇の<コラージュ>性R．バルト、J．ボードリヤール、J．クリステヴァの理論。
11.イェリネクの<コラージュ>劇『雲。故郷。』とそのビデオ紹介。
12.（教場で）レポートの正書・提出を求める。

03年度以前（春） 01・02年度	ドイツ思想・芸術各論a ドイツ思想・芸術各論	担当者	K. Oバイスヴェンガー

◆ 講義目的、講義概要

Die Beziehung der Musik zu den anderen Kuensten
In allen Epochen der Kunst lassen sich Querverbindungen der Musik zu den anderen Kunstgattungen nachweisen. Dabei ist festzustellen, dass bis zum Barock von gesamteuropaeischen Epochen gesprochen werden kann. Ab dem Klassizismus gibt es unterschiedliche nationale Entwicklungen. Ausserdem sind nicht mehr alle Kuenste mit eigenem Stil in den einzelnen Epochen vertreten. Doch ist in allen Epochen festzustellen, dass sich die verschiedenen Kuenste gegenseitig bedingen. Die Schwerpunkte der Verbindungen verschieben sich jedoch. Die sakrale Musik vom Mittelalter bis Barock ist nicht denkbar ohne den entsprechenden Kirchenraum, die Orchestermusik ab dem 18. Jahrhundert nicht ohne den immer groesser werdenden Konzertsaal. Anders im 19. und 20. Jahrhundert: Hier findet eine Verschmelzung zwischen Musik und Malerei statt, Gemaelde bilden den Anlass fuer Kompositionen, abstrakte Malerei versucht Musik zu sein. Der Kurs will einen Ueberblick ueber die verschiedenen Kunstepochen geben und dabei besonders auf die Grenzbereiche zwischen den Kuensten eingehen. Die Unterrichtssprache ist Deutsch. Ich halte deshalb keine klassische Vorlesung; vielmehr erhalten alle Teilnehmer die Vorlesungsmanuskripte zur Vorbereitung und zum Durcharbeiten waehrend des Unterrichts

◆ 評価方法

Regelmaessige Teilnahme. Selbststaendige Vorbereitung der einzelnen Unterrichtsstunden. Test jeweils am Ende des Semesters.

◆テキスト、参考文献

Kopien

◆ 授業計画

1. Einfuehrung
2. Mittelalter: die Grundlagen der Kuenste im Mittelalter
3. Mittelalter: die Gregorianik und die romanische bzw. gotische Baukunst
4. Renaissance: die Grundlagen der Kuenste in der Renaissance
5. Renaissance: Motetten und Madrigale
6. Barock: die Grundlagen der Kuenste im Barock
7. Fortsetzung
8. Die Festkultur des Barock - die Verbindung der Kuenste
9. Die Barockoper: die Verbindung von Buehnendichtung, Musik und Tanz
10. Die Bedeutung der Symmetrie im Barock: Architektur, Gartenbaukunst und die Kompositionen J. S. Bachs
11. Die Figurenlehre: die Verbindung von Musik und Sprache
12. Das Ende des Barock: das Rokoko

03年度以降（秋） 01・02年度	ドイツ思想・芸術各論b ドイツ思想・芸術各論	担当者	K. Oバイスヴェンガー

◆講義目的、講義概要

◆ 評価方法

◆テキスト、参考文献

◆ 授業計画

13. Klassizismus und Klassik in den Kuensten
14. Der klassische Stil in der Musik
15. Die Romantik: die Grundlagen der romantischen Kuenste
16. Musik und Sprache bei Franz Schubert
17. Idee fixe bei Hektor Berlioz
18. Die Wiedergabe von aussermusikalischen Elementen in der Musik: die Programmmusik
19. Das Leitmotiv im Musikdrama Richard Wagners
20. Die sinfonische Dichtung bei Franz Liszt und Richard Strauss
21. Die Malerei in der Musik
22. Die Verbindung von Musik und bildender Kunst in der Moderne
23. Fortsetzung
24. Zusammenfassung

01・02 年度	ドイツ語講読（思想）Ⅰ・Ⅱ	担当者	工藤 達也

◆講義目的、講義概要

☆ドイツ語で書かれた思想的内容のテクストを読解していくことを通し、読解力や思考力を養う。
☆知的文章が書かれた歴史的背景を知り、それを検討することを通して、教養の質を高める。

◆ 評価方法

各期末テスト、および平常点として出席と授業への参加度も考慮し、総合評価

◆テキスト、参考文献

Sigmund Freud: Der Dichter und das Phantasieren(高橋義孝編『詩人と空想』同学社)

◆授業計画

今年度はフロイトのテクストを読んでいきます。テクストは日本語の解説がついた読本を採用し、担当を前もって決めておいて訳してもらいます。
授業中に平易な解説を加えたりして、理解を促しますので、難解だと思わずに参加してください。

授業初日に担当者を決めてしまい、2回目以降から講読に入りますので、授業初日には教科書を購入しておいて参加しておくことが望ましい。

01・02 年度	ドイツ語講読（思想）Ⅰ・Ⅱ	担当者	工藤 達也

◆講義目的、講義概要

☆ドイツ語で書かれた思想的内容のテクストを読解していくことを通し、読解力や思考力を養う。
☆知的文章が書かれた歴史的背景を知り、それを検討することを通して、教養の質を高める。

◆ 評価方法

各期末テスト、および平常点として出席と授業への参加度も考慮し、総合評価

◆テキスト、参考文献

Sigmund Freud: Der Dichter und das Phantasieren(高橋義孝編『詩人と空想』同学社)

◆授業計画

今年度はフロイトのテクストを読んでいきます。テクストは日本語の解説がついた読本を採用し、担当を前もって決めておいて訳してもらいます。
授業中に平易な解説を加えたりして、理解を促しますので、難解だと思わずに参加してください。

授業初日に担当者を決めてしまい、2回目以降から講読に入りますので、授業初日には教科書を購入しておいて参加しておくことが望ましい。

01・02 年度	ドイツ語講読（思想）Ⅰ・Ⅱ	担当者	桜井 より子

◆講義目的、講義概要

ドイツ語のテキストを読み、読解力と思考力を養い、レポート（日本語）を書いて発表できるようにする。

最近、日本では「スロー・フード」とか「スロー・ライフ」といった言葉が聞かれるようになりました。効率偏重の社会のひずみが、環境破壊、過労死や自殺者の増加、家庭や学校での事件、医療事故、食品汚染等々として現れているとみられるからでしょう。

一方では、さらに時強い雨声を重視して社会制度や教育機関の再編が進められようとしています。

この授業では、アメリカの社会心理学者 Robert Levine が、世界各地での“時間”をめぐる体験や調査もとに書いた"A Geography of Time"という文化人類学的な著書のドイツ語訳"Eine Landkarte der Zeit. Wie Kulturen mit Zeit umgehen"を読みながら、ライフスタイルの見直しをテーマに、さまざまな社会現象、文学や思想について考えてみたい。

◆ 評価方法

授業に出席して発言し、レポートを提出すること。

◆テキスト、参考文献

Eine Landkarte der Zeit からの抜粋をプリントする。参考文献は授業中に紹介する。

◆授業計画

1. テキスト及び講義内容の紹介
2. テキストの Vorwort
3. Kapitel 1:Tempo. Der Takt des Lebens
4. 〃
5. Kapitel 2: Dauer. Die psychische Uhr
6. 〃
7. Kapitel 3: Eine kurze Geschichte der Uhrzeit
8. 〃
9. Kapitel 4: Leben nach der Ereigniszeit
10. 〃
11. Kapitel 5: Zeit und Macht　Die Regeln des Wartespiels
12. 〃

01・02 年度	ドイツ語講読（思想）Ⅰ・Ⅱ	担当者	桜井 より子

◆講義目的、講義概要

ドイツ語のテキストを読み、読解力と思考力を養い、レポート（日本語）を書いて発表できるようにする。

最近、日本では「スロー・フード」とか「スロー・ライフ」といった言葉が聞かれるようになりました。効率偏重の社会のひずみが、環境破壊、過労死や自殺者の増加、家庭や学校での事件、医療事故、食品汚染等々として現れているとみられるからでしょう。

一方では、さらに時強い雨声を重視して社会制度や教育機関の再編が進められようとしています。

この授業では、アメリカの社会心理学者 Robert Levine が、世界各地での“時間”をめぐる体験や調査もとに書いた"A Geography of Time"という文化人類学的な著書のドイツ語訳"Eine Landkarte der Zeit. Wie Kulturen mit Zeit umgehen"を読みながら、ライフスタイルの見直しをテーマに、さまざまな社会現象、文学や思想について考えてみたい。

◆ 評価方法

授業に出席して発言し、レポートを提出すること。

◆テキスト、参考文献

Eine Landkarte der Zeit からの抜粋をプリントする。参考文献は授業中に紹介する。

◆授業計画

1. レポートの発表、ディスカッション
2. Kapitel 6: Das Lebenstempo ist Ländern
3. 〃
4. Kapitel 7: Gesundheit, Reichtum, Glück und soziales Engagement
5. 〃
6. Kapitel 8: Die Widersprüchlichkeit Japans
7. 〃
8. Kapitel 9: Zeitliche Kompetenz
9. 〃
10. Kapitel 10: Das Tempo verändern
11. 〃
12. まとめ

01・02 年度	ドイツ語講読（思想）Ⅰ・Ⅱ	担当者	船戸 満之

◆講義目的、講義概要

独検 3 級合格程度のドイツ語運用力を身につけた学生が 1、2 年次に学んだドイツ語文法の知識を確認しながらブレヒトのテキストを読むのを手助けする。

テキストはブレヒトが、Keuner 氏という架空の人物の口を借りて、自身の自然観、社会観、芸術観を語ったもの。長年にわたって書き溜めた短いパラーベル（寓話）集である。Keuner は Keiner（誰でもない）を諷しているようだ。直接自分で語るのではなく、「———とコイナさんは語った」というように、Keuner 氏の口を介することで、言説を客観視する視点が得られる。間接話法の練習にも好都合だ。

なお詩人長谷川四郎に「コイナさん談義」というタイトルで一部翻訳があるので関心のある学生に一読を薦める。

◆ 評価方法

訳読（回数、テキストの朗読、訳読の内容）と、随時及び学期末のテスト。

◆テキスト、参考文献

Bertolt Brecht:Geschchte vom Herrn Keuner（小宮編『コイナー氏の話』）郁文堂

◆授業計画

第 1 回目の講読の時間のみドイツ語プリントを配布して、訳を提出してもらうので独和辞典を持参のこと。

第 2 回目以降は毎回テキストを 2 ないし 3 ページづつ講読を進める。

01・02 年度	ドイツ語講読（思想）Ⅰ・Ⅱ	担当者	船戸 満之

◆講義目的、講義概要

独検 3 級合格程度のドイツ語運用力を身につけた学生が 1、2 年次に学んだドイツ語文法の知識を確認しながらブレヒトのテキストを読むのを手助けする。

テキストはブレヒトが、Keuner 氏という架空の人物の口を借りて、自身の自然観、社会観、芸術観を語ったもの。長年にわたって書き溜めた短いパラーベル（寓話）集である。Keuner は Keiner（誰でもない）を諷しているようだ。直接自分で語るのではなく、「———とコイナさんは語った」というように、Keuner 氏の口を介することで、言説を客観視する視点が得られる。間接話法の練習にも好都合だ。

なお詩人長谷川四郎に「コイナさん談義」というタイトルで一部翻訳があるので関心のある学生に一読を薦める。

◆ 評価方法

訳読（回数、テキストの朗読、訳読の内容）と、随時及び学期末のテスト。

◆テキスト、参考文献

Bertolt Brecht:Geschchte vom Herrn Keuner（小宮編『コイナー氏の話』）郁文堂

◆授業計画

第 1 回目の講読の時間のみドイツ語プリントを配布して、訳を提出してもらうので独和辞典を持参のこと。第 2 回目以降は毎回テキストを 2 ないし 3 ページづつ講読を進める。

01・02 年度	ドイツ語講読（思想）Ⅰ・Ⅱ	担当者	宮村 重徳

◆講義目的、講義概要

1. 講義目的：
ドイツ語文献解釈を含め、実存主義文学や実存論哲学の原初モデルとされるシュライエルマッハーの解釈学に、今や百科爛漫の「解釈学的経験」（自己理解の固有規則）の原型イメージを探る。対象は中級以上のドイツ語読解力を有する学生、受講するあなた自身がそのリソースである。

2. 講義概要：
なるほど、シュライエルマッハーの『宗教講話』(Rede über die Religion)が啓蒙主義及び浪漫主義の教養人たち（たとえばシュレーゲル兄弟）に与えたインパクトは見逃せない。しかしそれ以上に、彼の『解釈学』(Hermeneutik)はディルタイの「精神科学」・ハイデッガーの実存哲学を理解する上で、この上なく重要である。春学期は主として円熟期の彼のもう一方の軸・『弁証法』(Dialektik)への足取りを掴みたい。その背後に、ヘーゲルやフォイエルバッハの熱い息が感じられるから、これまた見逃せない。秋学期にその『弁証法』へ読み進めるかどうかは、受講者の熱意と意気次第。或いは、二兎を追っても一兎も得ないことにならぬよう、編集者であるマンフレッド・フランクの序文・解説を熟読することによって『個物的普遍』(Das individuelle Allgemeine)の真意を問いつつ「自己をいう至上の偶像」に迫りたい。

◆ 評価方法

出席と（講読の範囲内で、ドイツ語での）討議、レポート（日本語も可）と定期試験。

◆テキスト、参考文献

授業計画内に記入

◆授業計画

春学期（＊印がその学期のメイン・プログラム）
①Orientierung aus Thema（オリエンテーション、講義の仕方と主題解説）
②Hermeneutik und Kritik（『解釈学と批評』の素読と基礎理解）＊
③Hermeneutik und Dialektik（『解釈学と弁証法』、Suhrkamp 版の抜粋から）

◆テキスト、参考文献

テキスト：
Freidlich Daniel Schleiermacher, “Hermeneutik und Kritik”(Suhrkamp Verlag, stw 211, 1977)。
他に、”Hermeneutik”(Carl-Winter Uni-Verlag, 1974. hrsg. von Kimmerle. F. D. シュライエルマッハー『解釈学の構想』、以文社、1984)参照、原文は受講者にコピーして手渡す。
参考文献：
ヴィルヘルム・ディルタイ『解釈学の成立』(以文社)。
麻生建『解釈学』（ぷろぱあぎょう叢書）、世界書院、1985 年。
Manfred Frank:”Das individuelle Allgemeine – Textstruktierung und –interpretation nach Schleiermacher”(Suhrkamp Verlag 1977)

01・02 年度	ドイツ語講読（思想）Ⅰ・Ⅱ	担当者	宮村 重徳

◆講義目的、講義概要

同上

◆ 評価方法

同上

◆テキスト、参考文献

◆授業計画

秋学期
④Franks explizierende Einleitung（M. フランクの序文・解説）＊
⑤Wirkungsgeschichte und Aufgaben heute（影響史と今日的課題）
⑥Zusammenfassung（まとめ、論文指導）

01・02 年度	ドイツ語講読（芸術）Ⅰ・Ⅱ	担当者	木村 佐千子

◆講義目的、講義概要

音楽にまつわるドイツ語の文章を読み、読解力の向上を目指すと同時に、音楽についての理解も深めていただければと思います。文中で扱われる音楽に関連した CD 等を授業中にお聴かせします。

注意事項：受講者全員に毎週、予習を課します。あてられても答えられないということがないよう、充分準備して臨んでください。

◆ 評価方法

筆記試験および平常点（出席、予習等）

◆テキスト、参考文献

Kirsten Beisswenger、山路朝彦共著『ドイツ語圏音楽都市めぐり Reisen wir durch die Musikgeschichte!』（白水社、2001年）

◆授業計画

テキストを１～２週に１課ずつのペースで読み進めていくほか、コピーで配布する補助教材も適宜読みたいと思います。

01・02 年度	ドイツ語講読（芸術）Ⅰ・Ⅱ	担当者	木村 佐千子

◆講義目的、講義概要

春学期と同様（通年で履修することが望ましい）

音楽にまつわるドイツ語の文章を読み、読解力の向上を目指すと同時に、音楽についての理解も深めていただければと思います。文中で扱われる音楽に関連した CD 等を授業中にお聴かせします。

注意事項：受講者全員に毎週、予習を課します。あてられても答えられないということがないよう、充分準備して臨んでください。

◆ 評価方法

筆記試験および平常点（出席、予習等）

◆テキスト、参考文献

Kirsten Beisswenger、山路朝彦共著『ドイツ語圏音楽都市めぐり Reisen wir durch die Musikgeschichte!』（白水社、2001年）

◆授業計画

テキストを１～２週に１課ずつのペースで読み進めていくほか、コピーで配布する補助教材も適宜読みたいと思います。

01・02 年度	ドイツ語講読（芸術）Ⅰ・Ⅱ	担当者	辻本 勝好

◆講義目的、講義概要

ニーチェ(1844-1900)の処女作『悲劇の誕生』(Die Geburt der Tragödie aus dem Geiste der Musik 1872)のなかからいくつかの章を精選し、それらの原典講読を通じて、彼の格調の高い論文形式の文体(Periode)に慣れるのと同時に、実人生にとっての芸術の意義について考察して行きたい。
『悲劇の誕生』のなかでニーチェは、古代ギリシアの明るいアポロン的なイメージだけでなく、その背後には人間の明るい衝動に満ちたディオニュソス的な暗黒面もあったことを指摘しつつ、ギリシャ悲劇をそうしたアポロン的なものとディオニュソス的なものとの協同作業の結果とみなしているが、その根底には「美的現象としてなら我々は依存として生存に耐えることができる」という彼ならではの考えがあることを見落としてはならない。彼のこうした「芸術家の形而上学」は、いわゆる「芸術学」とは異なり、あくまでも癒しとしての芸術の価値を問うものであることを銘記しておいてもらいたい。

◆ 評価方法

出席状況（3 の 1 の出席が必要）と平素の学習態度（特に予習の有無）を加味したうえ、筆記試験の成績で評価する。点数配分は出席点 10 点、筆記試験 90 点とする。

◆テキスト、参考文献

原典講読に必要な部分のみプリント配布する。

◆授業計画

1.ガイダンス及びニーチェの略伝紹介。
2.以下は『悲劇の誕生』の原典講読につき、略す。

01・02 年度	ドイツ語講読（芸術）Ⅰ・Ⅱ	担当者	辻本 勝好

◆講義目的、講義概要

ニーチェ(1844-1900)の処女作『悲劇の誕生』(Die Geburt der Tragödie aus dem Geiste der Musik 1872)のなかからいくつかの章を精選し、それらの原典講読を通じて、彼の格調の高い論文形式の文体(Periode)に慣れるのと同時に、実人生にとっての芸術の意義について考察して行きたい。
『悲劇の誕生』のなかでニーチェは、古代ギリシアの明るいアポロン的なイメージだけでなく、その背後には人間の明るい衝動に満ちたディオニュソス的な暗黒面もあったことを指摘しつつ、ギリシャ悲劇をそうしたアポロン的なものとディオニュソス的なものとの協同作業の結果とみなしているが、その根底には「美的現象としてなら我々は依存として生存に耐えることができる」という彼ならではの考えがあることを見落としてはならない。彼のこうした「芸術家の形而上学」は、いわゆる「芸術学」とは異なり、あくまでも癒しとしての芸術の価値を問うものであることを銘記しておいてもらいたい。

◆ 評価方法

出席状況（3 の 1 の出席が必要）と平素の学習態度（特に予習の有無）を加味したうえ、筆記試験の成績で評価する。点数配分は出席点 10 点、筆記試験 90 点とする。

◆テキスト、参考文献

原典講読に必要な部分のみプリント配布する。

◆授業計画

1.ガイダンス及びニーチェの略伝紹介。
2.以下は『悲劇の誕生』の原典講読につき、略す。

01・02 年度	ドイツ語講読(芸術) Ⅰ・Ⅱ	担当者	前田 智

◆講義目的、講義概要

ドイツ語圏のミュージカル・オペレッタ・オペラを、理解を深めるために映像及び音楽の鑑賞をしつつ、それらのリブレット（台本）の一部や作品解説等を講読する。

◆ 評価方法

出席、レポート、発表、試験による。

◆テキスト、参考文献

参考文献『オペラ・オペレッタ名曲選』音楽之友社・編

◆授業計画

1. ミュージカル「ネズミ捕りの男」より
2. ミュージカル「メフィスト」より
3. オペレッタ「こうもり」より
4. オペレッタ「モーツアルト」より
5. オペラ「ヘンゼルとグレーテル」より
6. オペラ「魔笛」より

01・02 年度	ドイツ語講読(芸術) Ⅰ・Ⅱ	担当者	前田 智

◆講義目的、講義概要

ドイツ語圏のミュージカル・オペレッタ・オペラを、理解を深めるために映像及び音楽の鑑賞をしつつ、それらのリブレット（台本）の一部や作品解説等を講読する。

◆ 評価方法

出席、レポート、発表、試験による。

◆テキスト、参考文献

参考文献『オペラ・オペレッタ名曲選』音楽之友社・編

◆授業計画

1. ミュージカル「ネズミ捕りの男」より
2. ミュージカル「メフィスト」より
3. オペレッタ「こうもり」より
4. オペレッタ「モーツアルト」より
5. オペラ「ヘンゼルとグレーテル」より
6. オペラ「魔笛」より

01・02年度	ドイツ語講読(芸術)Ⅰ・Ⅱ	担当者	山本 淳

◆講義目的、講義概要

講義目的
1) 映画の映像とテクストに基づいて編集された本を読み、それを実際の映像と比較することで、文字テクストと映像の関連を検討する。
2) authentisch なテクストを正確に読む訓練をする。また、それを自然な日本語に置き換えるためのコツを体得する。
3) 映画を通して、Landeskunde 的な情報を得る。

講義概要
1998年に公開された映画 "LOLA RENNT" (邦題『ラン・ローラ・ラン』) の映像とテクストに基づいて編集された本を、実際の映像と比較しながら読んでいく。
最初の時間に、授業についてのもう少し詳しい説明と簡単なドイツ映画史概説を行う予定。

◆ 評価方法

学期末に行う筆記試験、平常点および授業への出席状況・参加度に基づいて評価を決定する。

◆テキスト、参考文献

Tom Tykwer: Lola rennt. Reinbek bei Hamburg (Rowohlt Taschenbuch Verlag) 1998 (プリントを配布)

◆授業計画

テクストの訳読
および
映画鑑賞

01・02年度	ドイツ語講読(芸術)Ⅰ・Ⅱ	担当者	山本 淳

◆講義目的、講義概要

講義目的
1) 映画の映像とテクストに基づいて編集された本を読み、それを実際の映像と比較することで、文字テクストと映像の関連を検討する。
2) authentisch なテクストを正確に読む訓練をする。また、それを自然な日本語に置き換えるためのコツを体得する。
3) 映画を通して、Landeskunde 的な情報を得る。

講義概要
1998年に公開された映画 "LOLA RENNT" (邦題『ラン・ローラ・ラン』) の映像とテクストに基づいて編集された本を、実際の映像と比較しながら読んでいく。

◆ 評価方法

学期末に行う筆記試験、平常点および授業への出席状況・参加度に基づいて評価を決定する。

◆テキスト、参考文献

Tom Tykwer: Lola rennt. Reinbek bei Hamburg (Rowohlt Taschenbuch Verlag) 1998 (プリントを配布)

◆授業計画

テクストの訳読
および
映画鑑賞

03年度以降（春） 01・02年度	ドイツ史概論a ドイツ史概論	担当者	黒田 多美子

◆講義目的、講義概要

講義の目標：これからドイツ語圏の社会・歴史を学ぶために必要な基礎知識を習得する入門コースです。ドイツ語圏の歴史に関する重要事項を各時間ごとにまとめてお話ししたいと思います。なお、ドイツ語学科の授業ですから、各歴史事項についてのドイツ語表記もついでに学習してください。

講義概要：前期は、中世から19世紀後半のドイツ帝国成立までの主なトピックスを取り上げ、ドイツ語圏の歴史を概観します。後期は、19世紀末から第一次世界大戦・第2次世界大戦という2つの戦争によってドイツがどのように変化していったのかを概観します。

◆ 評価方法

学期末に筆記試験。授業内に簡単な意見や感想を書いてもらうことがあります。

◆テキスト、参考文献

資料はプリント配布

◆授業計画

1．授業に関する説明/ドイツ人と「ドイツ人の国」、「ドイツ国」
2．教皇・国王・貴族
3．十字軍と騎士団
4．都市と市民
5．反ユダヤ主義と反セム主義
6．宗教改革と農民戦争
7．宗教戦争
8．啓蒙絶対君主と近代化
9．国民国家とナショナリズム
10．自由と統一
11．ドイツ帝国とハプスブルク帝国
12．予備

03年度以降（秋） 01・02年度	ドイツ史概論b ドイツ史概論	担当者	黒田 多美子

◆講義目的、講義概要

講義の目標：これからドイツ語圏の社会・歴史を学ぶために必要な基礎知識を習得する入門コースです。ドイツ語圏の歴史に関する重要事項を各時間ごとにまとめてお話ししたいと思います。なお、ドイツ語学科の授業ですから、各歴史事項についてのドイツ語表記もついでに学習してください。

講義概要：前期は、中世から19世紀後半のドイツ帝国成立までの主なトピックスを取り上げ、ドイツ語圏の歴史を概観します。後期は、19世紀末から第一次世界大戦・第2次世界大戦という2つの戦争によってドイツがどのように変化していったのかを概観します。

◆ 評価方法

学期末に筆記試験。授業内に簡単な意見や感想を書いてもらうことがあります。

◆テキスト、参考文献

資料はプリント配布

◆授業計画

1．ドイツ帝国の社会問題
2．ドイツ帝国の外交と第一次世界大戦
3．（第一世界大戦に関する）ビデオ
4．ドイツ革命とヴァイマール共和国の成立
5．ヴェルサイユ条約とドイツ人
6．ファシズム運動とヒトラー政権の誕生
7．（ナチ政権に関する）ビデオ
8．受容と抵抗：「普通の人々」
9．ビデオ（「夜と霧」）
10．ユダヤ人・他民族に対する迫害と大量虐殺
11．戦後ドイツの歴史認識
12．予備

03年度以降（春） 01・02年度	ドイツの歴史a ドイツの歴史	担当者	増谷 英樹

◆講義目的、講義概要

２０世紀ドイツにおける外国人労働者政策

２０世紀以降のドイツにおいては、経済の分野でつねに外国人労働者が雇用されてきた。特にナチスの時代には数多くの外国人労働者がさまざまな国から強制的に連れてこられ、戦後の補償問題のひとつともなっている。しかし、ナチスは第一次世界対戦の経験から多くを学び、それに独自の人種主義をつけくわえた。さらに、その範囲を戦争捕虜や強制収容所囚人に拡大した。戦後の西ドイツでは製材の奇蹟のなかで多くの外国人を導入するが、それ以前の外国人労働者政策とどのような相違があったのか。

◆ 評価方法

試験ないしレポート

◆テキスト、参考文献

授業中に指摘する

◆授業計画

はじめに
1. 第一次世界大戦以前の外国人労働者
2. 第一次世界大戦における外国人強制の実態
3. ワイマール時代の外国人労働者政策の推移
4. ナチス・ドイツの強制労働政策
   ①戦争勃発以前の政策
   ②ポーランド人の強制労働
   ③ベルギー人・フランス人の強制労働
   ④ロシア人戦争捕虜の強制労働
   ⑤強制収容所囚人の強制労働
   ⑥「ユダヤ人」の強制労働
5. オストマルク（第三帝国下のオーストリア）の強制労働
6. 戦後東西ドイツの外国人労働者政策

03年度以降（秋） 01・02年度	ドイツの歴史b ドイツの歴史	担当者	増谷 英樹

◆講義目的、講義概要

ウィーン・年の遍歴

ウィーンという都市は、ローマ時代の北東守りの拠点から、フランク王国の時代の東の守りへ、さらにハプスブルク帝国の時代はヨーロッパの東南の城塞都市へと変わっていく。１９世紀の多民族国家時代には、むしろ帝国の帝都として、様々な問題の中心を形成し、他方で世紀末の文化の担い手となった。第一次世界対戦により帝国が崩壊すると、ウィーンは小国オーストリアの首都となるが、人口問題、住宅問題、経済不況など様々な問題を抱えていた。ナチスはオーストリアの「合邦」により、そうした問題を解決してみせたので、ウィーンの人びとの多くはナチスを支持していった。そうしたウィーンの都市としての遍歴をたとる。

◆ 評価方法

試験もしくはレポート

◆テキスト、参考文献

講義の際に紹介する

◆授業計画

はじめに
1. ローマ軍の駐屯地としてのウィーン
2. 民族大移動の時代ウィーン
3. バーベルグルク支配下のウィーン
4. ハプスブルク家の支配下へ
5. オスマン帝国との対峙
6. バロック都市への発展
7. フランス革命時代
8. 城壁の撤去と環状道路の成立
9. 世紀末文化
10. 二重帝国の崩壊とオーストリアの成立
11. 戦間期のオーストリアとウィーン
12. ナチス支配下のウィーン
13. 戦後のウィーン

03年度以降（春） 01・02年度	ドイツの社会・事情a ドイツの社会・事情	担当者	大串 紀代子

◆講義目的、講義概要

第一回目の授業で指示する。

◆ 評価方法

第一回目の授業で指示する。

◆テキスト、参考文献

第一回目の授業で指示する。

◆授業計画

第一回目の授業で指示する。

03年度以降（秋） 01・02年度	ドイツの社会・事情b ドイツの社会・事情	担当者	大串 紀代子

◆講義目的、講義概要

第一回目の授業で指示する。

◆ 評価方法

第一回目の授業で指示する。

◆テキスト、参考文献

第一回目の授業で指示する。

◆授業計画

第一回目の授業で指示する。

03年度以降（春） 01・02年度	ドイツの地誌・民俗a ドイツの地誌・民俗	担当者	大串 紀代子

◆講義目的、講義概要

ドイツ語文化圏における地理的諸条件や、一般大衆のなかで育まれて来た習俗や慣習を学ぶことにより、幅広い文化理解を深める。

さらに、日本における民俗・地誌との比較分析も平行して進める。

参加者は、レポートの提出とプレゼンテーションを必ず行うこと。

◆ 評価方法

出席、レポート、発表の3点を総合的に評価する。

◆テキスト、参考文献

◆授業計画

1. ドイツ語圏の地理的条件と日本との比較
2. 同上
3. 同上
4. 同上
5. 都市の発達：北部
6. 都市の発達：中央部
7. 都市の発達：南部
8. 都市の発達：東部
9. 都市と農村
10 農村の発達と産業
11.季節の民俗行事：5月
12.季節の民俗行事：6月

03年度以降（秋） 01・02年度	ドイツの地誌・民俗b ドイツの地誌・民俗	担当者	大串 紀代子

◆講義目的、講義概要

秋学期は、主として、ドイツ語圏と日本との民俗行事／慣習を中心に行う。

参加者は、それぞれのテーマでレポー ト提出およびプレゼンテーションを行う。

◆ 評価方法

出席、レポー ト、発表を総合的に評価

◆テキスト、参考文献

◆授業計画

1.季節の民俗行事：7月
2.季節の民俗行事：8月
3.季節の民俗行事：9月
4.季節の民俗行事：10月
5.季節の民俗行事：11月
6.季節の民俗行事：12月
7.季節の民俗行事：1月
8.季節の民俗行事：1月
9.季節の民俗行事：2月
10.季節の民俗行事：3月
11.季節の民俗行事：4月
12.総括

03年度以降（春） 01･02年度	ドイツの政治・対外関係a ドイツの政治・対外関係	担当者	大重　光太郎

◆講義目的、講義概要

1．年間の講義を通じて、ドイツの内政・外交システムの特質を理解する。
2．時期としては第二次世界大戦直後から現在にいたるまでの時期を対象とする。
3．春学期は内政を、秋学期は対外関係を中心に扱う。
4．内政については、まず政治システムの特徴を押さえた上で、戦後の東西両ドイツの歴史を概観する。その際、「東ドイツとは何だったのか」という点も一つのポイントとして考えていく。
5．外交についてはEUの比重が大きくなってきている。ドイツとEUとの関係の特質を理解する。また近年のEUとアメリカの関係が微妙になってきているが、こうした背景を考察する。
6．内政・外交ともに、現在焦点となっている具体的な問題を取り上げることにより理解を深める。
7．適宜、視聴覚教材を利用する。

◆　評価方法

春学期・秋学期ともに筆記試験により行う。
原則として出席はチェックする。

◆テキスト、参考文献

大西健夫編『ドイツの政治』早稲田大学出版部(1992年)
馬場・平島『ヨーロッパ政治ハンドブック』東大出版会（2000年）
H.K.ルップ『現代ドイツ政治史』彩流社(2002年)
H.ヴェーバー『ドイツ民主共和国史』日本経済評論社（1991）
Aktuell 2004 (Lexikon) Harenberg (2003)

◆　授業計画

講義は以下の構成で進めていく。

1．導入：
2．ドイツ連邦共和国の政治システムの基本的特徴
　① 基本的特徴づけ（他の諸国との比較）
　② 政治制度
　③ 憲法
　④ 政党
　⑤ 司法・行政機構
　⑥ 軍隊
　⑦ 経済団体・中間団体
　⑧ 社会団体・福祉団体・環境団体
3．戦後ドイツ連邦共和国の歴史
　① 敗戦から西ドイツ建国まで（1945～49）
　② アデナウアー、エアハルトの時代（1949～1966）
　③ 大連立からブラント政権へ（1966～1982）
　④ コール政権（1982～1998）
　⑤ シュレーダー政権
4．戦後ドイツ民主共和国（東ドイツ）の歴史（～1990）
　① 東ドイツを再検討する際の問題群
　② 敗戦から東ドイツ建国まで（1945～1949）
　③ 社会主義建設期（1949～1961）
　④ 「ベルリンの壁」からその崩壊まで（1961～1989）
　⑤ 東西統一後の東ドイツの問題
5．具体的な問題を素材として
　① 移民の受け入れ
　② 教育改革
　③ 社会保障・労働市場改革
　④ 徴兵制改革
　⑤ その他

03年度以降（秋） 01･02年度	ドイツの政治・対外関係b ドイツの政治・対外関係	担当者	大重　光太郎

◆講義目的、講義概要

上記参照。

◆　評価方法

上記参照。

◆テキスト、参考文献

上記参照。

◆授業計画

1．ドイツの軍事・外交政策の特徴
　① 冷戦期の軍事・外交政策
　② 1990年以降の軍事・外交政策

2．EUとドイツ
　① ヨーロッパのなかでのドイツ政治の特徴
　② EUとドイツ

3．具体的な問題を素材として
　①「過去の克服」
　② 難民受け入れ
　③ イラク戦争をめぐって
　④ その他

03年度以降（春） 01･02年度	ドイツの経済a ドイツの経済	担当者	大重　光太郎

◆講義目的、講義概要

今日のドイツ経済・社会システムは「社会的市場経済」と特徴付けられており、アングロサクソン的な市場経済のあり方とは異なる,高度に制度化された市場経済のあり方を示している。こうしたドイツ固有のあり方を理解することが第一の目標である。経済のグローバル化とEU統合によってドイツの伝統的な制度的特長は解体に向かいつつあるように思われる。現代ドイツの経済・社会システムがかかえる問題の検討を通じてドイツの将来展望について考察することが第二の目標である。

こうした点を、日本との比較を視野に入れて扱っていく。それゆえ、本講義のサブタイトルを「日本とドイツの経済・社会システムの比較」とする。

春学期は、ドイツの経済・社会システムの理解において重要であると思われる社会科学的基礎概念、とりわけ経済政策・社会政策上の概念を取り扱う。同時に、歴史的概観を行う。秋学期には、ドイツ・モデルを個別の領域ごとに見ていく。その際、日本との比較という観点から個別領域の制度を検討する。ドイツ・モデルの個別領域における特徴を確認するとともに、それらが経済のグローバル化やEU統合によってどのような変容をとげてきているかに留意していく。

◆　評価方法

春学期・秋学期ともに筆記試験により行う。
原則として出席はチェックする。

◆テキスト、参考文献

大西健夫（編）『ドイツの経済』早稲田大学出版部(1992)
加藤雅彦他（編）『事典　現代のドイツ』大修館(1998)
高橋・大西（編）『ドイツの企業』早稲田大学出版部(1997)
Aktuell 2004 (Lexikon) Harenberg (2003)

◆授業計画

講義は以下の構成で進めていく。なお、具体的な講義予定の内容、順番については変更がありうる。

1．導入：日本とドイツの経済・社会システムの比較
2．日本とドイツの社会科学における互いのイメージ
　——比較の枠組みをめぐって
　① 日本の社会科学における日本モデル
　② ドイツの社会科学における日本モデル
3．経済のグローバル化と新自由主義
　——共通の比較の視座
　① 経済のグローバル化
　② 新自由主義
4．資本主義モデルの類型化——アングロサクソン・モデル、ドイツ・モデル、日本モデル
5．資本主義発展の理論
　① 封建制から資本主義への移行
　② 「上からの近代化」「下からの近代化」
　③ 資本主義発展の諸段階
　④ 対抗的諸運動（労働運動、社会主義運動など）
　⑤ ドイツと日本における資本主義発展の特徴

03年度以降（秋） 01･02年度	ドイツの経済b ドイツの経済	担当者	大重　光太郎

◆講義目的、講義概要

上記参照

◆評価方法

上記参照

◆テキスト、参考文献

上記参照

◆　授業計画

1．第二次大戦後の経済システムの特徴と展開
　① ドイツ
　② 日本
2．個別領域
　① 教育制度
　② 職業教育制度
　③ 労使関係
　④ 労働市場
　⑤ 企業組織・産業組織（「コーポレート・ガバナンス」）
　⑥ 社会保障政策
　⑦ 環境政策
3．EU統合とドイツ経済
4．まとめ
　ドイツ・モデルと日本モデルの将来

01・02年度	ドイツ語講読（歴史）Ⅰ・Ⅱ	担当者	井村 行子

◆講義目的、講義概要

19世紀ヨーロッパは移民の世紀であったが、ドイツもまたその例外ではなかった。ドイツの移民の歴史は、統一(1871)以後、急速に工業化が進むと、海外移民が減少し、東西移動とよばれる国内移動がこれにとって代わった点に特色が認められる。しかし、この東ドイツから西ドイツへ移住した人々のなかにポーランド人が多数を占めていたという事実は、これまでしばしば見過ごされてきた。

プロイセンは、オーストリアとロシアとともに三次に渡ってポーランドを分割した(1772, 73, 93)結果、多数のポーランド人をその国土ごと抱えこむことになった。文学や映画など文化の領域を見ても、ポーランド人の存在がドイツ文化の一構成要素をなしていることは疑いをいれない。

この授業では、主として第二帝政期のドイツのポーランド人を扱った文献を読むことによって、ドイツのなかのポーランド人というより上位にある問題を考えるためのきっかけを作り出すことを目的としている。

◆ 評価方法

学期末の筆記試験

◆テキスト、参考文献

伊藤定良『異郷と故郷』（東京大学出版会）
伊藤定良『ドイツの長い19世紀』（青木書店）

◆授業計画

- ◆ 授業計画
- ◆ 第1回　講義
- ◆ 第2回　以下テキストを読む
- ◆ 第3回
- ◆ 第4回
- ◆ 第6回
- ◆ 第7回
- ◆ 第8回
- ◆ 第9回
- ◆ 第１０回
- ◆ 第１１回
- ◆ 第１２回 まとめと結論

01・02年度	ドイツ語講読（歴史）Ⅰ・Ⅱ	担当者	井村 行子

◆講義目的、講義概要

現在、ドイツに住むトルコ人の多くは、1961年に雇用双務協定によって西ドイツの労働力不足を解消するためにトルコ共和国から呼び寄せられた人々とその家族である。移民たちは、その後、二度に渡る石油危機、反移民政党の台頭、ドイツ再統一、移民排斥など多くの困難に直面してきた。ドイツのトルコ人はすでに三世時代を迎え、自らはもちろんその両親もまたドイツ生まれである。にもかかわらず、その多くはドイツ国籍を取得していない。二重国籍の実現を公約に掲げて登場した社会民主党(SPD)と緑の党の連立政権は、キリスト教民主同盟(CDU)などの反対にあって、この公約を実現することはできず、国籍法改正によって血統主義原則に生地主義を加味し、帰化条件を緩和するにとどまっている。

ドイツは移民国家か否かをめぐって二大政党は歴史的な対立を続けている。欧州連合(EU)へのトルコの加入問題とも絡まって、ドイツのトルコ人は期せずして歴史の前面に押し出された形になっている。この状況は個々の移民にとってプラスに働くのか、マイナスに働くのかを見極めたい。

◆ 評価方法

学期末の筆記試験

◆テキスト、参考文献

内藤正典『アッラーのヨーロッパ』（東京大学出版会）

◆授業計画

- ◆ 授業計画
- ◆ 第1回　講義
- ◆ 第2回　以下テキストを読む
- ◆ 第3回
- ◆ 第4回
- ◆ 第6回
- ◆ 第7回
- ◆ 第8回
- ◆ 第9回
- ◆ 第１０回
- ◆ 第１１回
- ◆ 第１２回 まとめと結論

01・02 年度	ドイツ語講読（歴史）Ⅰ・Ⅱ	担当者	開内 英司

◆講義目的、講義概要

人間はどこからやって来てどこへ行くのか。
すべては何ゆえに存在し、何を意味しているのか。
宇宙と人間の意味を確定しようとする人類太古からの試みをここでも進め、未来の広大な展望を開いてみようというもの。
人間、世界はすばらしいものかもしれない。ただ、それには－あるいはかなり厳しい－ 条件があるかもしれない、ということ。
科目やテキストはあくまで手掛かりで、語学の授業なので、ひとまず語学力を中心に、できるだけ人間の総合力を養い、高度な精神の充実にむけて、学習経験が、新世界開拓の精神と、新しい大我無限の世界への、人間の意識の拡大浄化、進化の一端となることを目的とします。
世界は一人一人の人間の内面から変わっていくのであり、人は宇宙進化の巨大な中心であり、人間存在の深遠な意味、永遠壮大な美と感動を作っていくのが、時代、文明、宇宙の創造、人類究極の繁栄なのだ、ということです。
自由の精神と野心に満ちた、独立、気鋭の少人数を期待しています。

◆ 評価方法

平常の授業業績と試験。試験の形態は、人数、授業進行レベルによって、必ずしも教科書復習試験はない。

◆テキスト、参考文献

「Die Bibel」（改訂 Luther 訳、コピー配布）。あとは代表的経典類、哲学、文学、科学、宇宙論、その他、広範に各自が選択。希望者には、自著『フィリップ王子とシンデレラ』を有料頒布。

◆授業計画

非宗教の立場で、歴史資料として、史上世界最大のベストセラーの発端を扱い、様子を見ながら関連書のコピーを随時利用。
十分な内容確保のためには、受講者数は、少数精鋭で、10 人をあまり超えないことを希望。

01・02 年度	ドイツ語講読（歴史）Ⅰ・Ⅱ	担当者	開内 英司

◆講義目的、講義概要

人間はどこからやって来てどこへ行くのか。
すべては何ゆえに存在し、何を意味しているのか。
宇宙と人間の意味を確定しようとする人類太古からの試みをここでも進め、未来の広大な展望を開いてみようというもの。
人間、世界はすばらしいものかもしれない。ただ、それには－あるいはかなり厳しい－ 条件があるかもしれない、ということ。
科目やテキストはあくまで手掛かりで、語学の授業なので、ひとまず語学力を中心に、できるだけ人間の総合力を養い、高度な精神の充実にむけて、学習経験が、新世界開拓の精神と、新しい大我無限の世界への、人間の意識の拡大浄化、進化の一端となることを目的とします。
世界は一人一人の人間の内面から変わっていくのであり、人は宇宙進化の巨大な中心であり、人間存在の深遠な意味、永遠壮大な美と感動を作っていくのが、時代、文明、宇宙の創造、人類究極の繁栄なのだ、ということです。
自由の精神と野心に満ちた、独立、気鋭の少人数を期待しています。

◆ 評価方法

平常の授業業績と試験。試験の形態は、人数、授業進行レベルによって、必ずしも教科書復習試験はない。

◆テキスト、参考文献

「Die Bibel」（改訂 Luther 訳、コピー配布）。あとは代表的経典類、哲学、文学、科学、宇宙論、その他、広範に各自が選択。希望者には、自著『フィリップ王子とシンデレラ』を有料頒布。

◆授業計画

非宗教の立場で、歴史資料として、史上世界最大のベストセラーの発端を扱い、様子を見ながら関連書のコピーを随時利用。
十分な内容確保のためには、受講者数は、少数精鋭で、10 人をあまり超えないことを希望。

01・02 年度	ドイツ語講読（歴史）Ⅰ・Ⅱ	担当者	増谷 英樹

◆講義目的、講義概要

今年度のテキストとしては
Sebastian Haffner, Geschichte eines Deutschen.
Ein Erinnerungen 1914-1933.
を読んでいく。
さしあたり、春秋学期同じテキストを読んでいく。

◆ 評価方法

授業への出席、発表、テストなどによる。

◆テキスト、参考文献

Sebastian Haffner, Geschichte eines Deutschen.
Ein Erinnerungen 1914-1933.

◆授業計画

テキスト講読であるが、ときには別の参考文献の発表を課する。

01・02 年度	ドイツ語講読（歴史）Ⅰ・Ⅱ	担当者	増谷 英樹

◆講義目的、講義概要

今年度のテキストとしては
Sebastian Haffner, Geschichte eines Deutschen.
Ein Erinnerungen 1914-1933.
を読んでいく。
さしあたり、春秋学期同じテキストを読んでいく。

◆ 評価方法

授業への出席、発表、テストなどによる。

◆テキスト、参考文献

Sebastian Haffner, Geschichte eines Deutschen.
Ein Erinnerungen 1914-1933.

◆授業計画

テキスト講読であるが、ときには別の参考文献の発表を課する。

01・02年度	ドイツ語講読（社会）Ⅰ・Ⅱ	担当者	飯沼 隆一

◆講義目的、講義概要

ドイツ語圏の社会を扱った文章といってもそのテーマは広範なものになる。この時間は比較文化論的な視点からさまざまな社会現象を読み解けたらと思います。一つ一つの社会的な出来事を示すにとどまらず、それがどのような歴史的・思想的背景から出てきたのかを見る試みです。

比較文化論といっても私たち日本人の考えからすると特異に感じられる点、国際化社会におけるコミュニケーション・ギャップなどから出発しています。

◆ 評価方法

期試験、平常評価で決めます。

◆テキスト、参考文献

①『黒は白』　ミッヒェル・新保　（郁文堂）
②『ドイツ人の見た日本人』小塩（朝日出版社）
③『かくれた次元』　エドワード・ホール
④『ヨーロッパを見る視角』　阿部謹也

◆授業計画

まずテキスト①（プリント）を１回に１課分くらいの予定で読み進め、テーマが煮詰まってきた段階で参考文献の③④に基づいた説明をはさんでいきたいと思います。

01・02年度	ドイツ語講読（社会）Ⅰ・Ⅱ	担当者	飯沼 隆一

◆講義目的、講義概要

ドイツ語圏の社会を扱った文章といってもそのテーマは広範なものになる。この時間は比較文化論的な視点からさまざまな社会現象を読み解けたらと思います。一つ一つの社会的な出来事を示すにとどまらず、それがどのような歴史的・思想的背景から出てきたのかを見る試みです。

比較文化論といっても私たち日本人の考えからすると特異に感じられる点、国際化社会におけるコミュニケーション・ギャップなどから出発しています。

◆ 評価方法

期試験、平常評価で決めます。

◆テキスト、参考文献

①『黒は白』　ミッヒェル・新保　（郁文堂）
②『ドイツ人の見た日本人』小塩（朝日出版社）
③『かくれた次元』　エドワード・ホール
④『ヨーロッパを見る視角』　阿部謹也

◆授業計画

前期内容を引き続けるのと並んで、ドイツ語圏のアクチュアルな新聞・雑誌の記事などから読めるものを取り入れていきたいと思います。

01・02 年度	ドイツ語講読(社会) I ・ II	担当者	田島 加奈子

◆講義目的、講義概要

ドイツ人の日常生活に関するテキストを読みながら、ドイツ語の読解力を養うのが目的です。
最初は文法事項などを確認しながら多く読むことにより、新しい表現も覚えるようにする。
秋学期に関してはそのまま続ける予定だが、受講者の要望も考慮してテキストを決めたい。
授業計画にはテーマを書いておくので一応の目安として参考にして欲しい。
最初の日に受講者のドイツ語の実力を把握する為にテストをするので（成績には無関係）辞書を持参すること。

◆ 評価方法

出席は前提とし、平常点と期末試験。

◆テキスト、参考文献

Andrea Raab, 石井寿子著『ドイツ人の一生』（朝日出版）

◆授業計画

1. オリエンテーション
2. Geburt
3. Schule
4. Jugendliche in der Gesellschaft
5. Jugend und Freizeit
6. Feiertage und Ferien
7. Schulabschluss und Berufsausbildung
8. Beruf
9. Studieren in Deutschland
10. Wie junge Leute wohnen
11. Heirat
12. Familie

01・02 年度	ドイツ語講読(社会) I ・ II	担当者	田島 加奈子

◆講義目的、講義概要

ドイツ人の日常生活に関するテキストを読みながら、ドイツ語の読解力を養うのが目的です。
最初は文法事項などを確認しながら多く読むことにより、新しい表現も覚えるようにする。
秋学期に関してはそのまま続ける予定だが、受講者の要望も考慮してテキストを決めたい。
授業計画にはテーマを書いておくので一応の目安として参考にして欲しい。

◆ 評価方法

出席は前提とし、平常点と期末試験。

◆テキスト、参考文献

Andrea Raab, 石井寿子著『ドイツ人の一生』（朝日出版）

◆授業計画

1. オリエンテーション
2. Geburt
3. Schule
4. Jugendliche in der Gesellschaft
5. Jugend und Freizeit
6. Feiertage und Ferien
7. Schulabschluss und Berufsausbildung
8. Beruf
9. Studieren in Deutschland
10. Wie junge Leute wohnen
11. Heirat
12. Familie

01・02年度	ドイツ語講読(社会)Ⅰ・Ⅱ	担当者	林部 圭一

◆講義目的、講義概要

講義目的：
　国際社会についてドイツ語で書かれた新聞、雑誌、インターネットなどの記事を独力で読めるようにする。

講義概要：
　現代のドイツ語圏社会、国際状勢、日本社会を扱う記事の中からできるだけわかりやすい、新鮮な記事を探して、一緒に読む。

◆　評価方法

平常の授業での態度、小テスト、学期末の定期試験、出席回数などを考慮して総合的に評価する。

◆テキスト、参考文献

未定。(コピー)

◆授業計画

　記事をコピーして配る。記事を読んでいく。事情や背景を説明する。参加者のタイプによって違ってくるだろうが、１回に数ページ進めれば、と思う。
　予習してくること。
　学期の授業回数の３分の２以上出席すること。

01・02年度	ドイツ語講読(社会)Ⅰ・Ⅱ	担当者	林部 圭一

◆講義目的、講義概要

講義目的：
　国際社会についてドイツ語で書かれた新聞、雑誌、インターネットなどの記事を独力で読めるようにする。

講義概要：
　現代のドイツ語圏社会、国際状勢、日本社会を扱う記事の中からできるだけわかりやすい、新鮮な記事を探して、一緒に読む。

◆　評価方法

平常の授業での態度、小テスト、学期末の定期試験、出席回数などを考慮して総合的に評価する。

◆テキスト、参考文献

未定。(コピー)

◆授業計画

　記事をコピーして配る。記事を読んでいく。事情や背景を説明する。参加者のタイプによって違ってくるだろうが、１回に数ページ進めれば、と思う。
　予習してくること。
　学期の授業回数の３分の２以上出席すること。

01・02年度	ドイツ語講読(社会)Ⅰ・Ⅱ	担当者	本橋 右京

◆講義目的、講義概要

ドイツ現代社会の様相を読み解きます。無論、講読という性格上、読解力の向上を図ります。
また、プリント配布する雑誌記事の文体にも慣れましょう。
テーマとして、連邦共和国における移民問題を扱います。

◆ 評価方法

授業への参加貢献度と試験で総合評価します。

◆テキスト、参考文献

参考文献：増谷英樹／伊藤定良「越境する文化と国民統合」（東京大学出版会）

◆授業計画

春学期は移民問題の歴史的背景を把握します。近年のトピックとしては、新国籍法の成立と移民制限の動向までを予定しています。

01・02年度	ドイツ語講読(社会)Ⅰ・Ⅱ	担当者	本橋 右京

◆講義目的、講義概要

講義目的は春学期に同じながら、比重を移民問題から派生する「異文化理解」など文化的側面に移します。

◆ 評価方法

授業への参加貢献度と試験で総合評価します。

◆テキスト、参考文献

参考文献：多和田葉子「エクソフォニー」（岩波書店）

◆授業計画

多言語、多文化社会の内包する諸相をテーマとします。学期最後になりますが、比較考察のため、日本の外国人政策の現状を視野に収める予定です。

	英語（基礎読解Ⅲ）	担当者	金谷 優子

◆講義目的、講義概要

英語の文章(長文)を読んで、容易に内容を理解できるようになるためには

１：母国語に翻訳せずに英語として理解すること。

２：英語の文章、特に各パラグラフの中で鍵となるべき文章、言葉を素早く見つけ出すこと。

３：ある程度の語彙力を身につけること。
ことが必要である。

この授業では、上掲の３項目を意識しながら英字新聞の読解演習を行い、受講者の英文読解力の養成を図るとともに、各々の新聞記事に取り上げられている様々な問題について、ともに考察してみよう。

◆ 評価方法

平常点、前後期末のテスト、レポート等を総合評価

◆テキスト、参考文献

English through the News Media –2004 Edition- 上杉明 編著 （朝日出版社）

◆授業計画

1: Introduction;
About paragraph and topic sentence
2: In Asia, the English
3: Manga mania goes global
4: An Order of fried, please, but do hold the French
5: The Euro did it!
6: The doctor's little helper
7: Despite slumping economy, Porsche posts record profit
8: Sars
9: Turning into Japan's everyman in a Nobel way
10: 'Spirited Away' presages golden age of anime
11: The Luck of George

	英語（基礎読解Ⅲ）	担当者	金谷 優子

◆講義目的、講義概要

◆ 評価方法

◆テキスト、参考文献

◆授業計画

1: Abduction news recalls eerie memories for witnesses
2: 'Sappu' phenomenon
3: Peace pins and antiwar speeches at Oscar Show
4: Kawaii sea lion back in spotlight
5: Japan men decry lack of home-grown heroes
6: Godzilla conquers New York in debut
7: 5 Japanese, kidnapped long ago, visit home
8: Russia's elitist manifesto
9: Sex cells
10: A World of hurt
11: Two overweight Girls sue McDonald'
12: Review

	英語（基礎読解Ⅲ）	担当者	佐藤 倫之

◆講義目的、講義概要

多読と精読の両方を目指すクラス。
　受講者は毎週一定量の英文読解の課題が与えられる。翌週、その英文についてのクイズを授業開始冒頭に行う。クイズ終了後、その英文についての解説を行う。クイズ開始の前後を問わず、英文についての質問は随時受け付ける。

評価方法
　毎回のクイズは10点満点。この点数を1年間積み重ね、満点を100%として百分率換算をして、100点満点に対する点数とする。学期末・学年末の大きなテストは行わない。毎回の点数のみを評価対象とする。100点満点に換算した後は、講義概要にある評価基準に従う。

欠席について
　欠席の回数は問わない。ただし、欠席した日のクイズの得点は0点とする。総分母より欠席分を減算することもしない。（クイズが年間20回ならば、20回x10点=200点満点が総分母となり、欠席数に関わらず、どの受講者にもこの総分母が適用される。）

◆　評価方法

上記参照

◆テキスト、参考文献

プリントを配布

◆授業計画

初回に第1回目の課題を配布し、その他の細かい注意を説明する。初回以降は左欄に書いたとおり。

取り上げる英文について
　左欄では一定量としたが、授業開始間もないころはA4用紙1枚程度を目安とする。受講者の慣れを見ながら、徐々に分量を増やしていく。内容によっては、相当量のものを数回に分けて取り上げることもある。

　取り上げるトピックは現在の社会状況・国際状況に即したものを取り上げる。受講者の興味・要望に応じて、さまざまなものを取り上げる予定。要望は随時受け付ける。

	英語（基礎読解Ⅲ）	担当者	佐藤 倫之

◆講義目的、講義概要

◆　評価方法

◆テキスト、参考文献

◆授業計画

	英語（基礎読解Ⅲ）	担当者	佐野　裕美子

◆講義目的、講義概要

英語は異文化間コミュニケーションのための手段であり、有効な異文化間コミュニケーションのためには、まず自国文化を客観的な目で見つめ、理解し、説明できるようにならなければならない。

この授業では、日本で起きている社会現象について書かれているテキストを読み進め、同時に、自己の意見をまとめ、聞き手に対し効果的に表現する能力を身につけることを目標とする。また、他国文化についてのリサーチ、グループプレゼンテーションも行ってもらう。

授業にはグループワークを多く取り入れる。
テストは行わないが、その分積極的な授業参加、努力を評価する。年間６回以上の欠席はみとめない。

◆　評価方法

授業参加（出席, homework, presentation）60%
Course Portfolio 30%　自己評価　10%

◆テキスト、参考文献

巽孝之編注『Alternative Culture in Japan』
成美堂（¥1600）

◆授業計画

1. Introduction(講義概要説明)
2. Japanese Cuisine Goes International
3. Japanese Cuisine : group work (HW: writing)
4. The *Chapatsu* Syndrome
5. The *Chapatu* : group work (HW: writing)
6. Gambling- Japanese Style
7. Gambling : group work (HW: writing)
8. Project preparation
9. The *Manga* Artist
10. The *Manga*: group work (HW: writing)
11. Review (映画鑑賞)
12. Group project presentation

	英語（基礎読解Ⅲ）	担当者	佐野　裕美子

◆講義目的、講義概要

前期と同様だが、前期の様子をみてアレンジする。

◆　評価方法

授業参加（出席, homework, presentation）60%
Course Portfolio 30%　自己評価　10%

◆テキスト、参考文献

巽孝之編注『Alternative Culture in Japan』
成美堂（¥1600）

◆授業計画

1. Introduction: project meeting
2. My Car, My Castle
3. My Car, My Castle: group work (HW: writing)
4. Fortune-Telling in Japan
5. Fortune-Telling: group work (HW: writing)
6. *Ketueki-gata*
7. TV Dating
8. TV Dating : group work (HW: writing)
9. Project preparation
10. The Japanese Wedding Industry
11. The Wedding: group work (HW: writing)
12. Group project presentation

	英語（基礎読解Ⅲ）	担当者	高松 節子

◆講義目的、講義概要

英語でいう anecdote とは humor の一分野です。 つまり特定の個人に結びついたジョークやヒューモラスな表現が anecdote ということになります。 したがって、本テキスト中の話も、「この人にしてこの言あり」というところを味読していきたいと思います。

プリンセス・ダイアナがオーストラリアを訪問したときのこと、ジョンF・ケネディが初めて政界に入るときのキャンペーンの中味、自分の絵が競売で高値で売れたときのドガの気持ち、ハリウッドを訪れたアインシュタインにチャップリンが言った言葉――など、興味津々の選りすぐられた逸話を読んでいきます。

大切なことの一つに、英語の本をきちんと読むための、毎時間の修行の積み重ねがあるでしょう。

文化としての言葉、つまり言葉そのものが文化であるということ。 言葉以外の文化と言葉のかかわり。 そういうことを考えていきたい。 特に英語の笑いの表現について学んでいきます。

◆ 評価方法

評価は出席、平常点すなわち授業における発表など、と試験を総合したものが対象となります。

◆テキスト、参考文献

郡司利男・高松節子 編注 *200Anecdotes*『笑う逸話 200』開文社 2003 年

◆授業計画

1 Charles A. Lindbergh,
Sir Alfred Hitchcock…
2 Maurice Chevalier,
Yoshida（吉田茂）…
3 George Harrison,
Dr. Johnson…
4 Prince Albert,
George Bernard Show…
5 Xerxes,
Betty Grable…
6 Themistocles,
Bing Crosby…
7 Dame Nellie Melba,
Salvador Dali…
8 Sir Walter Raleigh,
Benny Goodman…
9 "Babe" Ruth,
Henrik Ibsen…
10 Harry Weiss Houdini,
Moshe Dayan…
11 George Burns,
Orville and Wilbur Wright…
12 試験

	英語（基礎読解Ⅲ）	担当者	高松 節子

◆講義目的、講義概要

英語でいう anecdote とは humor の一分野です。 つまり特定の個人に結びついたジョークやヒューモラスな表現が anecdote ということになります。 したがって、本テキスト中の話も、「この人にしてこの言あり」 というところを味読していきたいと思います。

プリンセス・ダイアナがオーストラリアを訪問したときのこと、ジョンF・ケネディが初めて政界に入るときのキャンペーンの中味、自分の絵が競売で高値で売れたときのドガの気持ち、ハリウッドを訪れたアインシュタインにチャップリンが言った言葉――など、興味津々の選りすぐられた逸話を読んでいきます。

大切なことの一つに、英語の本をきちんと読むための、毎時間の修業の積み重ねがあるでしょう。

文化としての言葉、つまり言葉そのものが文化であるということ。 言葉以外の文化と言葉のかかわり。 そういうことを考えていきたい。 特に英語の笑いの表現について学んでいきます。

◆ 評価方法

評価は出席、平常点すなわち授業における発表など、と試験を総合したものが対象となります。

◆テキスト、参考文献

郡司利男・高松節子 編注 *200Anecdotes*『笑う逸話 200』開文社 2003 年

◆授業計画

1 Neil Armstrong,
The Queen Mother…
2 Charles Darwin,
Ogden Nash…
3 Pablo Picasso,
Noah Webster…
4 James Cook "Captain Cook"
Calvin Coolidge…
5 Mark Twain,
Napoleon I…
6 Abraham Lincoln,
Sir Winston Churchill…
7 John Hancock,
4th Duke of Queensberry…
8 Jean Gabin,
William Randolph Hearst…
9 George VI,
Sir J. M. Barrie…
10 Thomas Edison,
O. Henry…
11 Franz Joseph Haydn,
Somerset Maugham…
12 試験

	英語（基礎作文Ⅲ）	担当者	E. ハードスターク

◆講義目的、講義概要

The class will start with simple writing assignments and will also include the study of sentence structure as well as grammar. The goal is for the students to be able to express their thoughts and opinions with as much clarity and structure as possible. As the class progresses an introduction to various kinds of writing will be introduced, such as paragraphs, news articles and book reviews. There will class assignments as well as homework papers. some of the themes we will be writing about are "Japanese tourists," "the likes and dislikes of school life," "people that you admire," it should be an enjoyable class but does require active participation.

◆ 評価方法

attenedance: 30%
class participation 30%
writing assignments 40%

◆テキスト、参考文献

there will be a textbook that will be assigned after the first week of class.

◆授業計画

	英語（基礎作文Ⅲ）	担当者	E. ハードスターク

◆講義目的、講義概要

◆ 評価方法

◆テキスト、参考文献

◆授業計画

	英語（基礎作文Ⅲ）	担当者	石月　正伸

◆講義目的、講義概要

[講義目的]
本講義では、英語の基礎力がやや不足気味の学生を主な対象として、(1)基礎的文法の復習を兼ねるテクストを用いて、英文を英語の構造で書く、即ち、文法的に間違いのない英文を書く練習と、(2)「パラグラフ・ライティング」のノウハウを視野に入れながら、レポート作成を通して、ある意味内容を理路整然と書く練習をする。

[講義概要]
テクストに関しては、原則的に授業２回で contents の１つを終えるように進めてゆきます。また、レポートは、授業３回に２度くらいの頻度で提出が要求されます。練習なので、レポートの内容によって、成績が左右されることは原則的にありません。つまり、上手に書けるように努力することが要求されているだけです。
定期試験は行いません。だが、授業時に簡単な小テストが２回あります。
＊詳しくは、ガイダンスで述べます。受講希望者は、なるべくガイダンスに出てください。

◆　評価方法

２回の小テスト＋レポート＋授業時の発表点

◆テキスト、参考文献

Let's Write! by Hiroyuki Tomi (Asahi Press)

◆授業計画

テクストの予定のみ記します

＊テクストは、大学の教科書としては、非常に基礎的なレベルのものです。英語の文法が少しあやふやな学生に適したものと考えてください。

[テクストの予定内容]

1　ガイダンス

2・3　5つの基本文型を中心とした問題

4・5　進行形

6・7　助動詞

8・9　受動態

10・11　比較

12・13　完了時制

	英語（基礎作文Ⅲ）	担当者	石月　正伸

◆講義目的、講義概要

春学期に続く。授業形態は同じ。

◆　評価方法

２回の小テスト＋レポート＋授業時の発表点

◆テキスト、参考文献

Let's Write! by Hiroyuki Tomi (Asahi Press)

◆授業計画

[テクストの内容]

1・2　不定詞

3・4　現在分詞と過去分詞

5・6　動名詞

7・8　関係代名詞

9・10　関係副詞

11・12　接続詞

	英語（基礎作文Ⅲ）	担当者	佐野　裕美子

◆講義目的、講義概要

この授業では、英文エッセイの構成を学びつつ、自己の意見をまとめ、読み手に対し効果的に表現する能力を身につけることを目標とする。
年間を通じ実際に英文を書く機会を多く設け、グループワークの採用により、よりわかりやすく洗練された文に仕上げていく過程を学習する。また writing と同様に、productive なスキルである speaking の機会も設け、総合的に「自己表現」のスキルアップを図る。
テストは行わないが、その分積極的な授業参加、努力を評価する。ほぼ毎回、作文の宿題を出す予定。年間6回以上の欠席はみとめない。
「大変だが楽しい」「力のつく」授業を目指している。「書くこと」と「人とのコミュニケーション」を積極的に楽しめる学生であれば、現在のレベルは問題ではない。

◆　評価方法

授業参加（出席, homework, presentation）60%
Course Portfolio 30%　自己評価　10%

◆テキスト、参考文献

石谷由美子・Emma Andrews 著
『Skills for Better Writing』南雲堂（¥1800）

◆授業計画

1. Introduction(講義概要説明)
2. Description: personal topic
3. Description: personal topic
4. Conclusions/ Reasons
5. Conclusions/ Reasons
6. Analysis
7. Analysis
8. Theory/ Proof
9. Theory/ Proof
10. Controversy
11. Controversy
12. Presentation

	英語（基礎作文Ⅲ）	担当者	佐野　裕美子

◆講義目的、講義概要

基本的な授業の進め方は前期と同様だが、前期の様子をみてアレンジする。

◆　評価方法

授業参加（出席, homework, presentation）60%
Course Portfolio 30%　自己評価　10%

◆テキスト、参考文献

石谷由美子・Emma Andrews 著
『Skills for Better Writing』南雲堂（¥1800）

◆授業計画

1. Introduction: group project meeting
2. Comparison/ Contrast
3. Classification
4. Instructions
5. Cause & Effect
6. Explanation (Statistics)
7. Explanation (New Product)
8. Explanation (New Product)
9. Group presentation
10. Definition
11. Description
12. Presentation

	英語（基礎会話Ⅲ）	担当者	L. Kハーキンス

◆講義目的、講義概要

第一回目の授業で指示する。

◆ 評価方法

第一回目の授業で指示する。

◆テキスト、参考文献

第一回目の授業で指示する。

◆授業計画

第一回目の授業で指示する。

	英語（基礎会話Ⅲ）	担当者	L. Kハーキンス

◆講義目的、講義概要

第一回目の授業で指示する。

◆ 評価方法

第一回目の授業で指示する。

◆テキスト、参考文献

第一回目の授業で指示する。

◆授業計画

第一回目の授業で指示する。

	英語（基礎会話Ⅲ）	担当者	T. Jフォトス

◆講義目的、講義概要

The main objectives of this English Conversation course for non-English majors are to improve each student's English skills. The emphasis will be on speaking and listening, although some reading and writing will also be practiced. The topics will be related to business subjects suitable for third and fourth year students.

Although some students may not feel so comfortable without any textbook, there won't be any textbook. There will be hand-outs or prints of various topics that will be used as the basis for improving vocabulary, pronunciation, and conversation. Students may use dictionaries as needed.

To a certain degree, there will be a focus on practical English conversational skills, especially those related to business. This will improve the students' overall English level and start pointing the way towards eventually making a living in the real world—and that most likely means being able to handle business vocabulary and concepts. The pace of learning will depend upon the level and progress of the class.

Students will be expected to actively participate in the class. Practice may not make one perfect, but it sure helps!

◆ 評価方法

Evaluation of each student will be on the basis of her or his mastering the course material which will be checked through quizzes (60%) and an end-of-term one-to-one interview (40%). Those seniors who find themselves so distracted from attending class sue to job-hunting tasks can expect to do extra studies and assignments outside of class to compensate for excessive absences. Such assignments will mainly be written reports and additional interviews with the instructor

◆授業計画

1 Introduction and first interview
2 Topic hand-out and brief lecture
3 Continued
4 Continued
5 Continued
6 Continued
7 Continued
8 Quiz and presentations
9 Topic and brief lecture
10 Continued
11 Continued
12 Continued
13 Continued
14 Oral interviews and evaluations

	英語（基礎会話Ⅲ）	担当者	T. Jフォトス

◆講義目的、講義概要

◆ 評価方法

◆テキスト、参考文献

◆授業計画

1 Topic introduced and explained
2 Continued
3 Continued
4 Continued
5 Continued
6 Continued
7 Quiz and presentations
8 Topic and short lecture
9 Continued
10 Continued
11 Continued
12 Continue
13 Continued
14 Final interviews and evaluations

英語（上級読解Ⅲ）	担当者	J. ウォールドマン

◆講義目的、講義概要

This course will provide students practice in a variety of reading tasks such as information gathering, problem-solving tasks and critical thinking. The class exercises will help students to become independent and active readers.

◆授業計画

Weeks 1-3 Classes will focus on introductions, explanations of the class, teacher's expectations of students and the first unit of the main textbook.

Weeks 4-6 Classes will involve expanding vocabulary, learning to guess unfamiliar meanings from context and sentence study exercises.

Weeks 7-9 A variety of other reading material will be used along with the main text of the class. Also included will be identifying main ideas, making inferences and responding to the readings.

Weeks 10-12 Classes will comprise building academic vocabulary, understanding slang expressions and a final examination.

◆評価方法

Students will be graded on attendance, class participation, homework and tests

◆テキスト、参考文献

Beyond True Stories. Sandra Heyer. Longman

英語（上級読解Ⅲ）	担当者	J. ウォールドマン

◆講義目的、講義概要

This course will provide students practice in a variety of reading tasks such as information gathering, problem-solving tasks and critical thinking. The class exercises will help students to become independent and active readers.

◆授業計画

Weeks 13-15 Classes will focus on paraphrasing main ideas, separating fact from opinion and reading a bar graph.

Weeks 16-18 Classes will focus on not only the textbook but also additional readings for comparison and variety of writing styles.

Weeks 19-21 Understanding cause and effect and identifying main ideas will be the highlight of these next three classes. Cause and effect patterns will be analyzed for effectiveness.

Weeks 22-24 The last three classes of the semester will focus on a review of learned material, including vocabulary, and a final examination.

◆評価方法

Students will be graded on attendance, class participation, homework and tests

◆テキスト、参考文献

Beyond True Stories. Sandra Heyer. Longman

	英語（上級作文Ⅲ）	担当者	保坂　華子

◆講義目的、講義概要

国際化社会にあって世界の動きを理解し、自分の考えを表現するには、英語で問題を捉え、自分のことばで正確に考えを伝えることも重要なスキルとなります。
このクラスでは、英語で提示された問題(issue)に関して、①まず「読んで理解」し、②自分の「考えをまとめ」、③その問題について「クラスで理解を深め」、④「考えを整理」し、⑤「自分のことばで表現する」「論じる」、という過程をつんでいきます。
語学の習得には「授業の参加者の積極性」が必要不可欠です。必ず予習や課題をし、辞書を持参してください。授業では順番に当てていきます。作文のクラスですから、どんどん書いていきましょう。進度を見ながら随時テキスト以外の教材も取り入れ、1-2 回に 1 章程度を予定しています。

◆　評価方法

出席状況(2/3 以上)、授業態度、提出物等を総合的に評価する。「積極性」―やる気と努力を重視する。

◆テキスト、参考文献

McMahon, R. *Presenting Different Opinions.*　南雲堂
リーダーズ英和辞典 など、各自辞書を用意のこと。

◆授業計画

1　　授業方法、注意事項、テキストの説明他
2　　Basic skills in paragraph writing
3 以降　基本的に Unit 1 から順に進みます。
　　(1-2 回に 1 章程度を予定)
学期末にかけて、期末の課題に取り組みます。
(また、夏休みのプロジェクトを予定しています。)

	英語（上級作文Ⅲ）	担当者	保坂　華子

◆講義目的、講義概要

前期の続きで、さらに「自分のことばで表現する」力、「理解する」力をつけましょう。
英語で「書く」、「自分のことばで論ずる」練習をしていきます。

◆　評価方法

出席状況(2/3 以上)、授業態度、提出物等を総合的に評価する。「積極性」―やる気と努力を重視する。

◆テキスト、参考文献

テキスト他、各自辞書を用意。例:『リーダーズ英和辞典』、*Collins COBUILD English Language Dictionary*

◆授業計画

1　　復習など
夏休みのプロジェクトの発表会　(前半に実施)
2 以降　基本的に前期の続きから順に進みます。
　　(1-2 回に 1 章程度を予定)
学期末にかけて、期末の大きな課題に取り組みます。
最終回　まとめ

	英語（上級会話Ⅲ）	担当者	P．ドーレ

◆講義目的、講義概要

Hi there. If you like meeting with lots of different people, sharing your opinions and talking about your experiences, then you might enjoy this class. The focus of this class is to help you build up your skills of conversation and language learning through frequent discussion with your classmates. In every class we will do pair work and group work, so you can get to know all of your classmates quite well. One of your main tasks in this class will be to record and review your conversations regularly. A couple of topics you can expect to express your opinions about and exercise your imagination on are 'job preferences' and 'folk stories'. As well as discussing these topics with each other we will also meet with other classes for discussions, when possible. It will be a fun, but challenging class. I look forward to getting to know you all and having a fun and challenging year together.
*Please note: Class content is subject to change.

◆ 評価方法

Exam, Journal, recorded conversation.

◆テキスト、参考文献

To be announced in April.

◆授業計画

1. Class introduction question and answer time.
2. Getting to know each other.
   Discussion topic: Personal background
3. Small talk and conversation starters.
4. Conversation fillers and conversation extending questions.
   Discussion topic: Life stages
5. Meeting and introducing other people. Conversation strategies review.
6. Conversation topic #2 recorded discussions.
7. Introduction to 'Folk Stories' and their characteristics. How to tell stories and story selection.
8. Story reading and retelling
9. Story telling task preparation.
10. Story telling task.
11. Semester review, test preparation and summer project introduction.

*Please note: Class content is subject to change.

	英語（上級会話Ⅲ）	担当者	P．ドーレ

◆講義目的、講義概要

If meeting and talking with all those people in the 1st half of the year made you happy, then keep smiling, because we will do even more this semester. However, if you found last semester challenging and think that you didn't get as much benefit as possible, then here is another chance. In this semester we are going to keep meeting people, having conversations, using our imaginations, and sharing our ideas and experiences with our classmates and other people. The focus is to improve upon skills learned in the 1st semester and continue recording and reviewing your conversations. Again, Mondays will be filled with the anticipation of what today's discussions will reveal. You may find yourself asking "*What interesting opinions will I hear today?*", or thinking "*I wasn't nervous today. Hooray!*" or even feeling "*Oh no! There's only 12 weeks of class left. I miss these people already!*" Be careful.....it could happen to you.

◆ 評価方法

Exam, Journal, recorded conversation.

◆テキスト、参考文献

To be announced in April.

◆授業計画

1. Class introduction, Q & A time and catching up on the each others Summer holidays.
2. Review of semester #1 and introduction of career goals topic.
3. Recorded discussion about career plans and preferences.
4. Cultural and societal differences in communication.
5. Recorded discussion about cultural differences.
6. Music and it's influence. Discussions about various genres of music and our preferences.
7. Preparation for recorded discussion task # 1
8. Recorded discussion task # 1
9. All about foreign travel, including currencies, culture etc. Conversation strategy: persuasive discussion.
10. Recorded discussion task # 2.
11. Review of semester content and test preparation.

*Please note: Class content is subject to change.

英語（上級会話Ⅲ）	担当者	R. M. ペイン

◆講義目的、講義概要

This course is intended for third and fourth year students majoring in French or German. It is designed to:

* help students improve their ability to communicate in spoken English;
* introduce students to the culture of American English.

We will begin the course with chapter 1 of the text and then students will decide which chapters to cover. One exception is chapter 4 which we will save for November and the Thanksgiving season.

Grades in this class will be based onatten-dance and participation. Three unexcused absences in one semester will result in a failing grade. (Fourth year students who will have to miss occasional classes for job-hunting will be expected to provide documentation of the reason for their ab-cense and to to make-up work. Details about this work will be provided during the first class.)

◆評価方法

grades will be based on attendance and parti-cipation

◆テキスト、参考文献

Everyday Situations for Communicating in English

◆授業計画

英語（上級会話Ⅲ）	担当者	R. M. ペイン

◆講義目的、講義概要

(same as first semester)

◆評価方法

◆テキスト、参考文献

◆授業計画

英語（上級会話Ⅲ）	担当者	R．ダラム

◆講義目的、講義概要
Purpose of the class; Class Summary:

This class will help students to think, use, and speak with Modern, everyday English.

"Wasei Eigo" will not be used; instead, we will learn and discuss topics and culture. We will learn to explain and elaborate.

In addition, listening skills and vocabulary can be improved by listening to English song exercises, and to some videos.

This class will focus on 'ACTIVE ENGLISH'!

◆評価方法 Evaluation: Your grade will depend on YOUR attendance; on YOUR class participation; and on YOUR quiz & exam results and any presentation results.

◆テキスト、参考文献

After assessing student needs & desires, the instructor may decide to select a textbook.

◆授業計画 Course Plan: (tentative)

Week 1: Introductions; song exercise.
Week 2: Review of Intros; practice; song exercise; "How's it going?"
Week 3: Review & practice: "How's it going?" +/- video exercise.
Week 4: "What are your hobbies?"; practice. Song exercise.
Week 5: "How was your ____?"; practice. Review of hobbies.
Week 6: "going to": the Future. Practice. Song exercise.
Week 7: review & practice of the Future. Song/video exercise.
Week 8: "What do you usually do ...?" with explanation & elaboration.
Week 9: Review of "What do you usually do...?"; song/video exercise.
Week 10: tentatively: Street Directions Song/video exercise.
Week 11: Review: street directions Song/video exercise.
Week 12: Review for examination; song/video exercise.
Week 13: Review; examination.

英語（上級会話Ⅲ）	担当者	R．ダラム

◆講義目的、講義概要

This class will continue to help you to think & reply in Modern English.

Listening abilities can be enhanced by song and/or video exercises.

"Wasei Eigo" will not be used.

Videos and/or songs may be used to help improve listening-comprehension skills.

The focus of this class: 'ACTIVE ENGLISH'!

◆評価方法 Your grade depends on YOUR class participation; on YOUR attendance; and on YOUR scores on quizes, presentations, and or exams.

◆テキスト、参考文献

A textbook may be selected, depending on student needs.

◆授業計画

Week 1: "How was your Summer?" Pair practice. Song/video exercise.
Week 2: "How often do you...?"; practice. Song/video.
Week 3: Review of "How often ...?"; song/video.
Week 4: Hallowe'en: let's learn about the history & customs of Hallowe'en! Hallowe'en video.
Week 5: Hallowe'en video, continued. "Would" vs. "Will": practice.
Week 6: "____ is a time when do ____.": talking about festivals & events in Japan and in other countries.
Week 7: "What do you think of ...?": giving your opinions.
Week 8: Song/video exercise. Preparing for Christmas presentations.
Week 9: Polite vs. not-so-polite questions. Song/video.
Week 10: Christmas presentations. Polite Qs reviewed.
Week 11: Christmas presentations; Christmas songs.
Week 12: Review for examination.

	英語（CAEL）	担当者	安井 美代子

◆講義目的、講義概要

ネットアカデミーというウエブ教材は(1) 語彙、(2) リーディング、(3) リスニング、(4)ライティングの４つからなる。この授業では主に(1)-(3)を使う。レベル分けテストの結果に基づいて、２ないし３レベルに分け、それぞれのレベルの応じて、週３時間以上の学習内容を課す。一斉授業は行わず、学内のＰＣを利用して各自の都合の良い時間に学習してもらう。但し、毎週水曜日の昼休み 12:30-13:00 に指定の教室に集まり、レベル毎の単語テストを受験してもらう。水曜日の予定は右の通り。単語テストの範囲は「講義支援システム」上でテスト前の日曜日までに公開する。

受講対象は全学部の２－４年生。３レベルに分ける場合、TOEIC600 点以上、450 点以上、350 点以上の３レベルを設定する予定である。詳しくは myasui@dokkyo.ac.jp に問い合わせること。学期中の学習相談は火曜日５限、水曜日３限、木曜日５限中央棟６０６にて対応する。

◆評価方法

指定教材の学習修了が単位取得の必須要件である。A-C の評価は１０回の単語テストおよび定期試験による。上位のレベルほどＡの割合を多くする。定期試験は、スタンダードコースのリーディング教材に準拠した問題５０％、その他の問題５０％を予定。

◆テキスト、参考文献

なし

◆授業計画

1　レベル診断テスト受験、ネットアカデミーの説明
2　ネットアカデミーの説明補足
3　第１回単語テスト
4　第２回単語テスト
5　第３回単語テスト
6　第４回単語テスト
7　第５回単語テスト
8　第６回単語テスト
9　第７回単語テスト
10　第８回単語テスト
11　第９回単語テスト
12　第１０回単語テスト

	英語（CAEL）	担当者	安井 美代子

◆講義目的、講義概要

春学期と同じ

◆　評価方法

春学期と同じ

◆テキスト、参考文献

なし

◆授業計画

1　学習指導
2　第１１回単語テスト
3　第１２回単語テスト
4　第１３回単語テスト
5　第１４回単語テスト
6　第１５回単語テスト
7　第１６回単語テスト
8　第１７回単語テスト
9　第１８回単語テスト
10　第１９回単語テスト
11　第２０回単語テスト
12　学習指導

2004年度

外国語学部共通科目シラバス

獨協大学

外国語学部共通科目
２００３年度以降入学者用

目　次

◇ … 春学期開講科目
◆ … 秋学期開講科目

総合講座	◇	若森榮樹	1
総合講座	◆	若森榮樹	1
情報科学概論a	◇	呉浩東	2
情報科学概論b	◆	呉浩東	2
情報科学各論（入門）	◇	各担当教員	3
情報科学各論（初級）「表計算入門」	◇・◆	各担当教員	4
情報科学各論（初級）「プレゼンテーション」	◇・◆	金井満	5
情報科学各論（初級）「HTML入門」	◇・◆	各担当教員	6
情報科学各論（中級）「表計算応用1」	◇・◆	松山恵美子	7
情報科学各論（中級）「HTML応用1」	◇	東孝博	8
情報科学各論（中級）「HTML応用1」	◆	金子憲一	9
情報科学各論（中級）「HTML応用1」	◆	田中雅英	10
情報科学各論（中級）「HTML応用2」	◆	東孝博	11
情報科学各論（中級）「データベース1」	◇	長崎等	12
情報科学各論（中級）「データベース1」	◆	松山恵美子	13
情報科学各論（中級）「データベース2」	◆	長崎等	12
情報科学各論（中級）「プログラミング論1」	◇	呉浩東	14
情報科学各論（中級）「プログラミング論2」	◆	呉浩東	14
経済原論a	◇	阿部正浩	15
経済原論b	◆	阿部正浩	15
社会心理学a	◇	田口正徳	16
社会心理学b	◆	田口正徳	16

03年度以降 02年度以前	総合講座 総合講座B	担当者	若森栄樹

◆講義目標

日本で「現代思想」と呼ばれている、現代ヨーロッパのもっとも先鋭的な思想への入門的な講座です。特に言語と思想のかかわりを中心に、ソシュールやフロイトから始まり、さまざまな思想家の世界に触れていきます。

担当の先生はテーマに従って変わります。その分野の専門の先生が直接授業をされるので、現代思想に興味のある学生諸君にはぜひ聴講いていただきたいと思います。

◆講義概要

いわゆる「現代思想」全体に対して、大まかな展望を与える講座となっています。具体的には、精神分析や言語学、そして構造主義およびポスト構造主義の哲学を解説し、理解していくことが目的です。最近日本では現代思想など「軽薄」で、どうでもよいと考え、そう公言する人が専門家のなかにもいますが、それは間違いで、多くの学ぶべきことがそこにはあります。

難解とされる現代思想が実は私たちの現実と深くかかわっていることを理解していただければと思っています。

さらに詳しい授業内容および担当者についての説明を用意しています。興味のある方は教務課まで申し出てください。

◆受講生への要望

単に知識を得るためではなく、自分でものを考え、自分で判断するためにこそ、私たちはものを学ぶのだということを忘れないこと。
本を読むのをいとわないこと。

◆評価方法

最初の授業の際指示します。

◆テキスト、参考文献

各担当の先生から指示があります。

◆授業計画

春学期

1. ガイダンス（若森栄樹）
2. 講座全体へのイントロダクション（若森栄樹）
3. ソシュールの言語学　（渡沼英二）
4. フロイトの精神分析学 1.（大原知子）
5. フロイトの精神分析学 2.（大原知子）
6. ジョルジュ・バタイユ（岩野卓司）
7. ワルター・ベンヤミン（工藤達也）
8. ジャック・デリダと脱構築（若森栄樹）
9. ミシェル・フーコー（桑田禮彰）
10. アドルノと否定の弁証法（船戸満之）
11. フランクフルト学派の諸相（船戸満之）
12. 現代における詩人（吉田文憲）

秋学期

1. 後期ガイダンス（若森栄樹）および現代フェミニズム 1.（井上たか子）
2. 現代フェミニズム 2.（井上たか子）
3. ソシュールの言語理論（渡沼英二）
4. 精神分析の現在――ジャック・ラカン（大原知子）
5. 精神分析の現在――クライン、クリステヴァ（大原知子）
6. コジェーヴ、ラカンと日本（若森栄樹）
7. ミシェル・フーコー（桑田禮彰）
8. ワルター・ベンヤミン（工藤達也）
9. アドルノと「ホロコースト」（船戸満之）
10. フランクフルト学派（船戸満之）
11. 現代思想の諸問題－まとめ（若森栄樹）
12. 詩とは何か？　（吉田文憲）

03年度以降 02年度以前	情報科学概論a 情報科学概論	担当者	呉　浩東

◆講義目的、講義概要

本講義では、文系学生のための情報科学とコンピュータリテラシーから着目し、コンピュータの歴史と仕組み、情報のデジタル化・マルチメディア化、コンピュータによるデータの表現や、コンピュータの原理を紹介する。本講義はコンピュータのソフトの使い方ではなく、情報に関する知識を身につく方や情報関係資格を目指している方に役を立つように工夫している。

本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係を概説し、コンピュータのハードウェアとソフトウェア、コンピュータの動作概要などを解説する。次に、情報の符号化、コンピュータ内のデータ表現、プログラム構造、ソフトウェアの開発の手法について述べる。

◆　評価方法

・レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。

◆テキスト、参考文献

（1）　最初の講義で指示する。
（2）　必要な資料を配布する。

◆授業計画

1 講義の概要と目標
2 情報とは何か
　情報の性質、情報の形態、情報の発達
3 コンピュータの歴史と特徴
　計算機械の変遷とコンピュータの世代論
4 数の体系と基数変換
　２進数と１６進数、基数変換、2進数の演算
5 コンピュータの論理回路とデータ表現
6 コンピュータの構成要素（1）
　中央処理装置（CPU）とメインメモリ
7 コンピュータの構成要素（2）
　２次記憶装置と周辺措置
8 コンピュータ・ソフトウェアの概略
　ソフトウェアの役割、体系と種類
9 オペレーティングシステム（OS）
　OSの基礎概念、OSの役割と原理
10 コンピュータ言語
　コンピュータ言語の分類と目的
11 基本データ構造
　配列構造、木構造、リスト構造、スタック構造
12 ソフトウェア開発手順
　システム分析と設計、プログラム開発と保守

03年度以降 02年度以前	情報科学概論b 情報科学概論	担当者	呉　浩東

◆講義目的、講義概要

本講義では、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データブース技術などに重点を置き、コンピュータ活用技術に関するさまざまな知識を概説する。

◆　評価方法

・レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。

◆テキスト、参考文献

（1）　最初の講義で指示する。
（2）　必要な資料を配布する。

◆授業計画

1 ファイルの構造
　ファイルの種類と構造
2 データベース
　データベースの概要、データベースの種類
3 データベース管理システム（DBMS）
　DBMSの目的と構成
4 データベースの設計
　データベース構築の手順、データの正規化
5 コンピュータ・ネットワーク
　ネットワークの種類、LANの構成とアクセス方式、サーバー・クライアントモデル
6 インターネット
　インターネットの仕組み、通信規約TCP/IP、IPアドレス、DNS
7 インターネットサービス
　World Wide Web、情報検索、電子メールなど
8 インターネットと社会
　ネットワークセキュリティ、暗号システム、電子認証
9 マルチメディアの利用
　画像処理、音声処理、応用システム
10 情報検索
　情報検索の方法と演習
11 オンライン・ソフトウェア
　オンライン・ソフトウェアの使い方と使用
12 まとめ

03年度以降 02年度以前	情報科学各論(入門) コンピュータ入門	担当者	各担当教員

◆講義目的、講義概要

現在、膨大な情報の中から「自らに必要なもの」を探し出し、「効率的かつ効果的」に活用する場合の中心となるのはコンピュータである。この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータネットワークについて学んでいく。とくに大学生活(広くは社会生活)で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。

コンピュータ初心者を対象に、1人で1台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータネットワーク(通信)、情報倫理についてである。

注意

第1回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。

実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。

◆評価方法

授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。

◆テキスト

『学生のためのコンピュータ活用Ⅰ』

◆授業計画

1 ガイダンスとコンピュータの基本操作
2 ウィンドウズ入門—ウィンドウ操作とアプリケーション
3 日本語入力とタイピング
4 インターネット—ブラウザ・メール・検索
5 情報倫理
6 ワードプロセッサとは
7 文書の作成（1）
8 文書の作成（2）
9 文書の作成（3）
10 文書への画像の挿入
11 レポートの作成
12 総合演習

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論(初級－表計算入門) 情報科学各論(初級－表計算入門)	担当者	各担当教員

◆講義目的、講義概要

この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。

この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。

注意

第１回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。

実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。

◆評価方法

授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。

◆テキスト

『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』

◆授業計画

1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習
2 表の作成(文字の入力)、グラフの作成
3 表の編集、グラフの装飾、印刷
4 計算式の利用
5 ネットワークからのデータの収集・整理
6 関数の利用（1）
7 関数の利用（2）
8 関数の利用（3）
9 プレゼンテーション（1）―作成（MS-Powerpoint とは）
10 プレゼンテーション（2）―作成（データの活用・まとめ）
11 プレゼンテーション（3）―発表
12 総合演習

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論(初級－表計算入門) 情報科学各論(初級－表計算入門)	担当者	各担当教員

◆講義目的、講義概要

この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。

この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。

注意

第１回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。

実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。

◆評価方法

授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。

◆テキスト

『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』

◆授業計画

1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習
2 表の作成(文字の入力)、グラフの作成
3 表の編集、グラフの装飾、印刷
4 計算式の利用
5 ネットワークからのデータの収集・整理
6 関数の利用（1）
7 関数の利用（2）
8 関数の利用（3）
9 プレゼンテーション（1）―作成（MS-Powerpoint とは）
10 プレゼンテーション（2）―作成（データの活用・まとめ）
11 プレゼンテーション（3）―発表
12 総合演習

03年度以降 02年度以前	情報科学各論（初級―プレゼンテーション） 情報科学各論（初級―プレゼンテーション）	担当者	金井満

◆講義目的、講義概要

講義の目標：

この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。

講義概要：

この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアである Powerpoint を使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。

ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。

◆ 評価方法

授業内での個人プレゼンテーション。

◆テキスト、参考文献

授業で指示します。

◆授業計画

1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習
2. Powerpoint の基本操作 1
3. Powerpoint の基本操作 2
4. Powerpoint の基本操作 3
5. Powerpoint の基本操作 4
6. Powerpoint の基本操作 5
7. プレゼンテーションの注意点と個人プレゼンテーションの準備
8. 個人プレゼンテーションの準備
9. 個人プレゼンテーション
10. 個人プレゼンテーション
11. 個人プレゼンテーション
12. 総括

03年度以降 02年度以前	情報科学各論（初級―プレゼンテーション） 情報科学各論（初級―プレゼンテーション）	担当者	金井満

◆講義目的、講義概要

講義の目標：

この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。

講義概要：

この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアである Powerpoint を使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。

ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。

◆ 評価方法

授業内での個人プレゼンテーション。

◆テキスト、参考文献

授業で指示します。

◆授業計画

1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習
2. Powerpoint の基本操作 1
3. Powerpoint の基本操作 2
4. Powerpoint の基本操作 3
5. Powerpoint の基本操作 4
6. Powerpoint の基本操作 5
7. プレゼンテーションの注意点と個人プレゼンテーションの準備
8. 個人プレゼンテーションの準備
9. 個人プレゼンテーション
10. 個人プレゼンテーション
11. 個人プレゼンテーション
12. 総括

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論(初級－HTML 入門) 情報科学各論(初級－HTML 入門)	担当者	各担当教員

◆講義目的、講義概要

この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。

この授業では先ず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つであるWWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。

注意

第１回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。

実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。

◆評価方法

授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。

◆テキスト

『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』

◆授業計画

1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習
2 WWW と LAN
3 情報の単位と情報通信
4 ハイパーテキストと HTML
5 インターネットと情報倫理
6 ページの構造と HTML
7 ホームページの作成―テキスト
8 ホームページの作成―イメージ
9 ホームページの作成―リンク
10 ホームページの作成―テーブル・その他
11 ホームページの作成―完成
12 ファイルの転送とページの更新

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論(初級－HTML 入門) 情報科学各論(初級－HTML 入門)	担当者	各担当教員

◆講義目的、講義概要

この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。

この授業では先ず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つであるWWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」（Hyper-Text Markup Language）を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。

注意

第１回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。

実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。

◆評価方法

授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。

◆テキスト

『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』

◆授業計画

1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習
2 WWW と LAN
3 情報の単位と情報通信
4 ハイパーテキストと HTML
5 インターネットと情報倫理
6 ページの構造と HTML
7 ホームページの作成―テキスト
8 ホームページの作成―イメージ
9 ホームページの作成―リンク
10 ホームページの作成―テーブル・その他
11 ホームページの作成―完成
12 ファイルの転送とページの更新

03年度以降 02年度以前	情報科学各論（中級―表計算応用１） 情報科学各論（中級―表計算応用１）	担当者	松山恵美子

◆講義目的、講義概要

本講義は表計算ソフト（MS-Excel）の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。

Excelに用意されている機能のひとつに「マクロ」機能がある。Excelでデータを処理する過程で、計算式、関数、書式設定など同じ一連の操作を何度か繰り返す必要が出てくる場合がある。「マクロ」機能とは、そのような一連の操作を登録することで、次回からは登録した「マクロ」を呼び出し実行させるというものである。

簡単な「マクロ」を作成しながら、マクロ機能で作成されたVBA(Visual Basic for Application)プログラムの基礎を理解することを目標とする。

ツールバー上のボタンを利用すると、処理が行われるが、それと同じようなボタンを自分自身で作成できるということを「マクロ」機能を通じて学習する。

――（重要）――――

定員は30名とする。希望者が30名以上の場合は抽選を行う。必ず第1回目の授業に出席すること。

◆　評価方法

出席と課題作成。出席は重視する。

◆テキスト、参考文献

第1回目の授業で指示する。必ず出席すること。

◆授業計画

1　ガイダンスとExcelの復習

2　マクロ機能とは

3　関数と計算式を使ったマクロの作成（1）

4　関数と計算式を使ったマクロの作成（2）

5　マクロ用ボタンとマクロの連携（1）

6　第1回目課題作成

7　Visual Basic Editorの利用（1）

8　Visual Basic Editorの利用（2）

9　第2回目課題作成

10　最終課題作成（1）

11　最終課題作成（2）

12　最終課題作成（3）

03年度以降 02年度以前	情報科学各論（中級―表計算応用１） 情報科学各論（中級―表計算応用１）	担当者	松山恵美子

◆講義目的、講義概要

本講義は表計算ソフト（MS-Excel）の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。

Excelに用意されている機能のひとつに「マクロ」機能がある。Excelでデータを処理する過程で、計算式、関数、書式設定など同じ一連の操作を何度か繰り返す必要が出てくる場合がある。「マクロ」機能とは、そのような一連の操作を登録することで、次回からは登録した「マクロ」を呼び出し実行させるというものである。

簡単な「マクロ」を作成しながら、マクロ機能で作成されたVBA(Visual Basic for Application)プログラムの基礎を理解することを目標とする。

ツールバー上のボタンを利用すると、処理が行われるが、それと同じようなボタンを自分自身で作成できるということを「マクロ」機能を通じて学習する。

――（重要）――――

定員は30名とする。希望者が30名以上の場合は抽選を行う。必ず第1回目の授業に出席すること。

◆　評価方法

出席と課題作成。出席は重視する。

◆テキスト、参考文献

第1回目の授業で指示する。必ず出席すること。

◆授業計画

1　ガイダンスとExcelの復習

2　マクロ機能とは

3　関数と計算式を使ったマクロの作成（1）

4　関数と計算式を使ったマクロの作成（2）

5　マクロ用ボタンとマクロの連携（1）

6　第1回目課題作成

7　Visual Basic Editorの利用（1）

8　Visual Basic Editorの利用（2）

9　第2回目課題作成

10　最終課題作成（1）

11　最終課題作成（2）

12　最終課題作成（3）

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論(中級－HTML 応用 1) 情報科学各論(中級－HTML 応用 1)	担当者	東　孝博

◆講義目的、講義概要

Javaは1995年にSun Microsystems社が発表し、インターネット時代のコンピュータ言語と言われている。プログラミングの経験のない人間がJavaを理解するのは大変難しいとされているが、ここでは、HTMLから呼び出されて実行されるアプレットによるWebページ上のグラフィックス描写を通して、Java言語の一端を知ることを目標とする。

最初に、簡単なCGIの利用とJavaスクリプトの埋め込みを通して、HTMLによるWebページ作りの復習をする。次に、Javaアプレットの概要を説明する。そして、プログラムを構成する要素である変数、配列、文などと、イメージの表示やグラフィックスの描画の方法を、プログラミングの経験がないことを前提に説明する。

注意

情報科学各論(初級)「HTML 入門」修了者か、または、それと同等程度の者を対象とする。

◆評価方法

日常の授業への参加態度と演習により評価をつける。

◆テキスト

プリントを配布する。

◆授業計画

1　授業内容説明
2　HTML の復習（簡単な CGI の利用）
3　HTML の復習（Java スクリプトの埋め込み）
4　Java アプレットの概要
5　プログラム練習（グラフィックスイメージの表示）
6　プログラム練習（定数と変数）
7　プログラム練習（for 文 1）
8　プログラム練習（for 文 2）
9　プログラム練習（if 文）
10　プログラム練習（配列）
11　プログラム練習（Math オブジェクト）
12　総合演習

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（中級－HTML 応用 1） 情報科学各論（中級－HTML 応用 1）	担当者	金子憲一

◆ 講義目的、講義概要

この授業は、コンピュータ初級の授業「HT ML 入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人（FTP の理解を含む）を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コミュニケーション技術を得ることを目標とする。

この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及びHTML、FTP などの復習を行う。次に JavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。

◆ 評価方法

課題と平常点（宿題含む）で総合評価する。出席は重視する。最低限のルール（禁飲食等）を守れない場合は、即時失格とする。

◆テキスト、参考文献

授業中に指示する。
プリントの配布も行う。

◆ 授業計画

1 ガイダンスとイントロダクション
2 HTML と FTP の復習（1）
3 HTML と FTP の復習（2）
4 インタラクティブなページ（HTML と CGI）
5 CUI と GUI
6 JavaScript（1）
7 JavaScript（2）
8 JavaScript（3）
9 JavaScript（4）
10 CGI の利用（1）
11 CGI の利用（2）
12 総合報告会

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（中級－HTML 応用 1）	担当者	田中　雅英

◆講義目的、講義概要

この授業は情報科学各論(初級)「HTML 入門」に続く中級コースである。HTML 入門を受講済みの学生を対象に，単に HTML 言語の更なる発展を目指すのではなく，CGI や Java Script にまで範囲を広げる。もちろん単にホームページ作成ということを目標とするのではなく，その過程においてコンピュータやネットワークの理解を深め，それの積極的な利用方法の理解にまで話を進める。基本的には，一方向の情報発信ではなく，インタラクティブな双方向のコミュニケーションを図ることにより，情報処理としての広範囲な知識の整理を図りたい。

なお，この授業計画はあくまで一つの目安であり，途中で更なる発展を目指す変更は当然ありえる。

◆ 評価方法

授業中に指示する課題と平常点で評価する。

◆テキスト、参考文献

授業中に適宜指示する。

◆授業計画

1. ガイダンスと復習
2. Web ページのネットへのアップロード等
3. Java Script 1
4. Java Script 2
5. Java Script 3
6. Java Script 4
7. CGI 1
8. CGI 2
9. 情報の収集 1
10. 情報の収集 2
11. 応用
12. その他

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論(中級－HTML 応用 2) 情報科学各論(中級－HTML 応用 2)	担当者	東　孝博

◆講義目的、講義概要

Javaは1995年にSun Microsystems社が発表し、インターネット時代のコンピュータ言語と言われている。プログラミングの経験のない人間がJavaを理解するのは大変難しいとされているが、ここでは、HTMLから呼び出されて実行されるアプレットによるWebページ上のグラフィックス描写を通して、Java言語の一端を知ることを目標とする。

最初に、Javaの基本構造を説明する。続いて、マウスやキーに対するイベント処理、ボタン等のGUI部品の使用、スレッド機能を利用したリアルタイム処理を通してJavaアプレットへの理解を深める。

注意

情報科学各論(中級)「HTML 応用 1」修了者か、または、それと同等程度の者を対象とする。

◆評価方法

日常の授業への参加態度と演習により評価をつける。

◆テキスト

プリントを配布する。

◆授業計画

1　Java の基本構造
2　イベント処理（マウスイベント 1）
3　イベント処理（マウスイベント 2）
4　イベント処理（キーイベント 1）
5　イベント処理（キーイベント 2）
6　GUI 部品の使用（ボタン・チェックボックス）
7　GUI 部品の使用（選択ボックス・スクロールバー）
8　GUI 部品の使用（GUI 部品のレイアウト）
9　スレッドの利用（イメージの移動）
10　スレッドの利用（色の変化・時計）
11　スレッドの利用（スレッドを利用したゲーム）
12　総合演習

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（中級－データベース 1） 情報科学各論（中級－データベース 1）	担当者	長崎　等

◆講義目的、講義概要

本講義は表計算ソフトウェア（Excel）の基礎をマスターした学生を対象として、Excel を利用してデータベースの基礎概念及び利用方法について学習する．高度情報化社会といわれる現代においては，昔と違い膨大な量の情報がうずまいている．そういった情報の中からいかに的確な情報を取り出すかというのが大きな課題である．その方法論的な答えの 1 つとしてデータベースがある．
データベースの基本的な考え方や利用の仕方について，比較的なじみのある表計算ソフトウェアを利用して実習を行い，学習するのが本講義の目的である．

＜受講者への要望＞
情報科学各論（初級ー表計算入門）　を既修，またはそれと同等程度の知識があることが望ましい．
第 1 回目の授業には必ず出席すること．
遅刻は厳禁とします．　また実習を主体とする科目なので休まずに出席すること．

◆　評価方法

出席及びレポート課題，　さらに実習試験によって評価します．

◆テキスト、参考文献

1 回目の授業で指示します．

◆授業計画

1 ガイダンスとコンピュータ利用の復習

2 データベースについての調査

3 データベースの基本概念

4 並べ替え

5 集計

6 レコードの抽出

7 条件検索 1

8 条件検索 2

9 データベース関数

10 クロス集計とピボットテーブル

11 まとめ

12 実習試験

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（中級－データベース 2） 情報科学各論（中級－データベース 2）	担当者	長崎　等

◆講義目的、講義概要

本講義は「データベース 1」を履修済みの学生を対象として、Access を利用してデータベースの概念や設計方法について学習する．
Access の基本的な使い方やデータベースの概念を学習した後に，　グループごとに与えられた要求をもとにデータベースの設計及び作成をおこなってもらう．　グループ単位での演習を通じて，データベースの概念や設計に対する理解を深める．
＜受講者への要望＞
情報科学各論（中級）　「データベース 1」を既修，またはそれと同等程度の知識があることが望ましい．　第 1 回目の授業には必ず出席すること．　遅刻は厳禁とします．　またコンピュータの実習を主体とする科目なので休まずに出席すること．

◆　評価方法

出席及びレポート課題によって評価します．

◆テキスト、参考文献

30H で理解できるアクセス 2000 ，　実教出版
図解雑学データベース，ナツメ出版

◆授業計画

1 データベースの概念と機能

2 Access の基本操作

3 テーブル

4 テーブルと結合

5 クエリー（1）

6 クエリー（2 ）

7 グループによるテーブル設計 1
（ハイレベルエンティティ分析）
8 グループによるテーブル設計 2
（関係データ分析）
9 グループによるテーブル設計 3
（テーブル作成）
10 グループによるクエリ設計 1
（外部スキーマの設計）
11 グループによるクエリ設計 1
（クエリの作成）
12 グループによるプレゼンテーション

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（中級―データベース１） 情報科学各論（中級―データベース１）	担当者	松山恵美子

◆講義目的、講義概要

本講義は表計算ソフト（MS-Excel）の基礎をマスターした学生を対象として行うものである。

データには数値データと文字データがあるが、Excel ではそのどちらも同じように扱うことができる。膨大な量の情報のなかから、自分が必要とするデータを的確に抽出するには、数値データと文字データ両方の処理知識が必要となる。

ネット上からデータをダウンロードし、データベースの形式に加工する方法、情報をデータベース機能を利用して処理する方法などを取得することを目標とする。

授業の後半では、自分自身でデータベースを構築し、加工、分析、まとめ（発表）という一連の過程を行う。その過程からデータベースの基本的な概念を学習する。

――（重要）――

定員は 30 名とする。30 名を超える場合には抽選とする。第 1 回目の授業で行うので、必ず出席すること。

◆ 評価方法

出席およびレポート課題。

◆テキスト、参考文献

「Windows による情報活用」　共立出版

◆授業計画

1　ガイダンスおよび Excel の復習

2　データベースとはーデータの配布

3　並べ替え機能と集計

4　レコードの抽出と検索

5　第 1 回目課題作成

6　クロス集計（1）

7　クロス集計（2）

8　第 2 回目課題作成

9　データベースの構築（1）

10　データベースの構築（2）、最終課題作成（1）

11　最終課題作成（2）

12　最終課題作成（3）

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（中級―プログラミング論１） 情報科学各論（中級―プログラミング論１）	担当者	呉　浩東

◆講義目的、講義概要

コンピュータで問題解決のプログラムを作成することを「プログラミング」と呼びます。本講義では、プログラムをどう作成するか、プログラミング言語はどのような構造を持つか、どのような手順で行うか、データをどのような形にして扱うかについて解説と実習によって明らかにします。履修者にプログラミングのノウハウや方法を身につけることに目指します。

初めにコンピュータの構成要素やプログラミング言語について概説します。続いて、プログラミング言語の一つであるVisual　Basicを用いてプログラミングの設計手順や方法、プログラミング言語の構造、プログラムの仕組みなどについて学習する。いくつのプログラムの設計について講義および実習を行います。

◆　評価方法

・定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。

◆テキスト、参考文献

（1）最初の講義で指示する。
（2）必要な資料をファイルで配布する。

◆授業計画

1 授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説
2 プログラミング言語の発展史
3 開発ツールとしてのVisual Basicの基本
　Visual Basicの画面構成、プログラム開発の流れ
4 Visual Basicの基本操作
　コントロール配置、プロパティ設定、コーディング
5 簡単なプログラムの作成
　プログラム開発の流れ、プログラムの動作を確認する
6 基本的コントロール
7 オブジェクトと変数
8 選択構造をもつプログラム（1）
　条件選択構造、プログラムの設計とコーディング
9 選択構造をもつプログラム（2）
　多重選択、複数の選択のあるプログラムの設計
10 繰り返しあるプログラムの作成（1）
11 繰り返しあるプログラムの作成（2）
12 総合練習
　アプリケーションの試作

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（中級―プログラミング論２） 情報科学各論（中級―プログラミング論２）	担当者	呉　浩東

◆講義目的、講義概要

◆　評価方法

・レポートの提出および出席状況を加味して評価する。

◆テキスト、参考文献

必要な資料をファイルで配布する。

◆授業計画

1 前期の復習
2 配列とコントロール配列
　配列変数の宣言、配列の使い方
3 ファイル操作（1）
　シーケンシャルアクセス：データの読み書き
4 ファイル操作（2）
　ランダムファイルとランダムアクセス
5 個人情報データベースの設計
6 コントロールの活用
7 応用的なテクニック
8 探索
　二分探索、併合、逐次探索
9 ソート
　選択ソート、挿入ソート
10 文字列の処理
　文字列の照合と置き換え
11 再帰というプログラミング手法
12 さまざまなグラフィックスの処理

03年度以降 02年度以前	経済原論a 経済原論	担当者	阿部　正浩

◆講義目的、講義概要

講義の目的
「経済学の考え方」とは何かから始め、経済学をツールとして「現代社会の問題をどのように分析すればよいのか」まで理解できるようにする。

講義概要
テキストのないように沿って講義は行う。なお、ほとんど毎回課題を課すので、それを自習し、提出すること。詳細については初回の講義で説明する。

◆　評価方法
課題提出および期末テストの成績による

◆テキスト、参考文献
「入門経済学」ジョセフ・E・スティグリッツ（東洋経済新報社）

◆授業計画

1．オリエンテーション
2．経済学の考え方
3．取引と貿易
4．需要と供給と価格
5．予備日
6．需要・供給分析の応用（その1）
7．需要・供給分析の応用（その2）
8．時間とリスク（その1）
9．時間とリスク（その2）
10．　公共部門（その1）
11．　公共部門（その2）
12．　予備日

03年度以降 02年度以前	経済原論b 経済原論	担当者	阿部　正浩

◆講義目的、講義概要

同上

◆　評価方法
課題提出および期末テストの成績による

◆テキスト、参考文献
「入門経済学」ジョセフ・E・スティグリッツ（東洋経済新報社）

◆授業計画

1．オリエンテーション
2．GNPとは（その1）
3．GNPとは（その2）
4．マクロ経済学と完全雇用（その1）
5．マクロ経済学と完全雇用（その2）
6．経済成長（その1）
7．経済成長（その2）
8．失業と総需要（その1）
9．失業と総需要（その2）
10．　インフレーション（その1）
11．　インフレーション（その2）
12．　予備日

03 年度以降 02 年度以前	社会心理学 a 社会心理学（通年）	担当者	田口　雅徳

◆講義目的、講義概要

社会心理学とは，社会と個人の関わりという観点から，社会における個人の認知や行動を研究する学問である。個人の行動や認知過程は少なからず，個人をとりまく他者，環境，文化などに影響される。本講義では，こうした点を近年の研究動向を踏まえて概説していく。年間を通じての講義の概要は以下の通りである。

1．社会心理学とは
2．行動の社会化と発達
3．集団と個人の行動
4．環境と人間の認知・行動
5．他者認知と自己認知
6．現代社会と個人の行動

◆　評価方法

出席，レポート，学期末の試験により評価をおこなう。

◆テキスト、参考文献

テキストはとくに使用しない。プリントによる。
参考文献は授業において指示する。

◆授業計画

1．授業ガイダンス
2．社会心理学とは？
3．社会的行動の発達①
4．社会的行動の発達②
5．社会的行動の発達③
6．社会的行動の発達④
7．集団と個人の行動①
8．集団と個人の行動②
9．集団と個人の行動③
10．集団と個人の行動④
11．対人関係の心理①
12．対人関係の心理②

03 年度以降 02 年度以前	社会心理学 b 社会心理学	担当者	田口　雅徳

◆講義目的、講義概要

講義目的および講義概要は上記を参照。

◆　評価方法

出席，レポート，学期末の試験により評価をおこなう。

◆テキスト、参考文献

テキストはとくに使用しない。プリントによる。
参考文献は授業において指示する。

◆授業計画

1．社会的環境と人間の心理①
2．社会的環境と人間の心理②
3．文化と人間の行動①
4．文化と人間の行動②
5．文化と人間の行動③
6．文化と人間の行動④
7．社会的認知①
8．社会的認知②
9．社会的認知③
10．社会的認知④
11．現代社会と心理①
12．現代社会と心理②